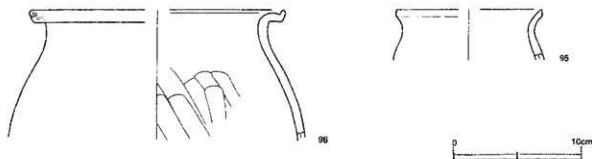


遺物出土状況 土師器片39点(寛), 須恵器片1点(坏), 縄文土器片1点, 陶器片5点が出土している。95は北西コーナー床面, 96はP9の覆土中から出土している。

所見 本跡は耕作による削平のため残存状態は悪いが, 時期は出土土器から8世紀中頃と考えられる。



第149図 第41号住居跡出土遺物実測図

第41号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	寸法	器高	底径	胎土	色	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
95	土師器	寛	11.4	(4.0)	—	赤粘	にぶい粉	普通	口縁部落ナテ	北西コーナー床面	3%
96	土師器	寛	30.1	(10.3)	—	赤母・長石・石英	粘	普通	体部外面ナテ・内面ヘラナテ	アリ覆土中	5%

第42号住居跡 (第150・151回)

位置 調査区東部, D8c8区の縦斜面部に立地し, これより南方向は小谷となるため住居跡の存在は確認されていない。北西には第41号住居跡が位置している。

重複関係 竈手前を第67号土坑, 南東コーナーを第68号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.50m, 短軸2.74mの長方形で, 主軸はN-33°-Wである。壁高は4~21cmで, 各壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平川で, 中央部から南西部がよく踏み固められ, 壁溝は南東コーナーを除き周回している。

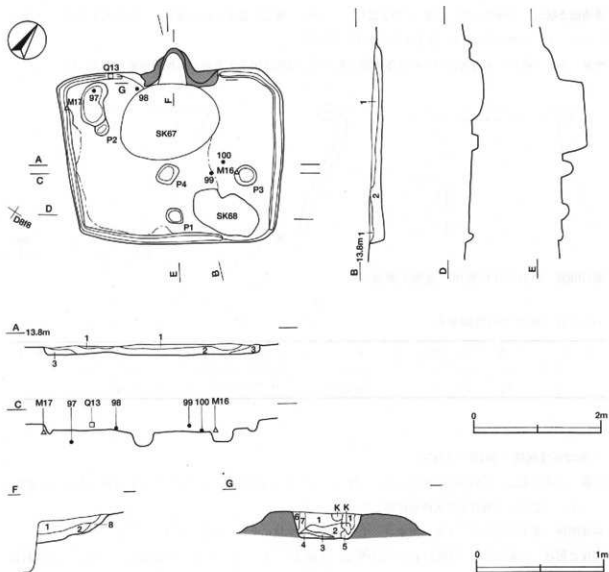
竈 北西壁中央部に付設され, 砂質粘土で構築されている。第67号土坑に掘り込まれているため規模を明確にすることができないが, 確認された焚口から煙道部までの最大長は57cm, 両袖部幅は134cmで, 天井部は崩落している。第2層は燃焼部に堆積した焼土屑で, 煙道部は壁外へ38cm延び, 火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------|---------|-----------------------|
| 1 暗 褐 色 | 焼土ブロック多量・砂粒少量 | 6 にぶい褐色 | 粘土粒子多量, 砂粒中量, 焼土粒子少量 |
| 2 暗 小 褐色 | 焼土粒子多量, 赤化した砂粒中量 | 7 暗 褐色 | 砂粒中量, ローム粒子・焼土ブロック・炭化 |
| 3 暗 色 | 砂粒多量, 焼土粒子・粘土粒子少量 | 8 暗 褐色 | 泥・粘土粒子少量 |
| 4 暗 色 | 焼土ブロック少量, 粘土粒子・砂粒少量 | | |
| 5 暗 色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

ピット 4か所。P1は深さ13cmで南壁中央部寄りに位置するため, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P2~4は性格不明である。



第150図 第42号住居跡実測図

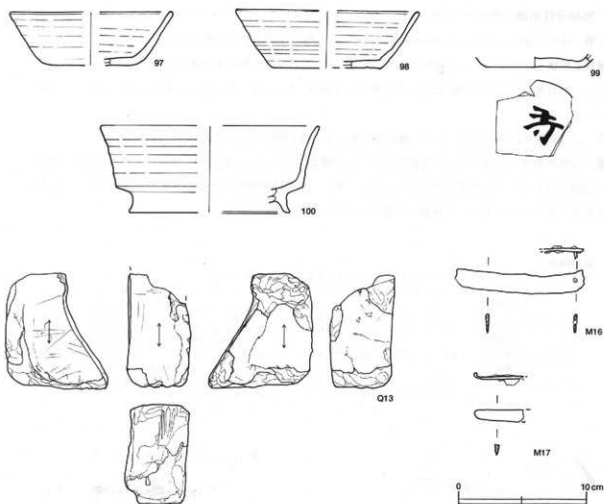
覆土 3層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック・砂粒中量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量、砂粒少量、焼土ブロック微量 | |

遺物出土状況 土師器片65点（坏1，高坏3，甕61），須恵器片37点（坏32，高台付坏3，蓋2），縄文土器片1点，土師質土器片1点，陶器片3点，石製品1点（砥石），鉄製品2点（手鎌1，刀子1）が出土している。97はP2の覆土中，98・Q13は竈左袖部脇の北西壁際床面，M17は北西コーナー寄りの壁溝からそれぞれ出土している。99・100は中央部から東壁寄りの下層から床面にかけて出土，M16はP3の上層から出土し，99の底部には「寺カ」と墨書されている。

所見 時期は出土土器から8世紀後半と考えられ，「寺カ」と墨書された土器が出土しているが，周辺部に寺院の存在した可能性も考えられる。



第151図 第42号住居跡出土遺物実測図

第42号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
97	須恵器	坏	[12.8]	4.2	7.1	雲母・長石・石英	灰白	普通	底部のワケ筋がほぼ多方向のへう筋	P 2 覆土中	40%, PL23
98	須恵器	坏	[14.4]	4.5	[8.8]	雲母・長石・石英	灰	普通	底部のワケ筋がほぼ多方向のへう筋	北西壁際床面	20%
99	須恵器	坏	—	(1.1)	7.9	雲母・長石	黄灰	普通	底部多方向のへう筋	中央部床面	底部磨削(3+)10%
100	須恵器	高台付坏	[17.4]	6.9	[12.7]	長石・石英	灰	普通	高台部付け角コブナデ	中央部床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q13	砥石	9.0	8.1	4.9	386.0	凝灰岩	上部部へ薄部欠損部がほぼ多方向の磨痕	北西壁際床面	PL36

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
M16	手鎌	10.2	1.9	0.8	10.2	鉄	孔径2.1, 刃部7.6	P 3 上層	PL38

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
M17	刀子	(3.9)	0.9	0.3	(2.6)	鉄	基部欠損, 切刃彎曲	北西コーナー壁際	

第46号住居跡 (第152～155図)

位置 調査区東部、D8b3区の緩斜面部に立地し、南西には第45号住居跡が位置している。

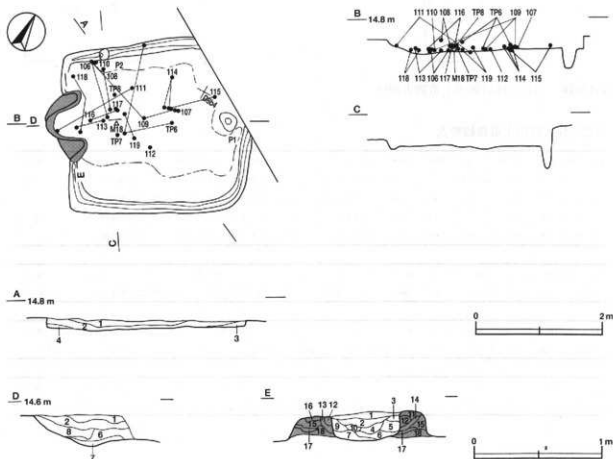
規模と形状 北東コーナーが調査区域外に延びているため全体の形状を明確にすることができなかったが、確認された長軸は2.97m、短軸は2.78mの方形で、主軸は、N-122°-Wである。壁高は12～27cmで、各壁は直立している。

床 ほほ平坦で、出入口ピットから竈周辺部までよく踏み固められ、壁溝が周囲している。

竈 西壁中央部に付設され、砂質粘土とロームで構築されている。焚口から煙道部までの最大長は72cm、両袖部幅は114cmで、天井部は遺存していない。第1～7層は燃焼部に堆積した焼土ブロックを多く含む層で、煙道部は壁外へ32cm延び、火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

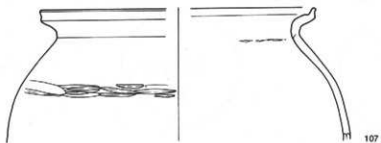
- | | | | |
|---------|---------------------------|-----------|-------------------------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 8 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック中量、炭化粒子微量 | 9 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 |
| 3 暗 赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子微量 | 10 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 |
| 4 暗 赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 11 暗 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、粘土粒子少量 |
| 5 暗 赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 12 暗 赤褐色 | ロームブロック・砂粒中量、粘土粒子少量 |
| 6 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 13 におい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量 |
| 7 暗 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 14 暗 赤褐色 | 焼土ブロック・砂粒中量、粘土粒子少量 |
| | | 15 暗 褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子・砂粒少量 |
| | | 16 におい赤褐色 | 粘土粒子中量、砂粒少量 |
| | | 17 暗 褐色 | ローム粒子中量 |
| | | 18 暗 褐色 | ロームブロック多量 |



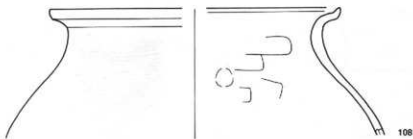
第152図 第46号住居跡実測図



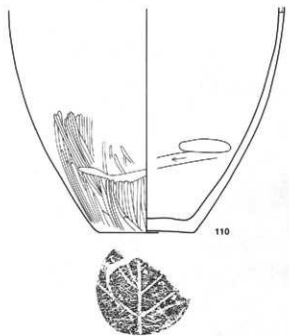
106



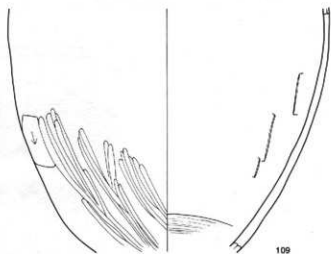
107



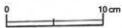
108



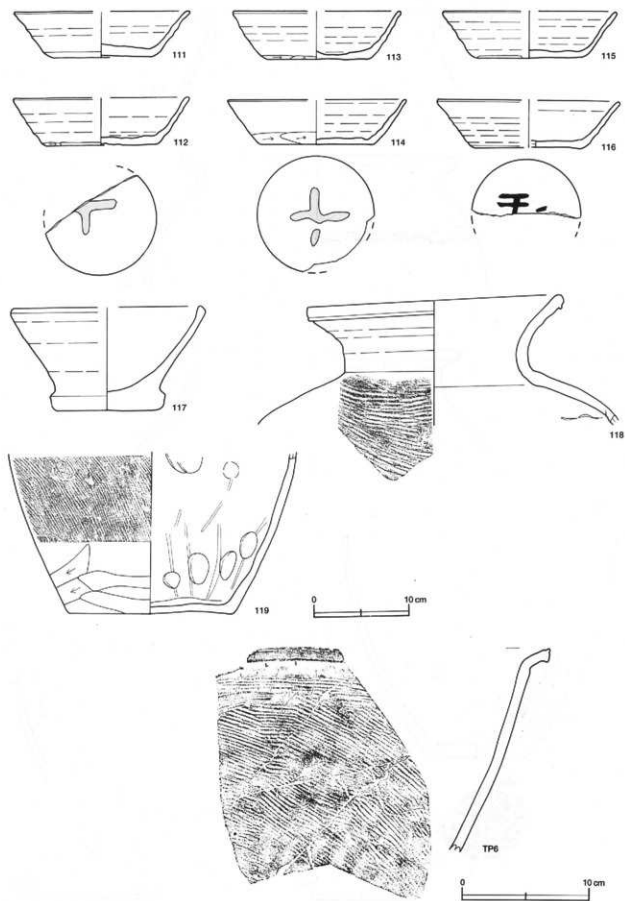
110



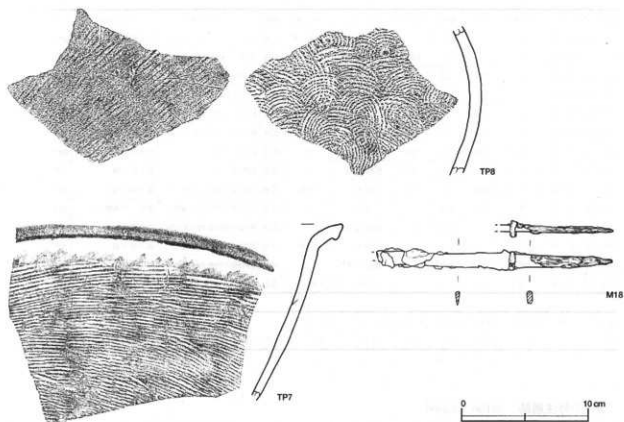
109



第153图 第46号住居跡出土遺物実測図(1)



第154图 第46号住居跡出土遺物実測図(2)



第155図 第46号住居跡出土遺物実測図(3)

ピット 2か所。P1は深さ34cmで、東壁中央部寄りに位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ35cmで性格は不明である。

覆土 4層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片157点(高坏3, 甕154), 須恵器片78点(坏41, 捏ね鉢2, 蓋1, 甕33, 甌1), 縄文土器片1点, 鉄製品1点(刀子)が出土している。106~119・TP6~8は中央部から北壁際の覆土下層及び床面にかけて散在した状態で出土し, M18は中央部床面からの出土である。また, 112・114の底面には朱墨で「十ッ」と墨書されている。

所見 本跡は同時期の住居跡中, 唯一南西壁に竈が付設されている住居である。下層から床面にかけて出土した土器は器形全体を残すものが少なく, 出土位置が中央部から北壁際に集中し, 住居廃絶後に投棄されたもので, 時期は出土土器から8世紀中頃と考えられる。

第46号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
106	土師器	甕	[21.0]	(0.3)	—	雲母・長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部割ナリ, 底部・底割ナリ	中央部床面	5%
107	土師器	甕	[21.6]	(10.5)	—	雲母・長石	浅黄橙	普通	縁部割ナリナリ, 内割ナリ, 底割ナリ	中央部床面	5%
108	土師器	甕	[22.8]	(10.0)	—	長石・石英	に高い赤褐色	普通	縁部割ナリ, 内割ナリナリ, 底割ナリ	中央部中~下層	15%

番号	種類	形状	寸法	高さ	径	土質	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
109	土師器	壺	—	(19.3)	—	灰母・長石・石英	にぶい橙	普通	灰母・長石・石英・鉄質の多い	中央部床面	40%
110	土師器	壺	—	(25.5)	10.0	石英・赤色粘土	にぶい靑	普通	灰母・長石・石英・鉄質の多い	北壁際下層	40%
111	須恵器	坏	[13.8]	3.3	8.0	長石・石英	灰白	普通	灰母・長石・石英・鉄質の多い	室内・中央部床面	40%
112	須恵器	坏	[13.7]	3.7	8.8	長石	黄灰	良好	灰母・長石・石英・鉄質の多い	中央部床面	灰母・長石・石英・鉄質の多い
113	須恵器	坏	[12.5]	3.8	8.2	雲母	にぶい黄橙	不良	灰母・長石・石英・鉄質の多い	室内・遺物床面	60%, PL.25
114	須恵器	坏	[14.0]	3.6	9.0	灰母・長石	灰白	普通	灰母・長石・石英・鉄質の多い	中央部床面	灰母・長石・石英・鉄質の多い
115	須恵器	坏	[13.8]	3.8	8.8	長石・石英	灰	普通	灰母・長石・石英・鉄質の多い	中央部床面	60%
116	須恵器	坏	[14.2]	3.8	8.6	灰母・長石	灰	普通	灰母・長石・石英・鉄質の多い	遺物下層	灰母・長石・石英・鉄質の多い
117	須恵器	投玉坏	[14.6]	3.2	8.0	灰石	灰黄	普通	灰母・長石・石英・鉄質の多い	遺物下層	40%, PL.23
118	須恵器	壺	19.9	(10.1)	—	長石	灰	普通	灰母・長石・石英・鉄質の多い	室内・東西壁下層	20%
119	須恵器	壺	—	(17.2)	17.8	灰母・長石	灰オリーブ	普通	灰母・長石・石英・鉄質の多い	中央部床面	20%
T16	須恵器	瓶	—	(16.2)	—	長石	灰靑	普通	灰母・長石・石英・鉄質の多い	遺物下層	20%
T17	須恵器	瓶	—	(13.0)	—	長石・石英	灰	普通	灰母・長石・石英・鉄質の多い	中央部下層	20%
T18	須恵器	壺	—	—	—	長石	灰オリーブ	普通	灰母・長石・石英・鉄質の多い	中央部下層	10%

番号	種類	全長	片身長	身幅	長さ	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
M18	刀子	(18.7)	(10.6)	0.4	8.1	(21.3)	鉄	刃先欠損、平部木質残存	中央部床面	PL.30

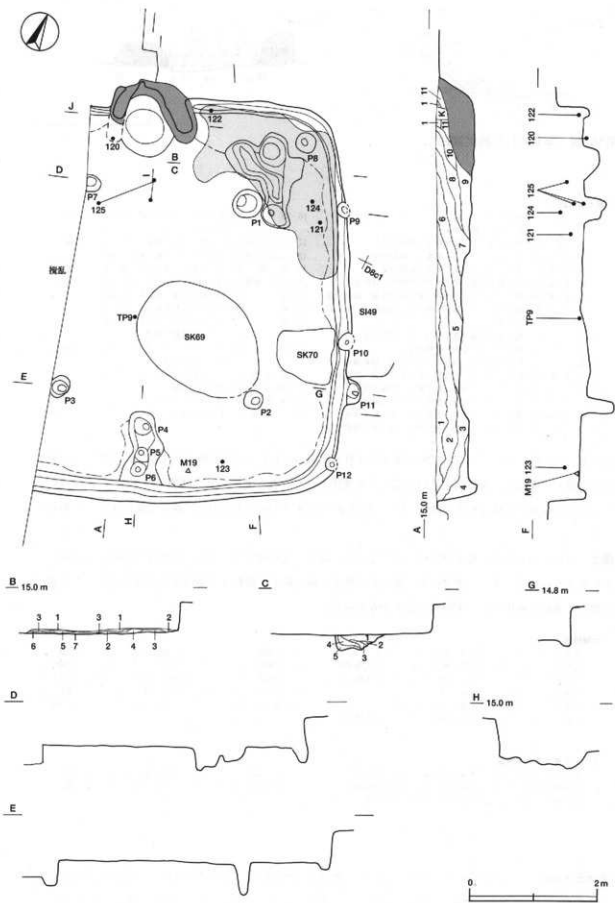
第47号住居跡（第156～158回）

- 位置** 調査区東部、D7c0区の緩斜面部に立地し、南西には第1～4号掘立柱建物跡が位置している。
- 重複関係** 北部で第49号住居跡を掘り込み、中央部を第69号土坑、東壁寄りを第70号土坑に掘り込まれている。
- 規模と形状** 掘乱のため全体の形状を明確にすることができなかったが、確認された長軸は6.40m、短軸は4.51mで、北コーナーと南東コーナーが直角に曲がっているため方形または長方形と考えられる。主軸はN-21°-Wで、増高は40～50cmで、各壁は直立している。
- 床** ほほ平地で、床面全体がよく踏み固められ、増高が周回している。また北コーナー床面には焼土が確認された。
- 焼土** 北コーナー部床面に厚さ4～6cmの焼土が確認されているが、火災に遭遇したものと考えられる。

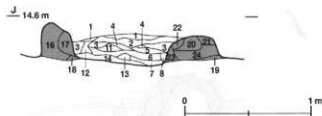
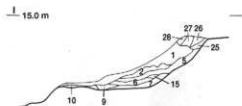
焼土土層解説

- | | | | | | |
|---|------|--------------------------------|---|------|----------------------------------|
| 1 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・粘土粒子少、砂粒微量 | 5 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物多量、粘土粒子中量、砂粒少量 |
| 2 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック中量、粘土粒子少量、砂粒微量 | 6 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック・粘土粒子中量、砂粒少量 |
| 3 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子・粘土粒子少量、砂粒微量 | 7 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック・粘土粒子中量、炭化物・砂粒少量 |
| 4 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、粘土粒子中量、ローム粒子・砂粒少量 | | | |

竈 北壁中央部に付設され、砂質粘土とロームで構築されている。灰口から煙道部までの最大長は134cm、両袖部幅は130cmである。第1・28層は天井部及び天井部の崩落層、第2～15層は燃焼部に堆積した焼土層で、煙道部は壁外へ28cm伸び、火床面から緩やかに立ち上がっている。



第156图 第47号住居跡実測図(1)



第157図 第47号住居跡実測図(2)

覆土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------------|-----------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 | 16 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子多量、砂粒中量、ローム粒子少量 |
| 2 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量 | 17 にぶい赤褐色 | 粘土粒子・砂粒多量、焼土ブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、赤変した砂粒中量 | 18 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒多量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒中量 | 19 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 5 暗赤褐色 | 粘土粒子多量、焼土ブロック中量、砂粒少量 | 20 にぶい黄褐色 | 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量、炭化粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子中量、砂粒少量 | 21 褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子・砂粒少量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂粒・灰中量、炭化粒子・粘土粒子少量 | 22 褐色 | 焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 8 灰褐色 | 粘土粒子多量、焼土ブロック・砂粒中量 | 23 褐色 | 焼土粒子中量、粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 9 黒褐色 | 焼土ブロック中量、砂粒少量 | 24 褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 10 褐色 | 粘土粒子多量、焼土ブロック少量、砂粒微量 | 25 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック中量 |
| 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子中量、砂粒少量 | 26 暗赤褐色 | 焼土粒子多量 |
| 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、粘土粒子・砂粒少量 | 27 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量 |
| 13 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、焼土ブロック少量 | 28 暗赤褐色 | 粘土粒子多量、砂粒中量 |
| 14 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、砂粒中量、粘土粒子少量 | | |
| 15 灰赤色 | 焼土ブロック・粘土粒子多量、灰中量、砂粒少量 | | |

ピット 12か所。P1～3は深さ28～53cmで主柱穴である。P4～6は南壁中央部寄りに位置し、いずれも竈から直線上に並ぶことから出入り口施設として使用されていたと考えられ、時間差を想定することができる。P8は深さ16cmで性格は不明である。P9～12は深さは12～24cmで東壁沿いに並んで位置することから壁柱穴と考えられる。

覆土 11層に分層され、覆土中にロームブロック、焼土、炭化物を多く含み、焼失時の埋め戻しを示した人為堆積と考えられる。また、北コーナー掘り方に焼土、粘土粒子、砂粒など竈内部から掻き出されたと考えられる覆土が多量に検出され、床の埋め替えが考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック多量、炭化物少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 9 黒褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量 | 10 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 | 11 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | | |

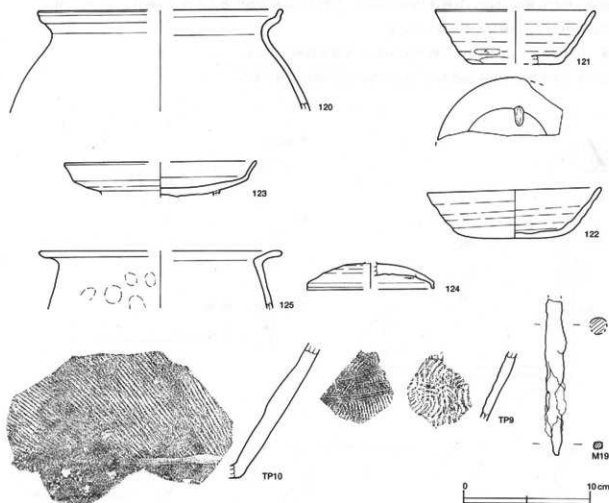
北コーナー掘り方土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|--------|--------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、粘土粒子中量、砂粒少量 | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、粘土粒子・砂粒少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、粘土粒子少量、砂粒微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック中量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、粘土粒子・砂粒微量 | | |

遺物出土状況 土師器片783点(坏61, 高坏8, 甕713, 台付甕1), 須恵器片375点(坏260, 高台付坏2, 甕3, 蓋13, 円面硯カ1, 甕96), 縄文土器片2点, 陶器片2点, 鉄製品1点(不明), 礫5点が出土している。M19は南壁寄りの床面, 120・122は北壁寄りの下層及び床面から出土している。また, 121・123～125・TP9

は覆土上層から下層にかけての出土である。本跡は、覆土中層から下層にかけての出土が多量であった。

所見 本跡は焼土などから焼失住居と考えられる。時期は出土土器から8世紀後半で、同時期の住居跡の中では最大規模であり、本跡の南西方向には主軸方向をほぼ同じくする第1～4号掘立柱建物跡が確認されているため、8世紀後半の集落では中心的存在であったと考えられる。



第158図 第47号住居跡出土遺物実測図

第47号住居跡出土遺物観察表

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
120	土師器	甕	[19.2]	(8.0)	—	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	鉄器作跡ナ	北壁寄り床面	5%
121	須恵器	坏	[12.8]	(4.3)	[7.0]	雲母・長石・石英	黄灰	普通	鉄器作跡ナ	東壁際中層	30%
122	須恵器	坏	13.6	4.0	8.2	長石・石英	にぶい黄粉	不良	鉄器作跡ナ	北壁寄り下層	60%、PL24
123	須恵器	壺	[15.2]	(2.8)	—	長石	灰	普通	鉄器作跡ナ	南壁寄り中層	40%
124	須恵器	蓋	[10.0]	(2.1)	—	砂粒	灰	良好	鉄器作跡ナ	東壁際上層	40%
125	土師器	甕	[19.2]	(4.5)	—	雲母・石英	浅黄	普通	鉄器作跡ナ	掘手直中～下層	5%
TP9	須恵器	甕	—	—	—	長石	灰	良好	平石切取ヘナ	中央部下層	
TP10	土師器	甕	—	(10.6)	—	雲母・長石	灰褐色	普通	鉄器作跡ナ	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
M19	不明	(12.4)	1.7	1.3	(37.8)	鉄	基部断面角門形、下部部長方形	南壁寄り床面	

第57号住居跡（第159図）

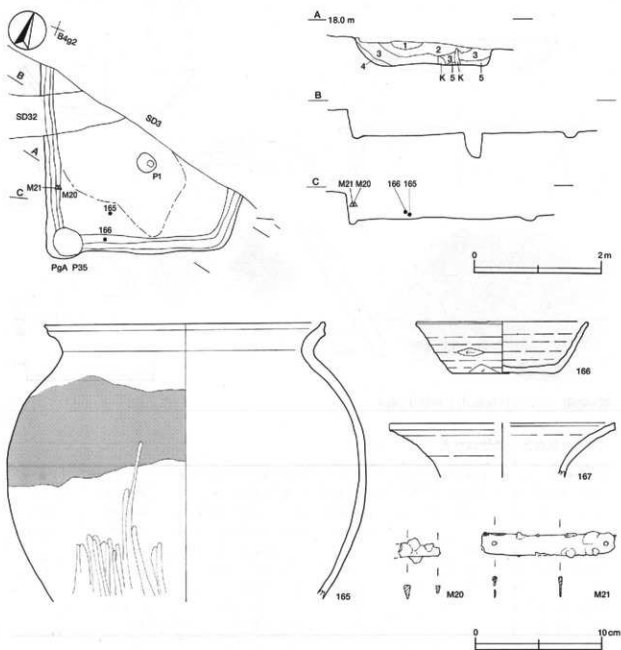
位置 調査区西部北側，B4 g2区の緩斜面部に立地し，南東には第70号住居跡が位置している。

重複関係 北東部を第3号方形区画溝，中央部を第32号溝，西を柱穴群AのP35にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 北東部を第3号方形区画溝に掘り込まれているため全体の形状を明確にすることができないが，確認された長軸は3.14m，短軸は2.60mであり，方形または長方形と考えられ，主軸は，N-20°-Wである。壁高は40cmで，各壁はやや外傾している。

床 はほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められ，壁溝が周囲している。

ピット 中央部に1か所確認され，深さは40cmで性格は不明である。



第159図 第57号住居跡・出土遺物実測図

覆土 5層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子少量
3 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片91点(甕)、須恵器片12点(埴10、広口長頸壺1、甕1)、土師質土器1点、縄文土器片1点、鉄製品2点(刀子1、手鎌1)が出土している。165は逆位の状態で、166は正位の状態でそれぞれ南西壁寄りの覆上下層から出土し、本跡に伴うものと考えられる。M20・21は覆土上層からの出土で、後世の混入である。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀中頃と考えられる。

第57号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
165	土師器	甕	22.2	(22.0)		雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	製造中に若干の気泡が認められる	南東壁寄り下層	57-57-10、15
166	須恵器	埴	13.6	4.1	8.2	那位	灰白	普通	須恵器特有の凹凸が認められる	南東壁寄り下層	100%、P125
167	須恵器	広口壺	17.8	(4.3)		砂粒	灰白	良好	167-167-10	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
M20	刀子	(3.3)	(1.2)	0.5	(3.86)	鉄	基部の破片、刃部欠損	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
M21	手鎌	(10.6)	1.9	0.2	0.4	(10.0)	鉄	本質残存、刃部一部欠損	覆土上層	P129

第70号住居跡(第160・161回)

位置 調査区西部、C4c5区の緩斜面部に立地し、南には第78号住居跡が位置している。

規模と形状 長軸5.10m、短軸5.05mの方形で、主軸はN-8°-Wである。壁高は58~72cmで、各壁は直立している。

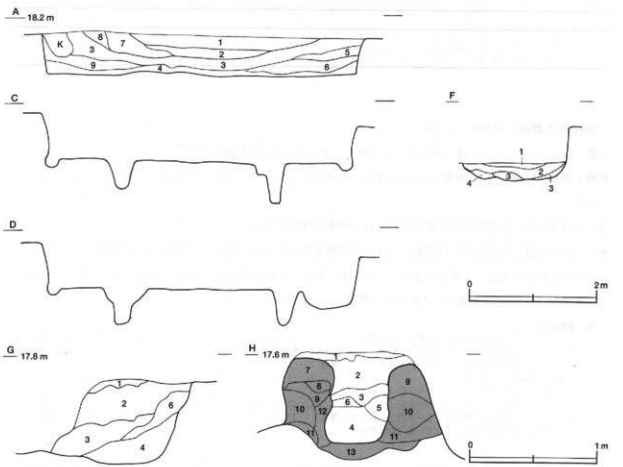
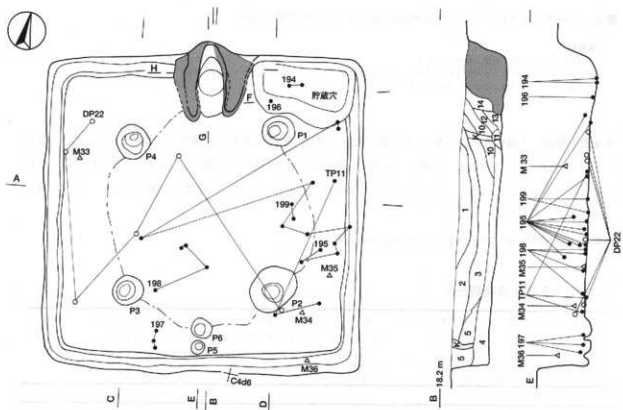
床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められ、壁溝が周回している。

竈 北壁中央部に付設され、砂質粘土とロームで構築されている。焚口から煙道部までの最大長は113cm、両袖部幅は108cmである。天井部は遺存しておらず、第4~6層は燃焼部に堆積した焼土ブロックを多く含む層で、煙道部は壁外へ20cm延び、火床面から外傾して立ち上がっている。

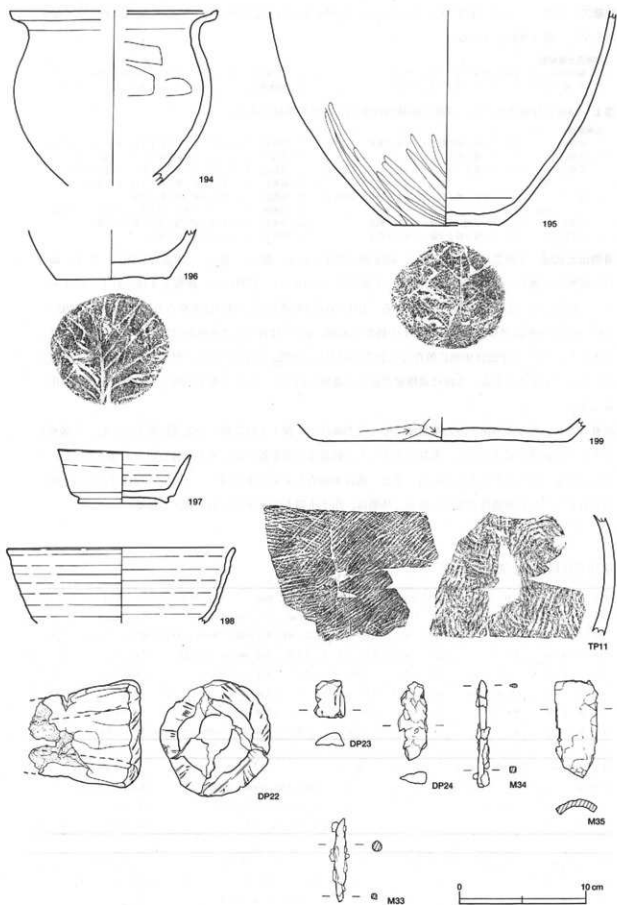
覆土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・砂粒微量	9 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
2 褐色	砂粒少量、ロームブロック・焼土ブロック微量	10 灰褐色	粘土粒子中量、赤化した粘土粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	砂粒少量、ロームブロック・焼土ブロック微量		
4 赤褐色	焼土粒子多量	11 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5 暗赤褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・砂粒微量		
6 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・砂粒微量	12 暗赤褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量
7 褐色	粘土粒子・炭少量、ローム粒子・焼土粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
8 にぶい褐色	粘土粒子少量、赤化した粘土粒子微量		

ピット 6か所。P1~4は深さ47~66cmで主柱穴である。P5・6は深さ12~13cmで南壁中央部に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第160图 第70号住居跡実測図



第161图 第70号住居跡出土遺物実測図

貯蔵穴 北東コーナーに付設され、長径124cm、短径104cmの不定形を呈し、10cm程掘り窪められて底面は皿状を呈し、壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 |

覆土 14層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 13 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・焼土粒子微量 |
| | | 14 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片959点（坏73、高坏49、埴4、蓋1、甕831、甌1）、須恵器片96点（坏46、高台付坏17、高盤1、甕32）、土師質土器片26点、土製品23点（羽目11、不明12）、鉄製品3点（釘1・鐵1・石突カ1）、鉄滓40点、石鏝1点が出土している。194・196は貯蔵穴内、M33は西岸寄りの覆土中層、195・198・199・M35は中央部及び東岸寄りの覆土中層から床面、197・M34・36は南壁際の覆土中層から床面よりそれぞれ出土している。DP22は床面に散在した状態で出土し、DP23・24及び多量に出土した鉄滓は覆土上層から床面にかけての出土である。本跡は遺構確認前から遺物が出上し、とくに覆土上層から中層にかけての出土が多量である。

所見 本跡の床面より出土した遺物はほとんどが破片で、覆土下層に焼土が比較的多く含まれ、住居廃絶後に焼失した可能性が考えられる。多量に出土した土師器片や須恵器片は、焼土を含む層の上部で出土し、住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。また、鉄滓が40点と非常に多く出土しており、周辺部に鍛冶工房的な施設が存在していた可能性が考えられる。時期は、出土土器から8世紀中頃と考えられる。

第70号住居跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
194	土師器	甕	163	1130	-	長石・石英	明赤胎	普通	貯蔵穴内底面	20%	
195	土師器	甕	-	170	8.4	長石・石英	白灰胎	普通	覆土中層～床面	20%	
196	土師器	甕	-	39	8.8	長石・石英	浅黄胎	普通	貯蔵穴内底面	5%	
197	須恵器	高台付坏	10.4	4.3	7.1	長石	灰白	普通	南壁際床面	90%	PL26
198	須恵器	高台付坏	18.0	6.0	-	玄埴・長石	灰	普通	中央部床面	40%	
199	須恵器	甕	-	131	20.0	実埴・長石	灰白	普通	中央部床面	10%	
TP11	須恵器	甕	-	9.0	-	長石	灰黄胎	普通	東岸寄り床面		

番号	器種	長さ	幅	孔径	高さ	特徴	出土位置	備考
DP22	釘	Li (8.8)	6.4-9.2	2.2-5.4	1359	表面へタ磨り・火焼を受けた跡	覆土下層から床面	
DP23	不明	2.1	3.1	-	730	厚さ1.0、胎土・長石・石英	覆土上層	
DP24	不明	6.3	2.3	-	11.0	厚さ1.2、胎土・砂粒	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
M33	不明	(6.7)	0.9	0.8	(11.0)	鉄	断面中央凹形・端面方形	覆土上層	
M34	鉄鏝	(8.3)	0.6	0.5	(9.73)	鉄	切先断面扁平・基部断面方形	覆土下層	
M35	石突カ	7.8	3.4	1.2	(7.2)	鉄	断面等厚	東岸寄り中層	

第78号住居跡 (第162・163図)

位置 調査区西部、D4a7区の平坦部に立地し、北には第70号住居跡が位置している。

重複関係 東部から西部にかけて第11号掘立柱建物跡に、南東壁を柱穴群BのP1にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.44m、短軸4.40mの方形で、主軸はN-13°-Wである。壁高は40~50cmで、各壁はやや外傾している。

床 はほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められ、埃溝が周回している。

竈 北東中央部に付設され、砂質粘土とロームで構築されている。焚口から煙道部までの最大長は96cm、両袖部幅は85cmである。第4層は、粘土粒子が多量の天井部の崩落層で、第2・3・6層は焼土を多く含む燃焼部に堆積した層である。煙道部は壁外へ23cm延び、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	6 暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量
2 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量	7 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土ブロック微量
3 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量	8 にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化物微量
4 にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、粘土ブロック微量	9 灰褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・砂粒微量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック・炭化物・粘土ブロック・砂粒微量

ピット 5か所。P1~4は深さ32~42cmで主柱穴である。P5は深さ27cmで南壁中央部に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。また、P2~4は第11号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

P2~4土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量	3 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	4 褐色	ロームブロック少量

貯蔵穴 北東コーナーに付設され、長径76cm、短径70cmの不定形を呈している。20cm程掘り窪められ、底面は皿状を呈し、壁は外傾している。また、覆土中に炭化物や粘土粒子が比較的多く含まれ、這内から掻き出された灰等で埋め戻した可能性が考えられる。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量、炭化材少量、焼土粒子微量	3 褐色	ローム粒子少量、ロームブロック微量
2 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量		

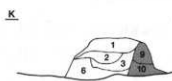
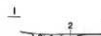
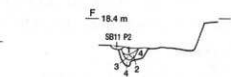
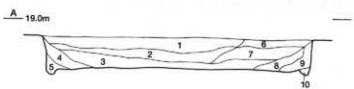
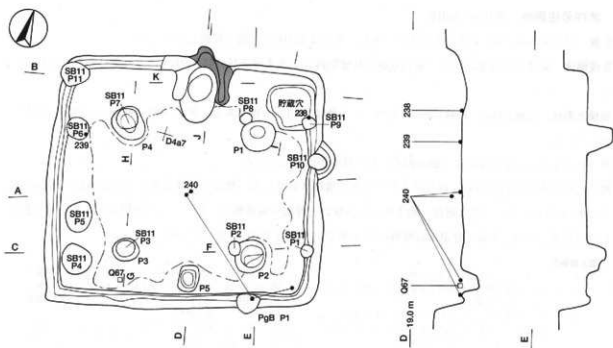
覆土 10層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

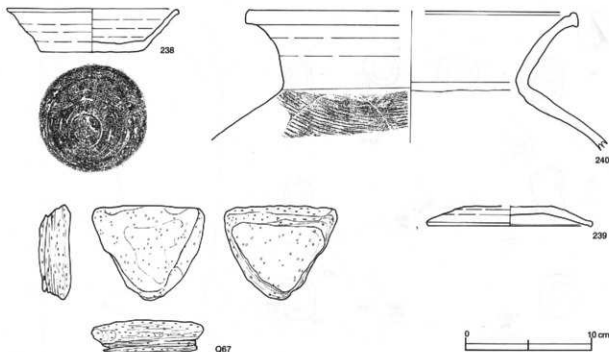
1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	8 褐色	ローム粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	9 褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック少量	10 褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片219点(坏18、高坏3、甕198)、須恵器片46点(坏27、蓋6、甕13)、土師質土器片13点、土製品2点(不明)、鉄滓8点、古銭1点(寛永通宝)、藤4点が出土している。238は北東コーナー、Q67は南西コーナー寄り床面、239は西壁寄りの床面からそれぞれ出土している。240は覆土中層から下層にかけて出土している。また、鉄滓の1点は貯蔵穴の覆土中からの出土で、その他の鉄滓は覆土上層から中層にかけて出土し、後世の投棄である。

所見 鉄滓が8点出土しており、周辺部に鍛冶工房的な施設が存在していた可能性が考えられる。時期は、出土土器から8世紀中頃と考えられる。



第162图 第78号住居跡実測图



第163図 第78号住居跡出土遺物実測図

第78号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
238	瓶	底器	13.6	3.5	8.0	長石・石英	暗灰	普通	各部17の成形遺跡跡へ付随	北東コーナー床面	80%, PL27
239	瓶	底器	13.0	(1.6)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	天目形跡への成形つらみ結合	西壁寄り床面	90%, PL27
240	瓶	底器	25.7	(10.9)	—	長石・石英	灰	普通	口縁部外縁ナメ成形両面平行円形	履土中一下部	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q67	不明	7.5	8.9	2.5	300	雲母片岩	断面台形状、磨痕無し	南西コーナー床面	中世4

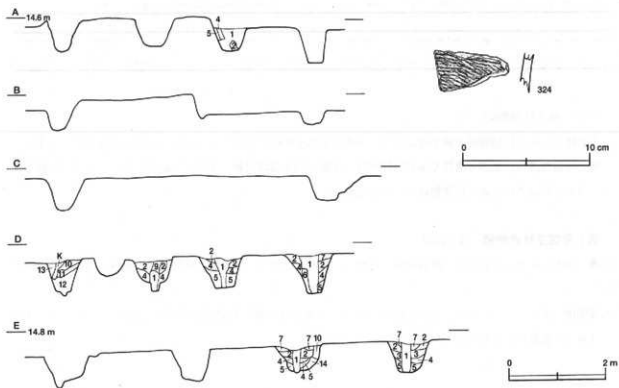
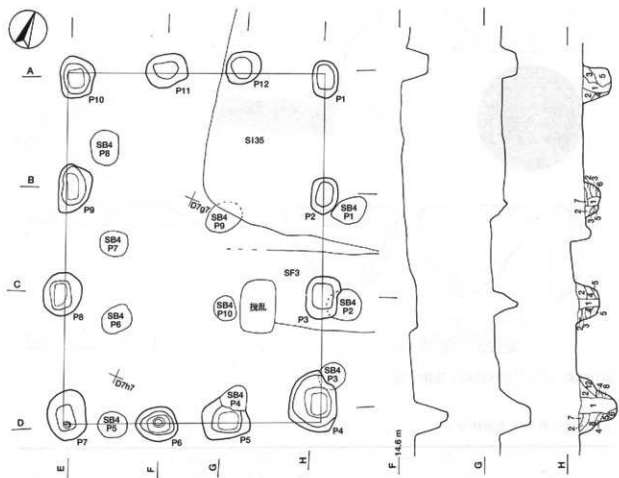
(2) 掘立柱建物跡

当遺跡から掘立柱建物跡6棟を確認した。規模や形状を明確にすることができないものもあるが、第1～3号掘立柱建物跡は、第25号溝跡や第47号住居跡と主軸方向をほぼ同軸とする8世紀代と考えられる建物跡である。以下、確認された掘立柱建物跡について記載する。

第1号掘立柱建物跡 (第164図)

位置 調査区東部、D7g7区の緩斜面部に立地し、北西には第2・3号掘立柱建物跡、南西には第25号溝が位置している。

重複関係 P1・2・12が第35号住居跡、P3・4・5が第4号掘立柱建物跡をそれぞれ掘り込み、P3の上面には第3号道路跡が構築されている。



第164图 第1号掘立柱建物跡出土遺物実測図

規模と構造 桁行、梁行ともに3間の竪柱式の建物跡で、桁行方向をN-21°-Wとする南北棟である。規模は東側部桁行7.14m、西側部桁行7.32m、北側部梁行5.26m、南側部梁行5.36mであり、柱間寸法は東西桁行2.40mをそれぞれ基調とし、南北の梁行はP5・6・11・12の柱間がやや狭くなっているが1.80mを基調としたものと考えられる。

柱穴 平面形はP1・2・3が隅丸長方形で、その他は楕円形を呈し、深さは32~78cmである。柱痕(第1層)はP9を除く柱穴から確認され、第7・8・10~14層が柱を抜いたときの埋戻された土で、そのほかの層は埋土であり、ローム土を主体とした暗褐色土や褐色土の埋土で互層をなしているが、強く突き固められてはいない。

土層解説(各柱穴共通)

1 黒褐色	ローム粒子微積	8 褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック微量	9 黒褐色	ローム粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量	10 暗褐色	ロームブロック少量
4 褐色	ロームブロック中量	11 暗褐色	ロームブロック中量
5 茶褐色	ロームブロック少量	12 黒褐色	ローム粒子微量
6 褐色	ローム粒子少量	13 黒褐色	ロームブロック微量
7 茶褐色	ローム粒子微量	14 暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片90点(坏3、高坏1、寛86)、須恵器片4点(甕)、縄文土器片3点がP1~3・6~12の柱抜き取り痕、または埋土から出土している。324もP3の柱抜き取り痕の覆土中から出土し、混入である。

所見 本跡は、桁方向を同一にする第2・3号掘立柱建物跡とほぼ同時期に機能していたと想定され、時期は出土土器から8世紀中頃と考えられる。

第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	11世紀	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
324	須恵器	甕	(36)			砂紋	灰白	青面	860前後頃の7角形土師器P3層上中		3%

第2号掘立柱建物跡(第165図)

位置 調査区東部、D7e5区の緩斜面部に立地し、南東には第1号掘立柱建物跡、南西には第25号溝が位置している。

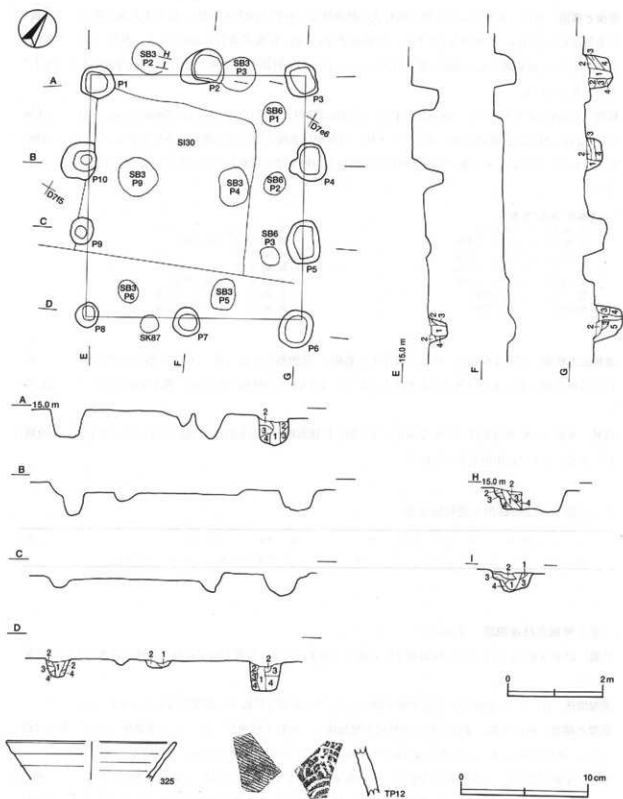
重複関係 P1・9・10が第30号住居跡を掘り込み、P2が第3号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の竪柱式の建物跡で、桁行方向をN-30°-Wの南北棟である。規模は桁行5.10m、梁行4.48mであり、柱間寸法は桁行1.80m、梁行2.10mをそれぞれ基調としている。

柱穴 平面形はP4・5が隅丸長方形で、その他は楕円形を呈し、深さは18~66cmである。柱痕(第1層)はP2・3・6・7・8の柱穴から確認され、第5層は柱を抜いたときの埋戻された土で、そのほかの層は埋土であり、ローム土を主体とした黒褐色土や暗褐色土で互層をなし、強く突き固められている。

土層解説(各柱穴共通)

1 黒褐色	ロームブロック少量	4 暗褐色	ローム粒子少量
2 茶褐色	ロームブロック中量	5 暗褐色	ローム粒子中量
3 黒褐色	ローム粒子少量		



第165図 第2号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片66点(坏2, 高坏2, 器台1, 甕61), 須恵器片6点(坏4, 甕2), 鉄滓1点がP1~4・6~8の柱抜き取り痕, または埋土から出土している。325はP6の埋土, TP12はP1の覆土中からの出土で, いずれも本跡に伴うものである。

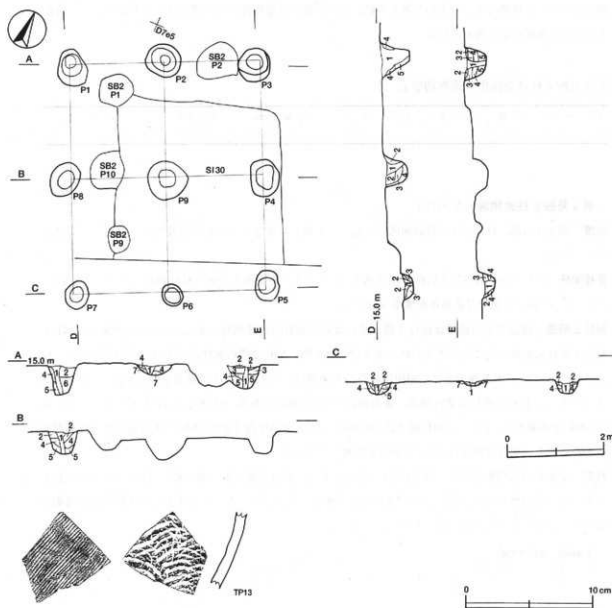
所見 本跡は、第3号掘立柱建物跡に掘り込まれているが、出土遺物からみて機能していたのはほぼ同時期と考えられるが、規模を縮小して総柱建物に建て替えられたものと想定される。また、側柱式の構造から穀物類などを納める倉庫的な建物と考えられ、時期は出土土器から8世紀中頃と考えられる。

第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
325	須恵器	坏	[13.2]	(3.0)	—	砂粒	灰	普通	縁部の傾斜	P 6 掘土中	5%
TP12	須恵器	甕	—	(3.9)	—	長石	黄灰	普通	縁部の傾斜、内面に付着した灰	P 1 掘土中	5%

第3号掘立柱建物跡 (第166図)

位置 調査区東部、D7e5区の緩斜面に立地し、南東には第1号掘立柱建物跡、南西には第25号溝が位置している。



第166図 第3号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

重複関係 P4・5・6・9が第30号住居跡を掘り込み、P3が第2号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行、梁行ともに2間の総柱式の建物跡で、桁行方向をN-24°-Wとする南北棟である。規模は桁行4.82m、梁行3.94mであり、柱間寸法は桁行2.40m、梁行1.80mをそれぞれ基調としている。

柱穴 平面形は楕円形を呈し、深さは15～64cmである。柱痕（第1層）はP4・9を除く柱穴から確認され、埋土はローム土を主体とした黒褐色土や暗褐色土で互層をなし、強くは突き固められていない。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒色 | ローム粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片17点（高坏3、甕14）、須恵器片1点（甕）、縄文土器片2点がP1～3・5・7・8の柱抜き取り痕、または埋土から出土している。TP13はP9の埋土中からの出土で木跡に伴うものである。

所見 本跡は、桁方向をほぼ同一にする第1号掘立柱建物跡とはほぼ同時期の建物で、総柱式であることから穀物類の倉として機能していたものと考えられ、第2号掘立柱建物跡からの建て替えが想定される。時期は出土土器から8世紀中頃と考えられる。

第3号掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	材質	器高	口径	出土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP13	遺物	葉	—	(61)		梁行	灰	直焼	縄文土器片の穴跡	P9埋土中	5%

第4号掘立柱建物跡（第167図）

位置 調査区東部、D7g7区の緩斜面部に立地し、北西には第2・3号掘立柱建物跡、南西には第25号溝が位置している。

重複関係 P1・9が第35号住居跡を掘り込み、P2・3・4が第1号掘立柱建物跡のP3～5に掘り込まれ、P2・3の上面には第3号道路跡が構築されている。

規模と構造 確認された構造は桁行3間、梁行2間の圓柱式の建物跡であるが、P8の北東側にはP1・9に対応する柱穴があったことが考えられ、本来は桁行3間、梁行2間の総柱式であったと想定される。桁行方向は、N-26°-Wの南北棟であり、規模は桁行が北東側部桁行3.20m、南西側部桁行5.70mで、北東側部が狭い作りとなっており、梁行は北西側部、南東側部ともに4.80mである。柱間寸法はP1・2・6・7・8の桁行が1.80mを基調とし、P2・3の柱間寸法が1.40m、P5・6の柱間寸法が2.10mで北東側部と南西側部にばらつきがみられる。梁行は両側部ともに2.40mを基調としている。

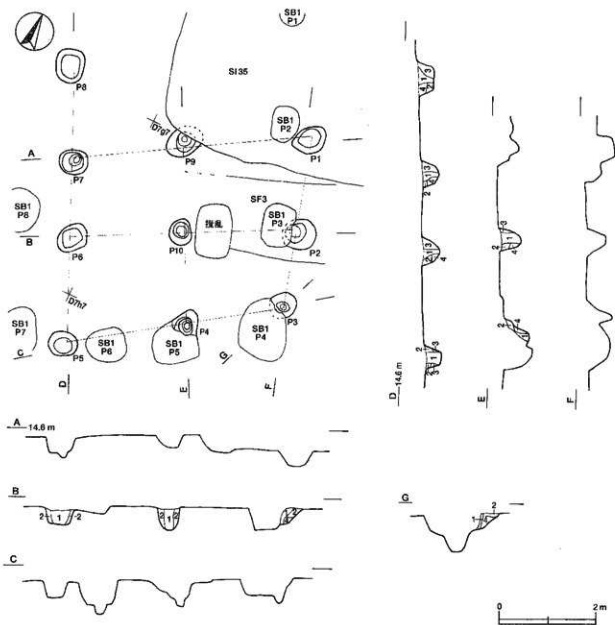
柱穴 平面形は楕円形を呈し、深さは20～62cmである。柱抜き取り痕（第1層）はP3・5～8・10から確認され、第3層は埋め戻した層で、そのほかの層は埋土であり、ローム土を主体とした黒褐色土や暗褐色土で互層をなしているが、それほど強く突き固められてはいない。

土層解説（各柱穴共通）

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 上層器片5点(亮)は、P2・3・7の柱抜き取り痕、または埋土から出土しているが、いずれも本跡に伴うものではない。

所見 本跡は、第1号掘立柱建物跡に掘り込まれていることから8世紀中頃以前の建物であり、総柱式の建物であるため、倉として機能していたと想定されるが、南東側部の築行方向が他の柱穴とやや異なることから、P3・4・5を梁行とし南東方向に延びる建物があったことも想定される。



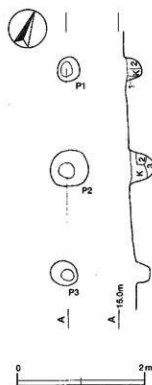
第167図 第4号掘立柱建物跡実測図

第5号掘立柱建物跡 (第168図)

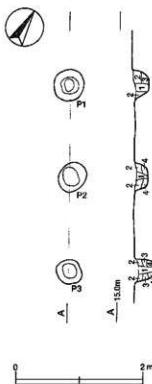
位置 調査区東部、D7c4区の縦斜面部に立地し、南東には第1号掘立柱建物跡、南西には第25号溝が位置している。

規模と構造 北西から南東方向の直線上に柱穴が3か所確認され、南北方向、または東西方向に建物が存在し

ていた可能性が考えられる。確認された柱穴の軸方向は $N-26^{\circ}-W$ で、規模は3.30mを測り、柱間寸法は1.50mを基調としている。



第168図 第5号掘立柱建物跡実測図



第169図 第6号掘立柱建物跡実測図

柱穴 平面形は楕円形を呈し、深さは24~40cmである。柱穴内の覆土は柱抜き取り後に埋め戻された土で、柱痕は確認されていない。

土層解説 (各柱穴共通)

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片2点(寛)は、P2の覆土中から出土しているが、本跡に伴わないものである。

所見 本跡は、柱穴を3か所確認しただけで、本来の構造を明確にすることはできなかったが、東方向にはほぼ同軸とする第6号掘立柱建物跡が位置し、本跡のP3と第6号掘立柱建物跡のP2の柱間距離が約6mを測ることから、本跡と同一の建物の可能性が考えられる。時期は、本跡にともなう遺物が出土していないことから詳細は不明である。

第6号掘立柱建物跡 (第169図)

位置 調査区東部、D7e5区の緩斜面部に立地し、南東には第1号掘立柱建物跡、南西には第25号溝が位置している。

規模と構造 北西から南東方向の直線上に柱穴が3か所確認され、南北方向、または東西方向に建物が存在していた可能性が考えられる。確認された柱穴の軸方向は $N-27^{\circ}-W$ で、規模は3.00mを測り、柱間寸法は1.50mを基調としている。

柱穴 平面形は楕円形を呈し、深さ20~30cmである。柱痕(第1層)はP1~3の柱穴から確認され、そのほかの層は埋土であり、ローム土を主体とした黒褐色土や暗褐色土が互層をなし、あまり突き固められていない。

土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡は、柱穴を3か所確認しただけで、本来の構造を明確にすることはできなかったが、西方向にはほぼ同軸とする第5号掘立柱建物跡が位置し、本跡のP2と第5号掘立柱建物跡のP3の柱間距離が約6mを測ることから、本跡と同一の建物の可能性が考えられる。その場合4間×3間の東西棟の建物跡になる可能性が考えられる。時期は、遺物が出土していないことから詳細は不明である。

(3) 土坑

今回の調査で、奈良・平安時代の土坑を6基確認した。以下、確認した遺構と出土した遺物について記載する。

第11号土坑 (第170図)

位置 調査区中央部、E6a4区の支谷へ向かう緩斜面部に立地し、北東には第1～3号掘立柱建物跡が位置している。

規模と形状 長径2.23m、短径2.21mの円形で、長径方向はN-15°-Wである。深さは107cmで、底面は上端と同様に円形を呈し、中央部に向かってやや傾斜している。また、底面中央部には長軸98cm、短軸66cmの隅丸長方形で深さ34cmほどの掘り込みがある。

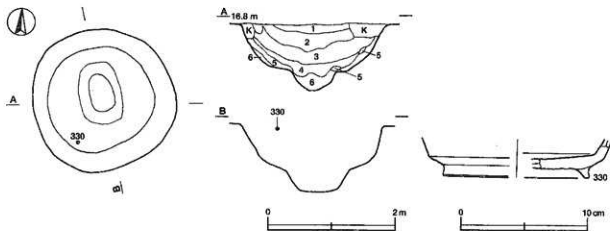
覆土 6層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層構成

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 灰褐色 ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量 | 6 暗褐色 ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片21点(甕)、須恵器片2点(盤1、蓋1)が出土し、330及び土師器片は覆土上層から出土している。

所見 本跡は形状及び位置から水室の可能性が考えられる。土層の土器の時期をみると時期は8世紀中頃で、本跡の北東にある第25号溝や第1～3号掘立柱建物跡と同時期に機能していたものと想定される。



第170図 第11号土坑・出土遺物実測図

第11号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
330	瓶	高台付杯	—	(3.0)	[11.6]	長石	灰	普通	高台部分付け後、ロクロナデ	南西部上層	29%

第17号土坑 (第171・172図)

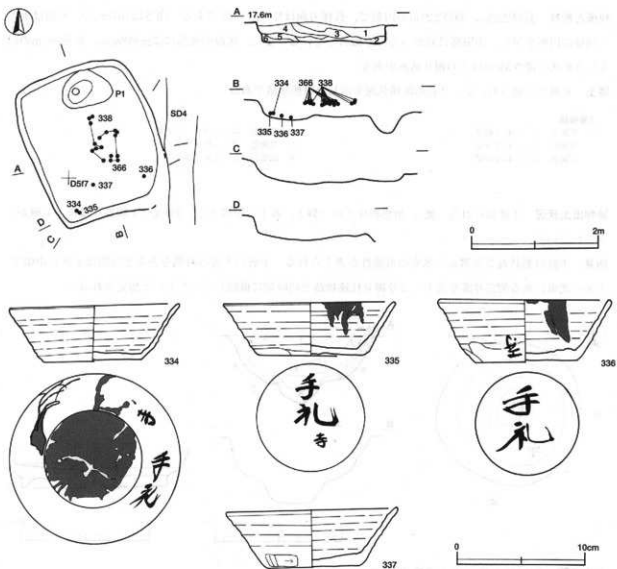
位置 調査区中央部, D5 e7区の緩斜面部に立地し, 北西には第3号住居跡が位置している。

重複関係 南東コーナーを第4号溝に掘り込まれている。

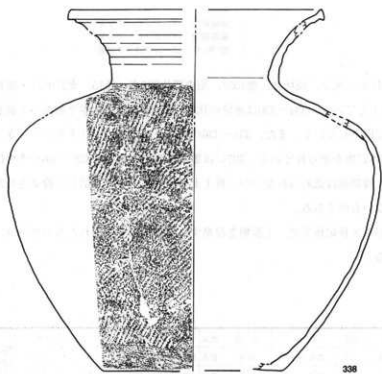
規模と形状 長軸2.40m, 短軸2.04mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-20°-Wである。深さは26cmで, 底面は皿状を呈して, 壁は外傾して立ち上がる。

ピット 1か所確認され, 深さ31cmで, 性格は不明である。

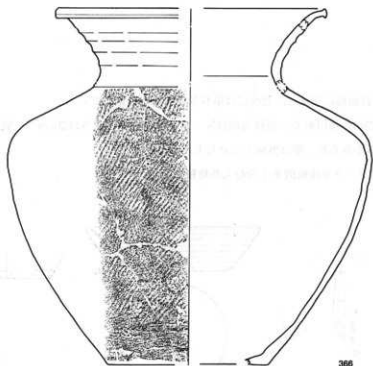
覆土 6層に分層され, 不自然な堆積状況を示した人為堆積である。



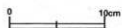
第171図 第17号土坑・出土遺物実測図



338



366



第172图 第17号土坑出土遗物实测图

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 棕褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 棕褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片190点(坏3, 碗3, 高坏2, 甕155), 須惠器片285点(坏15, 甕270), 土師質土器片2点(かわらけ), 鉄滓2点が出土している。334~336は逆位の状態, 337は正位の状態で南部の下層から床面より出土し, 334と335は重なって出土している。また, 334~336の体部及び底部には「手札」・「寺」と墨書されており, とくに334は底部全体に墨が塗られている。337には墨書されていない。338・366やその他の土師器片, 須惠器片は, 334~337と時期差は認められないが, 覆土上層から出土して一括して投棄された様相を呈しているため, 本跡には伴わないものである。

所見 本跡の時期は, 出土土器から8世紀後半で, 土器類を投棄するために掘り込まれたものであり, その後埋め戻された可能性が考えられる。

第17号土坑出土遺物観察表

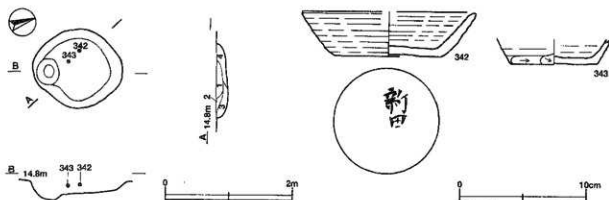
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
334	須惠器	坏	13.3	4.4	7.7	雲母・灰石	灰黄	普通	体部下層-底部回転ヘラ削	南コーナード層	98%雲母(中-大瓦), 灰石(中-大瓦)
335	須惠器	坏	13.5	4.3	8.2	雲母・石英	灰黄	普通	体部下層-底部回転ヘラ削	南西コーナード下層	97%雲母(中-大瓦), 灰石(中-大瓦)
336	須惠器	坏	13.4	5.0	8.0	雲母・灰石	にぶい黄橙	普通	体部下層-底部回転ヘラ削	南東コーナード層	98%雲母(中-大瓦), 灰石(中-大瓦)
337	須惠器	坏	13.5	4.5	7.4	長石・石英	灰黄緑	普通	体部下層-底部回転ヘラ削	南部底面	95%PL30
338	須惠器	甕	[26.6]	[38.2]	[18.8]	長石	灰	普通	体部外縁縁部の平行型丸内面ナテ	中央部上層	60%
366	須惠器	甕	[28.4]	[32.7]	[17.2]	長石	灰	良釘	体部外縁縁部の平行型丸内面ナテ	中央部上層	20%

第64号土坑(第173図)

位置 調査区東部, D8d1区の緩斜面部に立地し, 北西には第47号住居跡が位置している。

規模と形状 長径1.41m, 短径1.25mの楕円形で, 長径方向はN-9°-Eである。深さは20cmで, 底面は皿状を呈し, 南側には10cmほどの窪みがみられ, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層に分層され, ロームブロックを比較的多く含む人為堆積である。



第173図 第64号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片4点(高坏1, 甕3), 須恵器片12点(坏10, 甕2)が出土している。342・343は覆土中層からの出土で、投棄されたものと考えられる。また, 342には「新田」と墨書されている。

所見 本跡の時期は, 出土器から8世紀中頃と考えられる。

第64号土坑出土遺物観察表

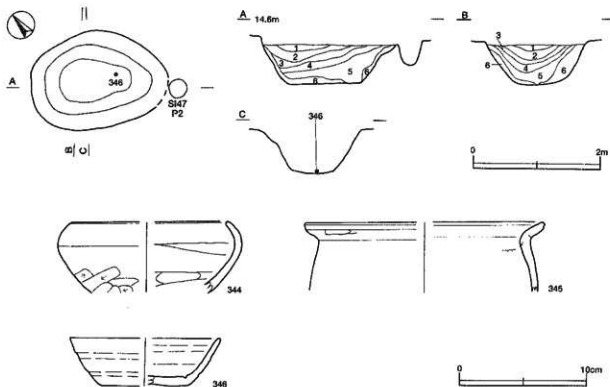
番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	産地	手法の特徴	出土位置	備考
342	須恵器	坏	13.6	3.6	8.0	雲母・長石	に深い黄緑	香濃	底部へう割り	西部中層	55%墨書「新田」
343	須恵器	坏	—	(2.0)	7.0	雲母・長石	褐色	香濃	底部下層・底部へう割り	中央部中層	20%

第69号土坑 (第174図)

位置 調査区東部, D7c0区の緩斜面部に立地し, 南東には第64号土坑が位置している。

重複関係 第47号住居跡を本跡が掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.15m, 短径1.53mの楕円形で, 長径方向はN-79°-Wである。深さは71cmで, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。



第174図 第69号土坑・出土遺物実測図

覆土 6層に分層され、南東方向から土砂が堆積した様子を示す自然堆積で、ローム土や焼土・炭化物などの含有物は第47号住居跡の覆土の混入と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物少量 | 5 出褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片63点（坏3，鉢1，高坏2，甕57），須恵器片34点（坏29，甕5），鉄滓1点が出土している。346は底面から出土，344・345はそのほかの遺物と覆土上層から中層より出土している。

所見 本跡の時期は，出土土器から8世紀中頃と考えられるが，第47号住居跡を掘り込んでいるため，これらの遺物は住居跡から混入した可能性があり，詳細は不明である。また，344は鉄鉢形土器であり，短絡的ではあるが周辺部に寺院的な施設の存在していた可能性が考えられる。

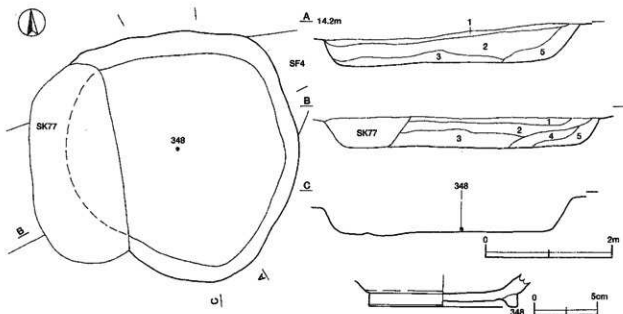
第69号土坑出土遺物観察表

番号	類別	器種	17種	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
344	土師器	鉄鉢形土器	[122]	(5.6)	—	砂粒	にぶい橙	普通	口縁部横ナテ、唇部内面へツナテ	覆土上層	10%
345	土師器	甕	[18.6]	(5.6)	—	雲母・長石	明赤褐	普通	口縁部横ナテ、唇部内外面ナテ	覆土上層	10%
346	須恵器	坏	11.9	3.8	[7.0]	雲母・長石	黄灰	普通	先頭へツナテ	中央部底面	45%

第76号土坑（第175図）

位置 調査区東部，D8h2区の緩斜面部に立地し，北には第64号土坑が位置している。

重複関係 西部を第77号土坑に掘り込まれ，北側部上面には第4号道路跡が構築されている。



第175図 第76号土坑・川土遺物実測図

規模と形状 長軸4.13m, 短軸3.62mの楕円形で, 長軸方向はN-17°-Wである。深さは56cmで, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 5層に分層され, レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片201点(坏1, 高坏8, 甕192), 須恵器片134点(坏124, 高台付坏1, 蓋1, 短頸壺1, 甕7), 縄文土器片6点, 不明土製品3点が出土している。348は底面からの出土で, 本跡に伴うものである。また, この底部は硯に転用されている。そのほかの遺物は覆土上層から下層の出土で, 後世の混入である。
所見 本跡の時期は, 出土土器から8世紀後半と考えられる。

第76号土坑出土遺物観察表

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
348	須恵器	短頸壺	—	(21)	118	砂粒	灰	良好	高台周り付け能, ロクロナデ	中央部底面	19%, 転用硯

第228号土坑 (第176図)

位置 調査区東部, D8 d6区の緩斜面部に立地し, 南東には第42号住居跡が位置している。

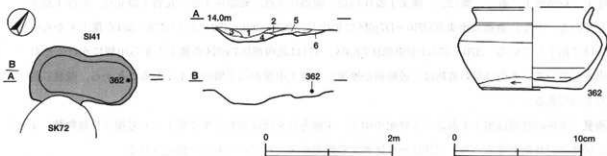
重複関係 第41号住居跡, 第229号土坑をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.70m, 短軸0.82mの不定形で, 長軸方向はN-58°-Eである。深さは16~42cmで, 床は南西方向に傾斜している。床面の北東側部と南西側部には掘り込みがみられ, いずれも皿状で, 壁は外傾している。

覆土 6層に分層され, 各層にロームブロック・焼土・砂粒を比較的多く含み, しまりが強いことから埋め戻された可能性が考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック・砂粒中量 | 4 褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂粒中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック中量, 炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・砂粒中量, ロームブロック少量 | 6 褐色 | ロームブロック多量, 焼土ブロック中量 |



第176図 第228号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片1点(甕), 須恵器片4点(短頸壺1, 甕3)が出土し, 362は北東側部の確認面から正位の状態で出土している。362の内部には焼土が堆積しているが, 外面には二次焼成を受けた痕跡がみられ

ない。そのほかの遺物は細片で、埋め戻し時に混入したものである。

所見 本跡は、確認面から多量の焼土がみられ、北東部に短頸壺が1点正位の状態で出土しているため火葬施設の可能性が考えられる。時期は、出土土器から8世紀後半以降と考えられる。

第228号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
362	須臾型	短頸壺	194	65	77	長石	灰白	普通	体部ロクロ成形、底部ヘラ削り	北東部確認面	95%, PL33

(4) 溝跡

当遺跡からは44条の溝跡が確認されており、そのうち第25号溝跡は奈良時代に該当する。以下、その概要について記述する。

第25号溝跡（第177～180図）

位置 調査区東部、D7e3～E7a7区の緩斜面部に立地し、北東には第1～7号掘立柱建物跡、第47号住居跡が位置している。

重複関係 北西部を第26号溝跡に掘り込まれ、中央部の上面には第3号道路跡が構築されている。

規模と形状 E7a7区から北西方向（N-34°-W）に直線的に延び、南東部が傾斜している。確認された長さは32mほどである。規模は上幅0.90～1.44m、下幅0.26～0.74m、深さ44～100cmを測り、形状は底面がほぼ平坦で、壁面は外傾して立ち上がる箱築研状を呈している。

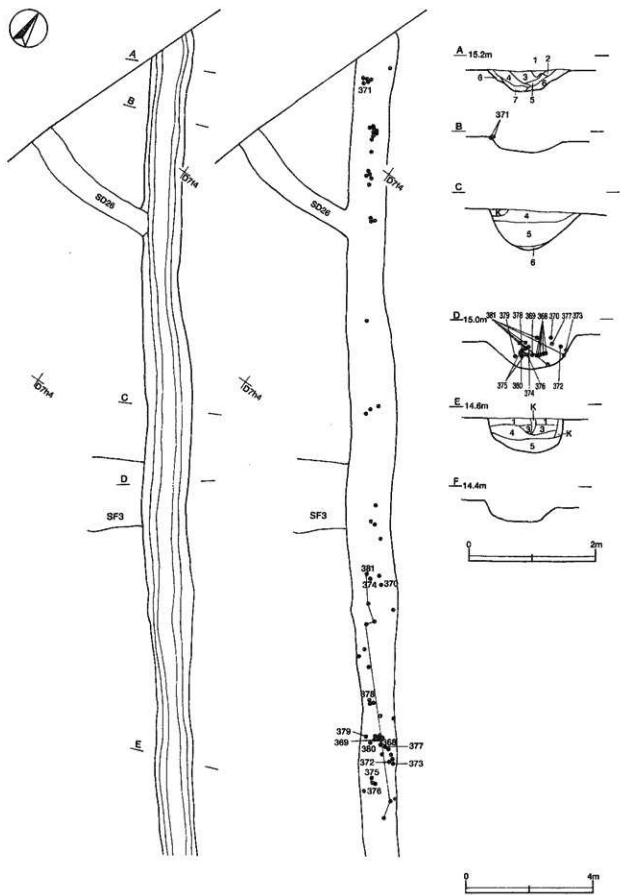
覆土 7層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

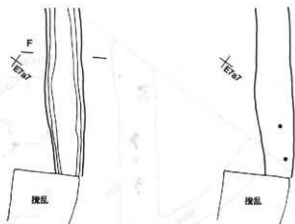
- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 5 黒色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒色 | ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片637点（坏28、高台付坏6、高坏29、埴5、甕569）、須恵器片244点（坏118、高台付坏1、長頸壺1、壺2、甕122）、縄文土器片14点、陶器片3点、磁器片1点、瓦質土器6点、鉄滓1点が出土している。とくに遺物は南東部D7i6～D7j6区に集中し、368・369・372・373・375～381が覆土上から中層にかけて出土している。370・374は中央部D7h5区、371は北西部D7e3区の覆土上から中層にかけてそれぞれ出土している。そのほかの遺物は、破断面が摩滅して覆土中層から上層の出土であることから、後世に混入したものである。

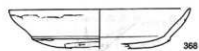
所見 本跡の時期は出土土器から8世紀中頃で、主軸方向をほぼ同じくする第1～6号掘立柱建物跡、第47号住居跡と同時期と考えられ、居住区域を区画する機能を果たしていたものと想定される。



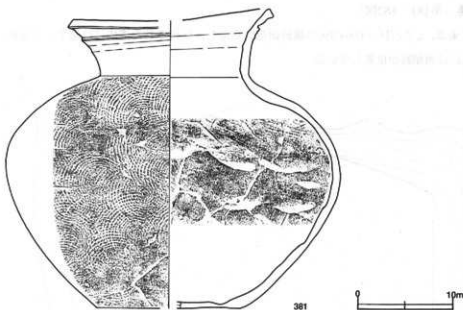
第177图 第25号沟迹实测图(1)



第178图 第25号沟跡实测图(2)



第179图 第25号沟跡出土遺物实测图(1)



第180図 第25号溝跡出土遺物実測図(2)

第25号溝跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
368	土器	器	14.4	(3.1)	—	雲母・長石	にぶい黄褐色	普通	底面跡への凹跡	南東部中層	60%
369	須恵器	坏	13.5	4.7	8.5	雲母・石英	灰	普通	底面跡への凹跡	南東部中層	60%
370	須恵器	坏	[13.0]	4.1	8.8	雲母・赤色粒子	灰	普通	底面跡への凹跡	中央部上層	60%
371	須恵器	坏	13.0	5.0	8.8	雲母・長石	灰黄	普通	底面跡への凹跡	北西部上層	60%
372	須恵器	坏	—	(2.8)	9.0	雲母・長石	黄灰	普通	底面跡への凹跡	南東部中層	40%北東部跡(上)
373	須恵器	坏	—	(2.5)	8.4	雲母・赤色粒子	黄灰	普通	底面跡への凹跡	南東部中層	40%北東部跡(上)
374	須恵器	坏	[13.0]	4.0	9.2	雲母・長石	にぶい赤褐色	普通	底面跡への凹跡	中央部上層	55%
375	須恵器	坏	[13.4]	3.9	8.4	雲母	灰黄	普通	底面跡への凹跡	中央部中層	40%
376	須恵器	坏	[13.8]	4.9	[10.0]	雲母・赤色粒子	灰	普通	底面跡への凹跡	南東部中層	25%、PL34
377	須恵器	坏	[12.2]	3.4	[8.2]	雲母・長石	灰	普通	底面跡への凹跡	南東部上層	30%
378	須恵器	高台付坏	—	(4.1)	8.2	雲母・長石	黄灰	普通	底面跡への凹跡	南東部中層	30%
379	須恵器	高台付坏	—	(4.2)	8.3	雲母・長石	灰黄	普通	底面跡への凹跡	南東部中層	50%
380	須恵器	長頸壺	—	(3.4)	7.9	細密	灰白	良好	高台跡への凹跡	南東部中層	30%内面自然釉
381	須恵器	壺	[20.6]	31.8	[15.3]	長石	灰	良好	底面跡への凹跡	南東部上～中層	70%、PL34

5 中世の遺構と遺物

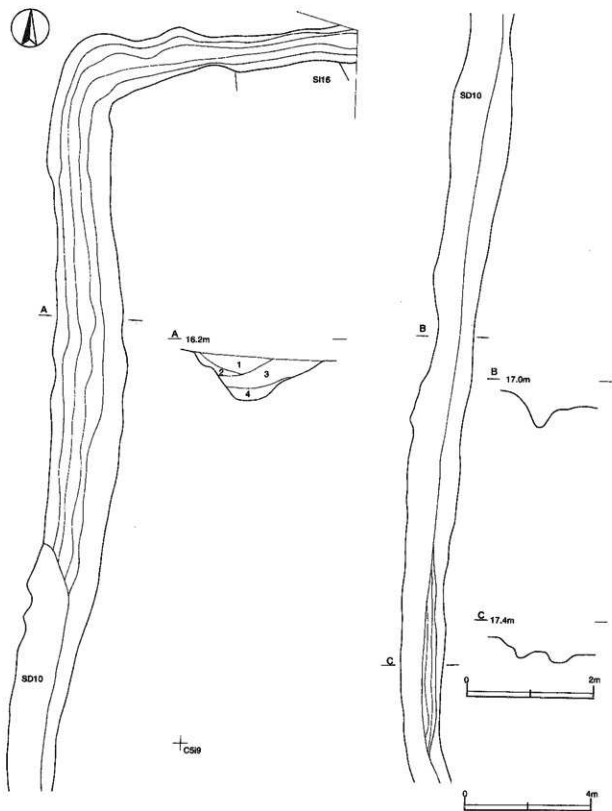
今回の調査で、中世船跡2か所、地下式墳2基が確認された。ここでは、溝で方形に区画された船跡を便宜上、東船跡・西船跡とし、それぞれ確認された遺構と遺物について記載する。

(1) 東船跡

本跡は1条の溝によって区画された船跡で、南寄りに掘立柱建物跡2棟確認されている。

第4号溝跡 (第181・182図)

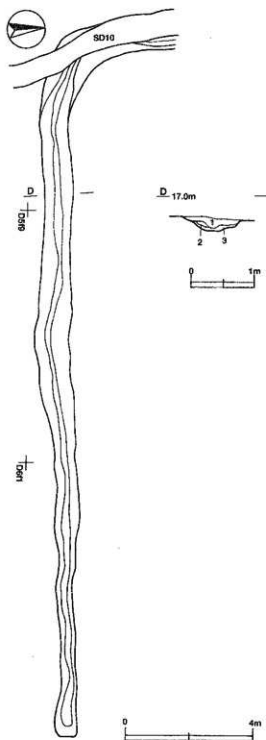
位置 調査区東部, C5c7区~D6e3区の緩斜面部に立地し, 区画された溝内には第7・8号据立柱建物跡が確認され, 西には西館跡が位置している。



第181図 第4号溝跡実測図(1)

重複関係 C5e9区で第16号住居跡を掘り込み、D5e7区～D5g7区を第10号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 方形区画の西部分と想定され、南北約49mで北・南溝は直角に折曲するが東側部分は不明である。上幅0.20～1.12m、下幅0.06～0.40mで、深さ20～66cmを測る。北側部と南側部の底面がほぼ平坦で壁面は外傾し、南北に延びる西側部の規模が最も大きい業研状を呈している。検出されている溝内には付属するような施設はみられない。



第182図 第4号溝跡実測図(2)

覆土 4層に分層され、ロームブロックを比較的多く含んで、埋め戻しの堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片278点(坏14, 高坏28, 埴2, 甕234), 須恵器片42点(坏8, 甕2, 甕32), 土師質土器片56点, 陶器片25点, 磁器片11点, 近世瓦片7点, 石製品5点(砥石3, 硯2), 鉄製品7点(釘1, 不明6), 古銭1点(寛永通宝)が出土しているが, それらの出土位置はD5e7～C5g7区の第10号溝跡と重複している部分であることから, 本跡に伴うものではない。

所見 本跡は東館跡を区画していた溝の西側部分で, 第3号堀跡と併列し, 時間的に西館跡と同時期, もしくはその前後に機能していたと考えられる。時期は, 13世紀後半から14世紀代と考えられる。

第7号掘立柱建物跡 (第183図)

位置 調査区中央部、東館区画の南西域に立地し、西には第3号溝跡が位置している。

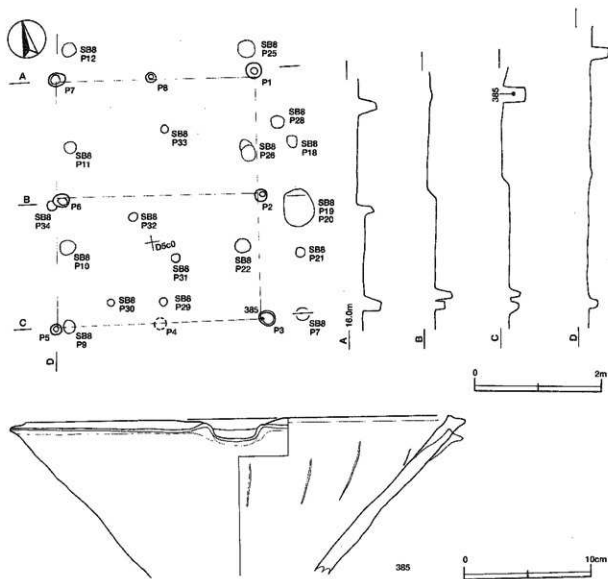
重複関係 南妻部方向とはほぼ同軸の第8号掘立柱建物跡が廃絶された後に本跡が構築されている。

規模と構造 桁行、梁行ともに2間の欄柱式の建物跡で、桁行方向を $N-8^{\circ}-E$ とする南北棟である。規模は桁行5.10m、梁行4.20mであり、柱間寸法は桁行は2.40m、2.70mの2つを基調とし、梁行は2.10mを基調としている。

柱穴 平面形は円形を呈し、長径0.2~0.38m、短径0.2~0.32mで、深さは22~40cmである。P3とP5の中間のP4は柱穴が確認されず、礎石か、あるいは掘り方が浅かった可能性が考えられる。

遺物出土状況 常滑片1点(片門鉢)がP3の柱抜き取り痕から出土している。

所見 本跡は、桁行5.10m、梁行4.20mと規模的に大形の建物ではなく、建物の間取りを想定するには柱の数が少ないため倉庫的な機能を果たしていたものと考えられる。時期は出土土器から15世紀代と考えられ、東館跡、西館跡が廃絶された後に構築されたものと想定される。



第183図 第7号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第7号掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
385	陶	器片口縁	183.6	(125)	—	灰石	にぶい褐	普通	体部内・外周ヘラナデ	P3覆土中	30% 雷溝

第8号掘立柱建物跡 (第184図)

位置 東館内の南西城に立地し、西には第3・4号溝跡が位置している。

重複関係 本跡発掘後に、南妻部方向をほぼ同軸とする第7号掘立柱建物跡が構築されている。

規模と構造 桁行5間、梁行3間の建物跡で、桁行方向をN-9°-Eとする南北棟である。規模は桁行7.80m、北妻部の梁行5.60m、南妻部の梁行6.00mで北妻部が狭い構造となっている。柱間寸法は、桁行が0.9m・1.20m・1.50m・2.10mと柱間寸法の基調にばらつきがあり、梁行も1.20m・2.40mとばらつきが認められる。また、北妻部から東側部は庇もしくは縁と考えられ、柱間が主屋柱列より1.2mを測る。西側部分は柱間寸法が広いため広間的な間取りであったと考えられる。

柱穴 平面形は楕円形もしくは円形を呈し、長径0.2~0.44m、短径0.2~0.36m、深さ15~75cmであり、東側が深く掘り込まれている。P3とP5の中間にP4、南東コーナーにP6、P7とP9の中間にP8を想定したが、ここには柱穴が確認されず、礎石か、あるいは掘り方が浅かった可能性が考えられ、各柱穴に柱抜き取り痕は確認されていない。また、P16・24・27の最下層は強く突き固められている。

土層解説 (各柱穴共通)

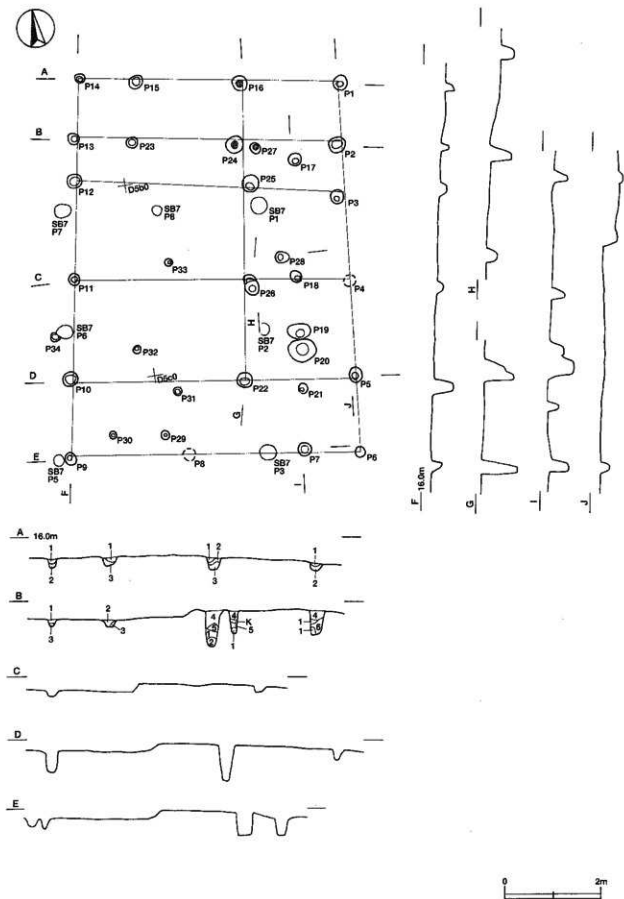
- | | | | |
|-------|-----------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量 | 5 町褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片7点(壺)、須恵器片2点(坏)、土師質土器片4点、古銭1点(開元通宝)が埋土から出土している。

所見 本跡は、東館跡を区画していた第4号溝に伴う建物と考えられる。第3号堀跡と隣接し、第7号掘立柱建物跡とはほぼ同規模の建て替えと考えられ、第3号堀跡と同軸である。第7号掘立柱建物跡同様、西館跡と同時期、もしくはその前後に機能していたものと考えられる。時期は第7号掘立柱建物跡よりも古い時期のものであるが、それほど時間差はないと考える。

第8号掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	観名	径	孔径	高さ	初周年	特徴	出土位置	備考
M50	田式通宝	2.4	0.7	(1.9)	621年	円形方形、唐銭	SR8-P1覆土中	PL39



第184图 第8号掘立柱建物跡実測図

(2) 西館跡

本跡は、1条の溝によって方形に区画された館跡で、館内には掘立柱建物跡7棟、土橋跡2か所、井戸2基、土坑9基、溝4条、柱穴群6か所が確認されている。

第3号溝跡（方形区画掘跡）（第185～198図）

位置 調査区西部の緩斜面部に立地し、調査部分は全体の東半分と推定され、堀の東側部と南側部には土橋が確認され、区画内から掘立柱建物跡、井戸跡、土坑などが確認された。また、東側の堀から約20mには東館跡が位置している。

重複関係 北側堀では、第54・57号住居跡を掘り込み、第32号溝跡に掘り込まれている。東側部では第12・13・17・27号住居跡を掘り込んで第5号溝跡に掘り込まれ、上面には第2号道路跡が構築されている。南側堀では第12・13・15・16・17号溝跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 調査された部分は、南側堀のほぼ中央から北東コーナー付近と北側堀中央部分で全体の東部分である。確認された長さは、北側堀内・外周ともに38.4m、東側堀内周95.0m、外周99.0m、南側堀内周63.0m、外周62.0mである。南西コーナー部はほぼ直角に屈曲し、東側堀はN-10°-Eを指している。上幅3.6～5.0m、下幅1.3m、深さ120～150cmを測り、遺構確認面での比高差は、北側堀部で東に1.0m、東側堀部で北に0.4m、南側堀部で西に0.3mとそれぞれ傾斜を示している。底面の比高差は、北側堀部で東に1.5m、東側堀部で北に1.0m、南側堀部で西に0.4mとそれぞれ傾斜を示している。この状況から、北東部と南西部が低く掘り込まれ、その中でも特に北東部が深く掘り込まれている。形状は、底面は傾斜を示しているがほぼ平坦であり、断面は外傾した箱薬研状を呈している。また、北側堀を東方向に、東側堀を北方向にそれぞれ延長すると東側堀の外周は南から112m地点で北側外周と接続し、内周は104mで接続することとなり、南西コーナー部はほぼ直角に屈曲していることから、本跡は方形に巡ることが想定される。

ピット群 北側と南側の堀の壁面には、直径が10～60cmの円形もしくは楕円形で、深さ15～35cm程のピット群が2か所確認された。直線上に並ぶものや対になるものは少ないが、柱穴の形状から堀掘削時の足場の穴であった可能性が考えられる。また、堀北側西寄りの底面には、南側の土橋部底面と同様の掘り込み（長軸2.1m、短軸1.1m、深さ10cm）が確認されている。

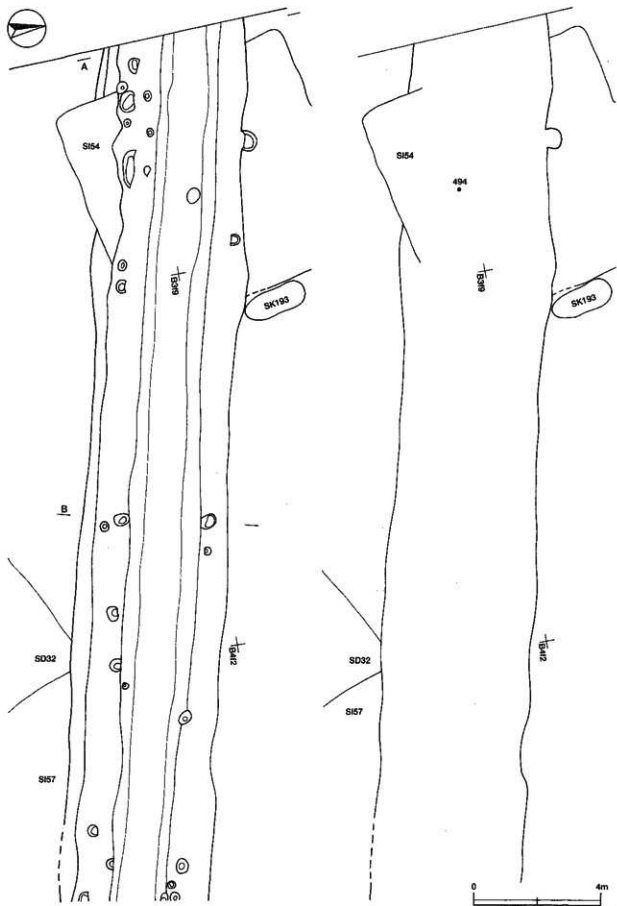
覆土 各区画ともレンズ状の堆積状況を示した自然堆積がほとんどであるが、東側土橋付近から南側堀にかけての覆土中層から下層にロームブロックを多く含む層がみられ、とくに南側堀からはロームブロックとともに石製模造品が多量に出土している。その状況は区画内の整地の際に土砂を投棄した可能性が考えられ、石製模造品を含む古墳時代の住居覆土が投棄されたものと想定される。

土層解説

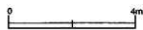
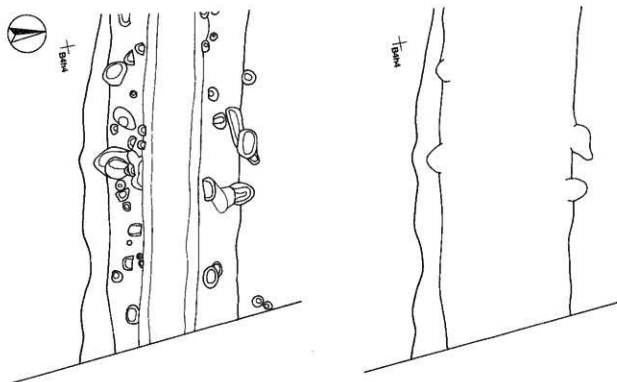
- | | | | |
|--------|----------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 12 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、粘性强 | 13 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量、粘性强 | 14 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 15 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 6 黒色 | ローム粒子少量 | 16 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック微量 | 17 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック少量 | 18 褐色 | ロームブロック中量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック中量 | 19 褐色 | ローム粒子多量 |
| 10 暗褐色 | ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 土師器片4,765点(坏322, 高台付坏3, 高台付坏皿1, 碗5, 鉢5, 高坏44, 埴94, 甕4,282, 瓶8, 手捏1), 須恵器片264点(坏100, 盤1, 蓋2, 捏鉢1, 短頸壺1, 甕159), 土師質土器片1,459点(かわらけ1,457, 土鍋2), 常滑片6点(片1鉢4, 蓋1, 甕1), 龍泉窯青磁片2点(鑪連弁文碗), 陶器片17点, 磁器片2点, 縄文土器片11点, 瓦1点(中世カ), 土製品27点(球状土鍾11, 羽15, 支脚5, 不明6), 石製品47点(剣形模造品16, 双孔円板23, 砥石7, 硯1), 石器2点(磨石, 銅片), 鉄製品7点(不明), 銅製品2点(不明), 古銭3点(□寧元宝, 開元通宝, 永樂通宝), 鉄滓53点, 礫18点(蛭母片岩)が出土している。本跡に伴うと考えられる遺物は, かわらけ(406~483・489~494)・常滑片(486~488・TP19)・龍泉窯青磁片(484・485)・硯(Q150)などで, いずれも覆土中層から底面にかけて出土している。とくに, 東側部土橋付近の覆土中層から下層にかけて出土した408~424・434~436・444~459・461・471は, 投棄された状況をよく示して集中出土している。これらのかわらけは, 大・小2種類に分別することができる。それらの総重量の大20.0kg, 小2.4kgを一皿平均の大155g, 小50gで計算すると, おおよそ大133点, 小48点と点数が把握され, 大3点に小1点の割合であったと考えられる。また, 南側部からローム土とともに多量に出土した石製模造品も覆土中層から下層にかけて出土しているが, 古墳時代中期住居跡から堀の掘削によって掘り出されたものが流れ込んだものと考えられる。

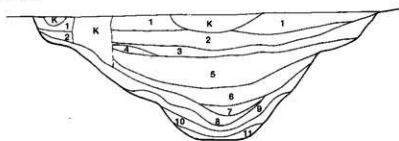
所見 本跡は, 西側部が未調査のため詳細は不明であるが, 確認された東側部の形状から堀で方形に区画された館跡と想定される。南東コーナー部からは堀と平行に掘り込まれた溝跡が2条(第42・44号溝跡)確認されており, 防禦的な施設が存在していた可能性も考えられる。また, 土橋も2か所が確認されているが, 土橋以外にも橋脚施設が存在していた可能性が考えられる。西館の時期は, 出土遺物から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられるが, 一括投棄したかわらけの出土位置が覆土中層から下層であることや, 堀の上層中に一時的な廃土層が見られることなどから, 本跡が存在した期間は少なからず13世紀後葉よりやや古い時期であると考えられ, 廃絶された時期は14世紀前葉であり, その使用期間はそれほど長いものではなかったと想定される。



第185图 第3号沟迹美湖图(1)



A. 19.2m

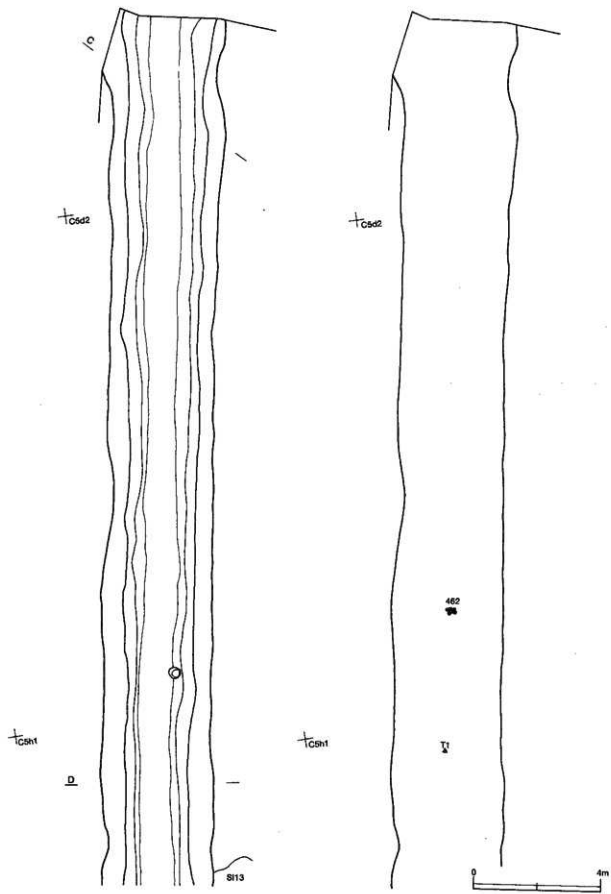


B. 18.4m

494

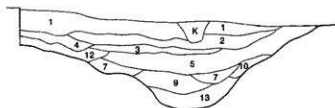


第186图 第3号沟踏实测图(2)

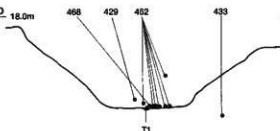


第187图 第3号沟迹实测图(3)

C. 17.6m



D. 18.0m



第188図 第3号溝跡実測図(4)

第3号溝跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
406	土師質土器	小皿	7.8	1.8	—	黄母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑付近中層	90%
407	土師質土器	小皿	7.4	2.0	—	黄母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑付近中層	95%
408	土師質土器	小皿	7.9	1.7	—	黄母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑付近中層	90%
409	土師質土器	小皿	8.0	1.9	—	黄母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑付近中層	100%
410	土師質土器	小皿	8.2	2.0	—	黄母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑付近中層	100%
411	土師質土器	小皿	8.0	1.7	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑付近中層	95%
412	土師質土器	小皿	7.7	1.6	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑付近中層	100%
413	土師質土器	小皿	7.5	2.2	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑付近中層	100%
414	土師質土器	小皿	7.8	1.9	—	砂粒	橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑付近中層	100%, PL32
415	土師質土器	小皿	7.7	1.8	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑付近下層	100%
416	土師質土器	小皿	7.4	2.0	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑付近下層	100%
417	土師質土器	小皿	8.1	2.0	—	砂粒	にぶい橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑付近下層	100%
418	土師質土器	小皿	7.7	1.8	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑付近中層	90%
419	土師質土器	小皿	7.9	1.9	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑付近中層	98%, PL32
420	土師質土器	小皿	8.1	1.9	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑付近下層	100%, PL32
421	土師質土器	小皿	8.2	1.8	—	砂粒	橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑付近下層	100%
422	土師質土器	小皿	7.9	1.8	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑付近下層	100%, PL32
423	土師質土器	小皿	8.3	1.6	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑付近中層	100%, PL32
424	土師質土器	小皿	7.5	2.0	—	砂粒	橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑付近下層	100%, PL33
425	土師質土器	小皿	7.4	1.8	—	砂粒	橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑南側中層	100%
426	土師質土器	小皿	8.2	2.0	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑南側下層	90%, PL32
427	土師質土器	小皿	8.0	1.9	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑南側中層	100%, PL33
428	土師質土器	小皿	[8.1]	1.7	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑付近中層	30%
429	土師質土器	小皿	7.6	2.2	—	砂粒	橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑北側下層	90%
430	土師質土器	小皿	[8.4]	1.5	—	砂粒	橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑北側下層	30%
431	土師質土器	小皿	7.5	2.0	—	黄母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑南側下層	100%, PL33
432	土師質土器	小皿	[7.4]	2.0	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	覆土下層	10%
433	土師質土器	小皿	8.0	1.9	—	砂粒	橙	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外面ナテ	1号土坑北側下層	90%, 埋蔵層 付土器PL33

番号	種別	器種	口径	器高	高さ	胎上	色調	施地	手法の特徴	出土位置	備考
434	土師質土器	小皿	7.3	1.7	—	砂粒	にぶい橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城北側成面	100%PL31
435	土師質土器	小皿	8.0	2.0	—	砂粒	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城北側下層	100%
436	土師質土器	小皿	7.9	1.7	—	砂粒	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城北側中層	88%
437	土師質土器	小皿	8.2	2.1	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城南側下層	100%PL32
438	土師質土器	小皿	7.6	2.1	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城南側中層	100%PL33
439	土師質土器	小皿	7.8	1.8	—	砂粒	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城南側中層	100%PL33
440	土師質土器	小皿	7.8	1.7	—	赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城南側下層	100%PL33
441	土師質土器	小皿	7.8	2.1	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	2号土城近下層	100%PL33
442	土師質土器	小皿	7.3	1.9	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	2号土城近上下層	100%PL33
443	土師質土器	小皿	8.2	1.8	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	2号土城成面	100%PL33
444	土師質土器	皿	12.6	3.9	—	砂粒	にぶい橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城付近下層	85%
445	土師質土器	皿	13.0	3.4	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城付近下層	80%
446	土師質土器	皿	12.3	3.5	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城付近下層	90%
447	土師質土器	皿	12.6	3.8	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城付近下層	90%PL34
448	土師質土器	皿	12.7	3.5	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城付近下層	85%
449	土師質土器	皿	12.3	3.5	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城付近下層	80%
450	土師質土器	皿	12.6	3.5	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城付近下層	96%PL34
451	土師質土器	皿	12.6	3.5	—	砂粒	にぶい橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城付近下層	90%
452	土師質土器	皿	12.6	3.4	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城付近下層	100%PL34
453	土師質土器	皿	12.8	3.8	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城付近下層	90%
454	土師質土器	皿	12.6	3.4	—	赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城付近下層	100%PL34
455	土師質土器	皿	13.2	3.5	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城付近下層	70%
456	土師質土器	皿	12.6	3.5	—	赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城付近下層	80%
457	土師質土器	皿	12.6	3.8	—	赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城付近下層	98%PL34
458	土師質土器	皿	12.3	3.1	—	灰石・石灰	橙	良好	胎内外面ナ	1号土城付近成面	100%PL34
459	土師質土器	皿	12.9	3.5	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城付近成面	100%PL34
460	土師質土器	皿	11.9	3.3	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城南側中層	77%土師質土器 の混入を認め
461	土師質土器	皿	12.6	3.00	—	砂粒	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城南側下層	20%土師質土器 の混入を認め
462	土師質土器	皿	13.0	3.6	—	砂粒	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城南側成面	90%
463	土師質土器	皿	13.0	3.6	—	灰石	浅黄橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	南部中層	98%PL34
464	土師質土器	皿	13.3	3.7	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	南部中層	100%PL34
465	土師質土器	皿	12.4	3.0	—	砂粒	にぶい橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	南東コーナー下層	80%
466	土師質土器	皿	11.2	3.7	—	砂粒	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	覆土中	40%
467	土師質土器	皿	12.4	3.3	—	砂粒	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城南側下層	70%
468	土師質土器	皿	12.8	3.6	—	砂粒	にぶい橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城北側成面	90%
469	土師質土器	皿	12.5	3.5	—	砂粒	にぶい橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城南側中層	60%
470	土師質土器	皿	11.4	3.4	—	灰石・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城南側中層	70%土師質土器 の混入を認め
471	土師質土器	皿	13.3	3.8	—	石灰・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城南側下層	100%PL31
472	土師質土器	皿	12.0	3.3	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城南側下層	100%PL31
473	土師質土器	皿	12.1	3.5	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城南側成面	100%PL31
474	土師質土器	皿	12.7	3.4	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	1号土城南側成面	80%
475	土師質土器	皿	12.5	3.7	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	南部中層	95%
476	土師質土器	皿	12.5	3.3	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	南部中層	92%
477	土師質土器	皿	12.2	2.9	—	赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	2号土城南側下層	90%
478	土師質土器	皿	12.2	3.3	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	2号土城成面	100%PL31
479	土師質土器	皿	12.4	3.5	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	2号土城近上層	90%
480	土師質土器	皿	12.8	3.6	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部横ナ、底部内外面ナ	2号土城成面	90%PL34

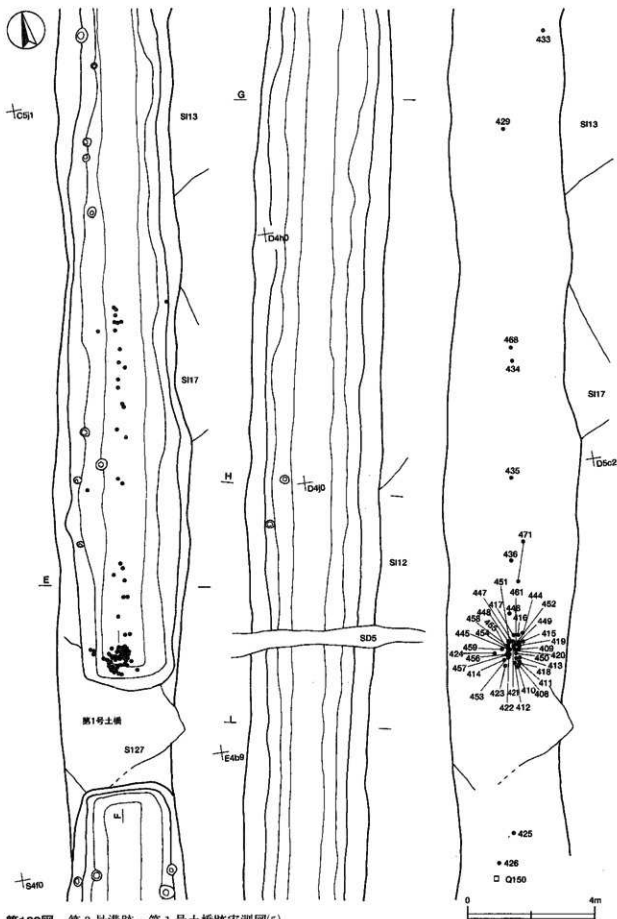
番号	器 種	器 形	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴	出土位置	備 考
481	土師質土器	皿	12.3	3.4	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部磨ナデ, 体部内・外面ナデ	2号土師覆上下層	80%
482	土師質土器	皿	12.0	3.4	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部磨ナデ, 体部内・外面ナデ	2号土師覆ナ下層	90%
483	土師質土器	皿	[11.4]	3.0	[7.0]	雲母	にふい黄橙	普通	体部口ワ成糸, 底面研削未切	覆土中	30%
484	磁 器	鉢	[12.2]	(4.3)	—	緻密	オリーブ灰・灰白	良好	体部口ワ成糸, 外面磨造付文	覆土中 (E 3 46区)	5% 黒染雲系
485	磁 器	鉢	[11.8]	(2.5)	—	緻密	明緑灰・灰白	良好	体部口ワ成糸, 外面磨造付文	1号土師南側中層	5% 黒染雲系
486	陶 器	壺	[37.0]	(5.0)	—	砂粒・長石	赤灰	良好	磨ナデ	1号土師南側中層	3%, 赤染
487	陶 器	片口鉢	[30.4]	(9.0)	—	砂粒・長石	赤灰	良好	磨ナデ, 流し口は磨造による溝みあり	南部中層	5% 赤染
488	陶 器	片口鉢	[30.0]	11.1	[15.0]	砂粒・長石	灰黄陶	良好	外面下層へ向う向軸磨造	1号土師北側上層	5% 赤染
489	土師質土器	小皿	8.3	1.9	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部磨ナデ, 体部内・外面ナデ	覆土中	90%
490	土師質土器	皿	12.2	3.5	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部磨ナデ, 体部内・外面ナデ	南部中層	80%
491	土師質土器	皿	13.6	4.1	—	砂粒	橙	普通	口縁部磨ナデ, 体部内・外面ナデ	覆土中	60%
492	土師質土器	皿	[13.0]	(4.3)	—	砂粒	橙	普通	口縁部磨ナデ, 体部内・外面ナデ	覆土中	40%
493	土師質土器	皿	[9.2]	2.9	4.2	砂粒	にふい橙	普通	体部口ワ成糸, 底面研削未切	覆土中	40%
494	土師質土器	皿	[10.6]	3.6	—	砂粒	にふい黄橙	普通	口縁部磨ナデ, 体部内・外面ナデ	北部上層	10%
TP19	陶 器	大壺	—	(8.3)	—	長石・石英	淡黄	良好	外面研削文・内面ナデ	1号土師南側中層	外周口ワ成糸, 内底

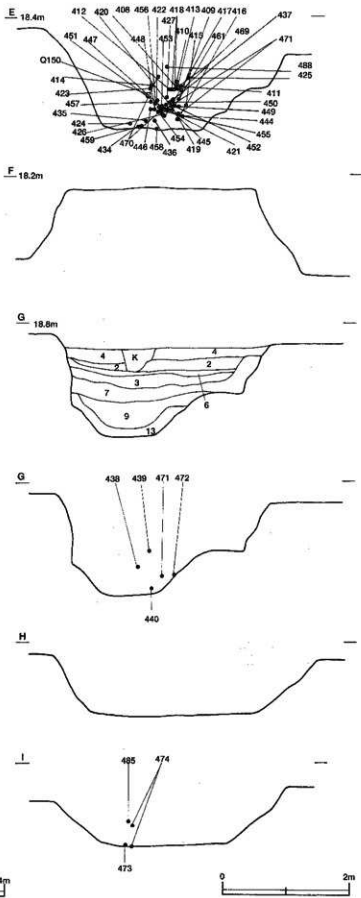
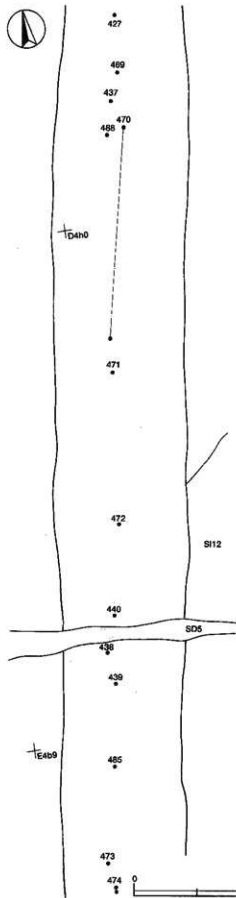
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重さ	胎 土	特 徴	出土位置	備 考
T1	丸瓦	(10.3)	(10.5)	2.2	(280)	磨得・石英	内面に布目痕	覆土中	中世

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重さ	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q150	硯	(8.1)	6.4	1.3	(59.0)	粘板岩	表面に磨削痕あり	1号土師南側中層	中世, P1.37

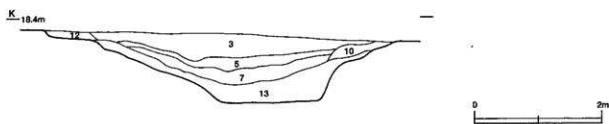
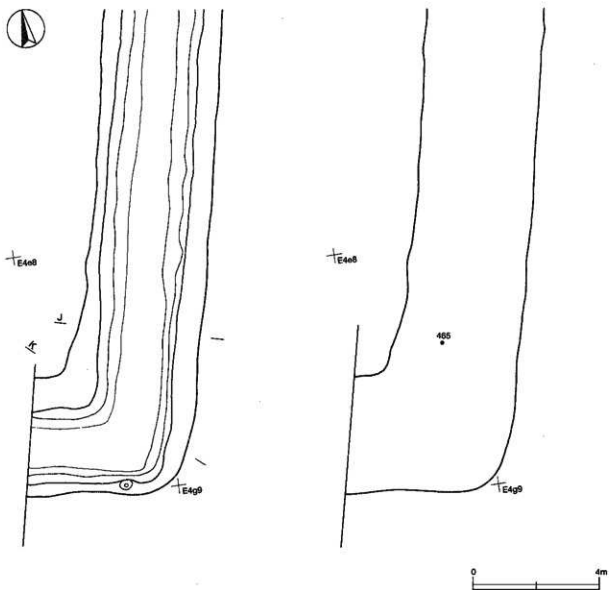
第1号土橋跡 (第189・190区)

東側堀中央からやや南よりのD4 e0区に確認され, 第27号住居跡と重複している。規模は, 長さ2.96m, 上幅3.0m, 下幅4.2mで, 堀底から土橋上面まで1.35mを測り, 台形状にロームを掘り残して構築している。本跡は, 東側地域への唯一の出入口であるが, 上幅が3.0mと比較的狭いことや土橋に付随する施設が確認されていないことなどから当館跡の正面を示すものではないと考えられる。

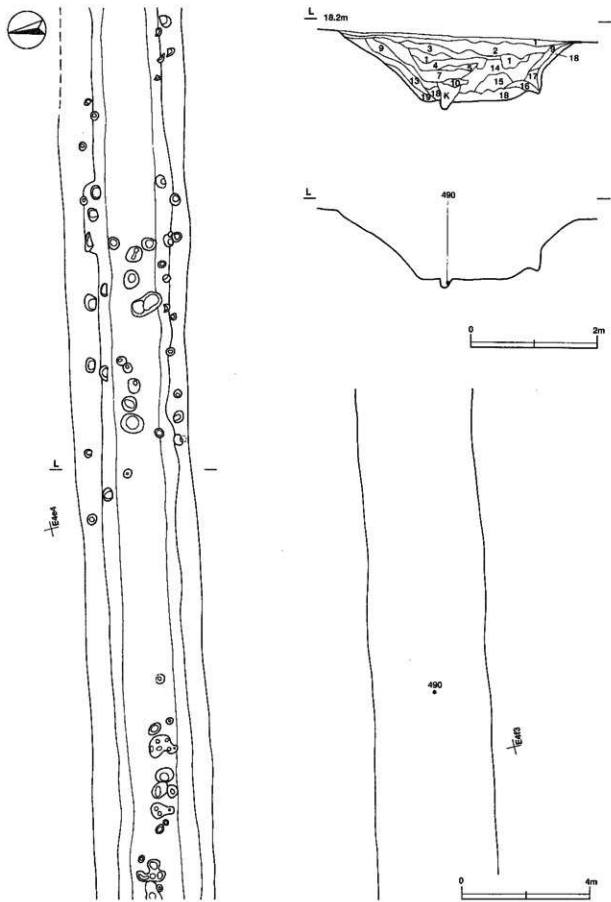




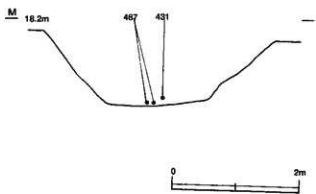
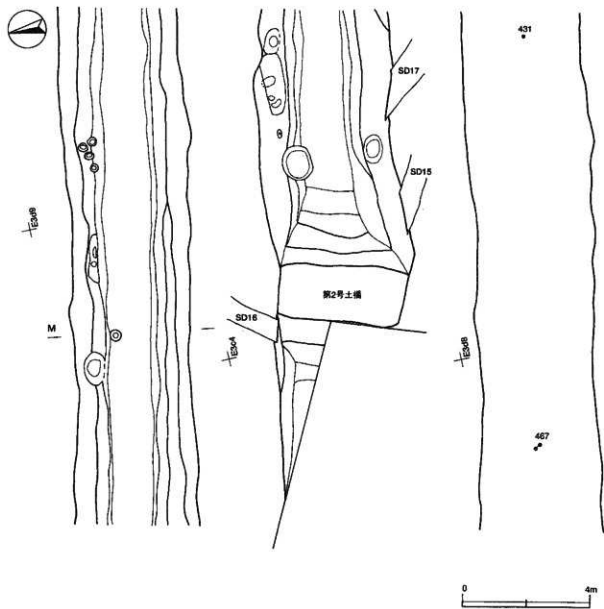
第190图 第3号溝跡・第1号土橋跡実測図(6)



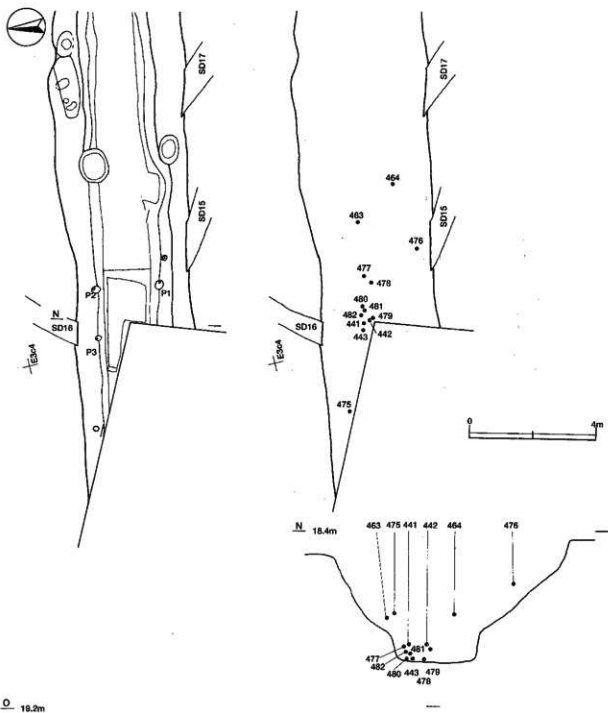
第191图 第3号沟迹实测图(7)



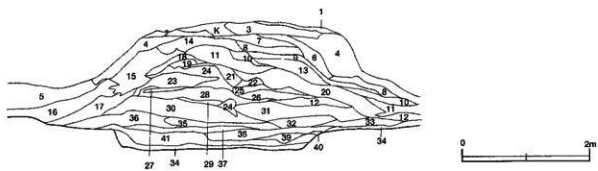
第192图 第3号沟跡実測図(a)



第193图 第3号沟迹·第2号土橋跡实测图(9)



D 19.2m



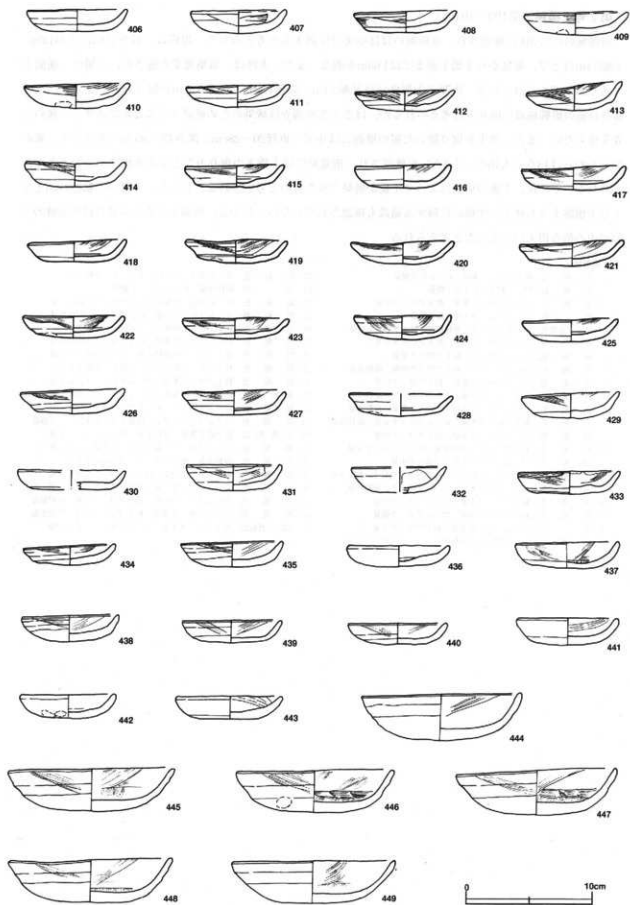
第194图 第3号沟迹·第2号土桥迹实测图(0)

第2号土橋跡（第193・194図）

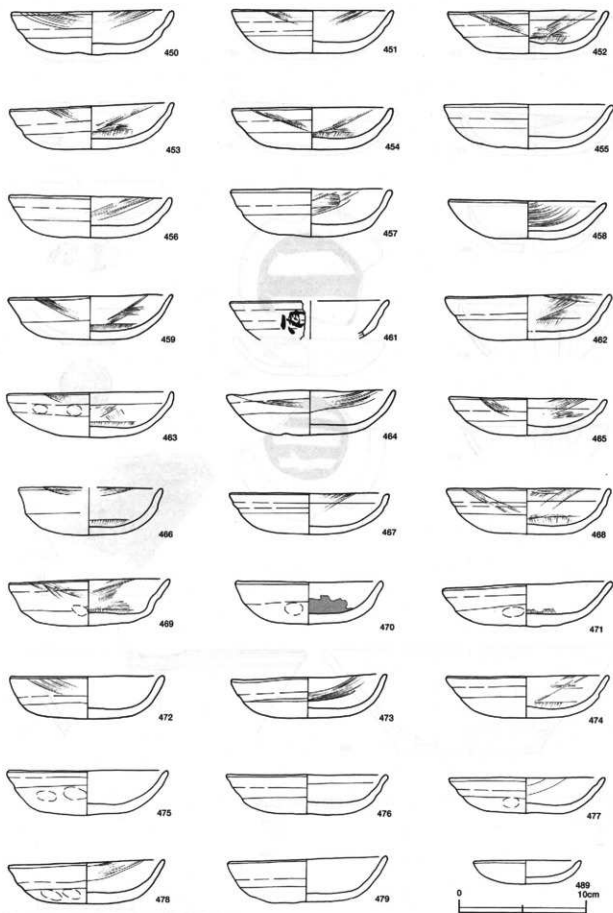
南側堀のE3c3区に確認され、南側堀のほぼ中央に位置すると考えられる。規模は、長さ4.0m、上幅1.6m、下幅6.1mほどで、堀底から土橋上面までは1.68mを測る。また、本跡は、版築地業が施され、上層から底面まで強く踏み固められている。版築下の堀底には長軸3.1m、短軸1.44m、深さ0.32mの掘り込みが見られ、土橋構築以前の橋脚施設の掘り方と考えられるが、ほとんどが調査区域外のため確認することができず、今後の調査を待ちたい。また、埋土を取り除いた堀の壁面には小穴（直径20～28cm、深さ45～56cm）が3か所、底面からかわらけ13点（大10点、小3点）が確認され、創建期には土橋下の掘り方などから木橋であったことが想定される。その後、木橋の崩壊によって土橋が構築されたものと考えられる。しかし、土橋の上幅が1.6mと第1号土橋跡よりも狭く、土橋に付随する施設も確認されていない。しかし、南面する点から見れば西館跡の正面の中心的な出入口であったと考えられる。

土層解説

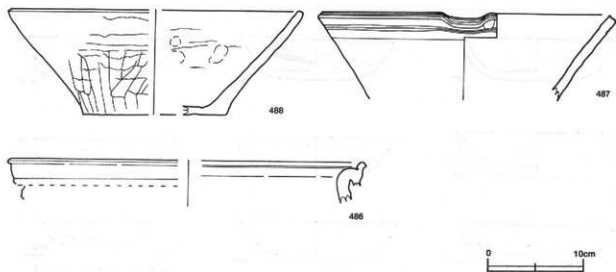
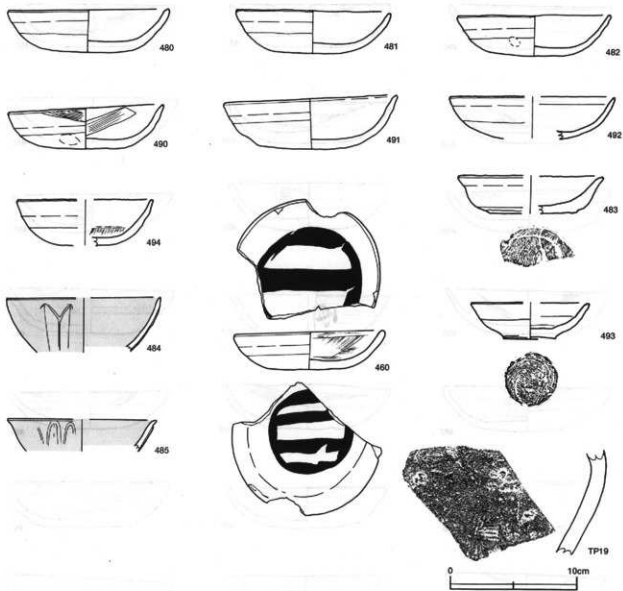
1	黒	褐色	粘土ブロック多量、ローム粒子微量	22	暗	褐色	ロームブロック・粘土ブロック・砂粒中量
2	黒	褐色	ローム粒子・粘土粒子微量	23	黒	褐色	砂粒少量、ロームブロック微量
3	黄	褐色	ロームブロック多量、粘土ブロック中量	24	暗	褐色	ロームブロック多量、粘土ブロック・砂粒中量
4	黒	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	25	暗	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック・砂粒少量
5	にぶい	黄褐色	ロームブロック・砂粒中量、粘土ブロック少量	26	暗	褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・砂粒少量
6	暗	褐色	ロームブロック多量、粘土ブロック中量	27	暗	褐色	ロームブロック多量、粘土ブロック・砂粒中量
7	暗	褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量	28	黒	褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・砂粒少量
8	黒	褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量、砂粒少量	29	暗	褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・砂粒少量
9	黒	褐色	ロームブロック多量、粘土ブロック中量	30	暗	褐色	粘土ブロック多量、ローム粒子・砂粒中量
10	黒	褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・砂粒少量	31	暗	褐色	粘土ブロック多量、ローム粒子・砂粒少量
11	暗	褐色	ロームブロック・粘土ブロック多量、砂粒中量	32	暗	褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量
12	暗	褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・砂粒微量	33	暗	褐色	ロームブロック中量、砂粒少量、粘土ブロック微量
13	暗	褐色	ロームブロック多量、粘土ブロック中量	34	灰	黄褐色	粘土粒子多量、砂粒中量、ローム粒子微量
14	暗	褐色	粘土ブロック・砂粒中量、ローム粒子少量	35	暗	褐色	ローム粒子・粘土ブロック中量、砂粒少量
15	暗	褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量	36	暗	褐色	砂粒中量、粘土ブロック・ローム粒子少量
16	暗	褐色	粘土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量	37	黒	褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・砂粒少量
17	暗	褐色	粘土ブロック多量、ローム粒子・砂粒中量	38	黒	褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量、砂粒少量
18	黒	褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子少量	39	暗	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量、砂粒微量
19	暗	褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子微量	40	暗	褐色	ロームブロック多量、粘土ブロック中量、砂粒少量
20	暗	褐色	ロームブロック多量、粘土ブロック少量	41	にぶい	黄褐色	粘土ブロック多量、ローム粒子・砂粒中量
21	暗	褐色	粘土ブロック・砂粒中量、ローム粒子少量				



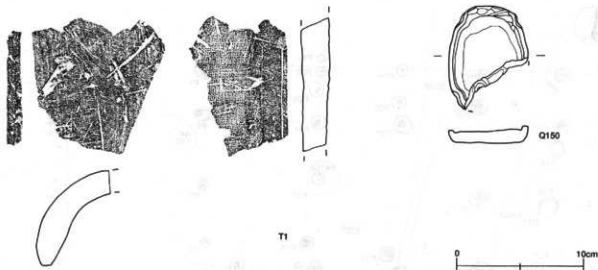
第195图 第3号沟跡出土遺物実測図(1)



第196图 第3号沟跡出土遺物実測図(2)



第197图 第3号沟路出土文物实测图(3)



第198図 第3号溝跡出土遺物実測図(4)

第9号掘立柱建物跡 (第199・200図)

位置 方形区画内の中心域に立地し、東に第10号掘立柱建物跡、南に第13号掘立柱建物跡がそれぞれ位置している。

重複関係 P8・25が第35号溝跡、P9・26が第46号溝跡、P5が第147号土坑、P22が第155号土坑、P32が第156号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と構造 桁行5間、梁行4間の桁行方向をN-79°-Wとする東西棟である。規模は桁行が9.30mで、梁行は6.30mである。柱間寸法は桁行が0.9m・2.10mの2つの寸法を基調とし、梁行は0.90m・1.50m、1.80mの3つの寸法を基調としている。また、北側部は庇と考えられ、柱間が主屋柱列より1.5mを測る。南側部は縁と考えられ、柱間が主屋柱列より0.9mを測る。建物中央にはP27・32が配置され、ちょうど主屋柱列の間であることから東柱跡と考えられ、この部分が広間的な間取りと考えられる。

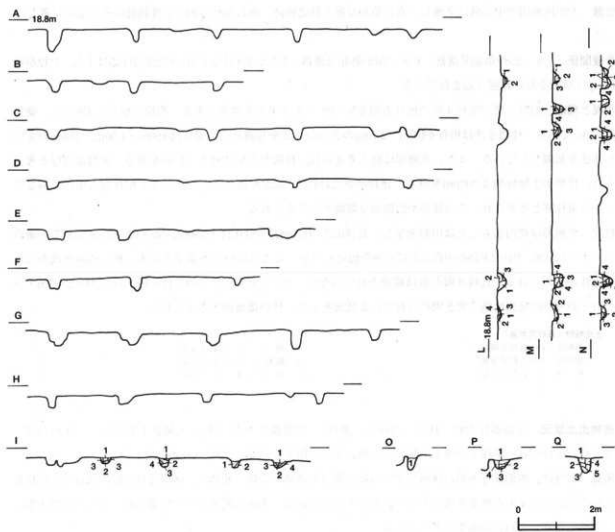
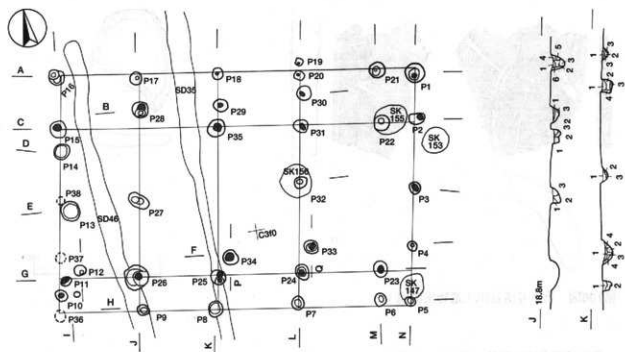
柱穴 平面形は楕円形もしくは円形を呈し、長径0.27~0.70m、短径0.24~0.60m、深さ12~57cmである。南西コーナーにP36、P10とP15の間にP37・38を想定したが、ここには柱穴が確認されず、掘り込みが浅かった可能性が考えられる。柱抜き取り痕は確認されていない。また、P1~3・10・11・15・18~20・23~26・28~31・33~35の底面は強く突き固められている状況を示し、柱の接地面と考えられる。

土層解説 (各柱穴共通)

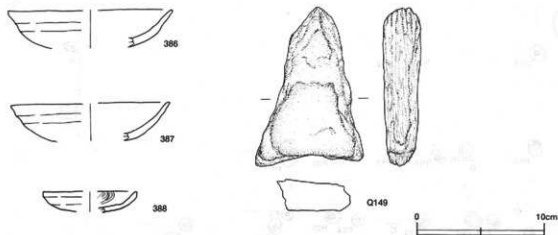
- | | |
|---------------|---------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 4 褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 5 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量 | 6 褐色 ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片22点(坏2, 高坏2, 甕18), 須恵器片1点(坏), 土師質土器片18点(かわかけ), 礫1点(雲母片岩)が埋土の覆土上層から下層にかけて出土し, 386~388・Q149を図示した。

所見 本跡は、西館跡を方形に区画している堀(第3号溝跡)に伴う建物で、区画された堀のほぼ中心に位置することから主屋的な機能を果たしていたものと考えられる。本跡の廃棄された時期は出土した土師質土器から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第199图 第9号掘立柱建物跡実測図



第200図 第9号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第9号掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
386	土師質土器	皿	[13.0]	(3.0)	—	長石・砂粒	橙	良好	口縁部ナデ、体部内・外面ナデ	F3 覆土下層	20%
387	土師質土器	皿	[12.6]	(3.0)	—	長石	橙	良好	口縁部ナデ、体部内・外面ナデ	F19 覆土中層	10%
388	土師質土器	小皿	[7.4]	(1.6)	—	砂粒	浅黄橙	普通	口縁部ナデ、体部内・外面ナデ	F29 覆土中層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q149	不	12.6	8.5	2.9	322	雲母片岩	三角形上を呈し、両面とも平坦である	F33 覆土中層	観石 ^a , P.36

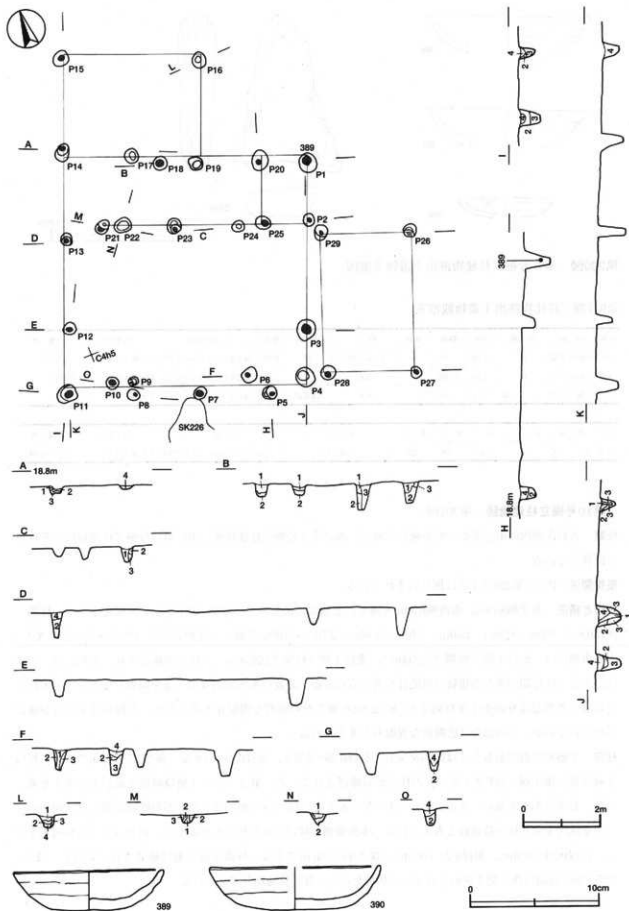
第10号掘立柱建物跡 (第201図)

位置 方形区画内の中心部からやや東に立地し、西に第9号掘立柱建物跡、南に第11号掘立柱建物跡がそれぞれ位置している。

重複関係 P7が第226号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 南北軸8.70m、東西軸6.30mを測り、北側部に張り出した建物 (P1~25) が想定される。柱間寸法は0.6m・0.9m・1.20m・1.80m・2.10m・2.40m・2.70m・3.60mを測り全体的にばらつきがみられる。また、本跡東側には、桁行1間 (柱間寸法3.60m)、梁行1間 (柱間寸法2.40m) の柱列が確認され、本跡と同一の建物、もしくは時期が異なる建物の可能性が考えられるが、北及び東側の張り出し部を間取りとして取り入れなければ、北側部は柱間が主屋柱列より1.8~2.1mを測るため底的な間取りと考えられ、南側部は東柱跡が確認されていないが、この部分は広間的な間取りと考えられる。

柱穴 平面形は楕円形もしくは円形を呈し、長径0.28~0.57m、短径0.21~0.49m、深さ17~74cmである。柱抜き取り痕 (第1層) はP2・3・6の柱穴から確認されている。第2・3・4層は暗褐色系の土で埋土と考えられ、しまりがやや強い。また、P1~3・5~8・10~15・18・20・21・23・25の底面は強く突き固められている状況を示し柱の接地面と考えられる。本跡東側に確認された柱穴の平面形は、円形もしくは楕円形を呈し、長径0.33~0.40m、短径0.21~0.39m、深さ45~74cmである。柱抜き取り痕は確認されていない。また、P27~29の底面は強く突き固められている状況を示し、柱の接地面と考えられる。



第201图 第10号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック中層 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中層 | 4 黒褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片58点(坏12, 高坏10, 埴5, 甕31), 須恵器片2点(坏, 甕), 土師質土器片32点(かわらけ), 縄文土器片1点, 炭化材1点(樹種: ヒノキ)が埋土の覆土上層から下層にかけて出土し, 389・390も同様で, とくに389はP1の下層から正位の状態で炭化材とともに出土している。

所見 本跡は, 堀東側部とほぼ平行で, 西館跡に伴う建物と考えられるが, 規模と形状を明確に把握することができず, また, 北東部と東側部に確認された張り出し部が本跡と同一の建物であるかについても不明である。P1から出土した389は, 炭化材の上面に重なって出土しているが, 内・外面に炭化物の付着, 2次焼成を受けた痕跡はなく本跡が焼失した直後に投棄されたものと考えられる。本跡の廃棄された時期は出土したかわらけから13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

第10号掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
389	土師質土器	皿	11.6	3.2	-	砂粒	橙	普通	1編部横ナテ, 体部内外面ナテ	P1覆土下層	100%, P1J2
390	土師質土器	皿	13.2	3.4	-	砂粒	にがい橙	普通	1編部横ナテ, 体部内外面ナテ	P3覆土上層	20%

第11号掘立柱建物跡 (第202図)

位置 方形区画内の中心部から東に立地し, 西に第12号掘立柱建物跡が位置している。

重複関係 P1~11が第78号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間, 梁行1間の建物跡で, 桁行方向をN-75°-Eとする南北棟と考えられる。規模は桁行3.60m, 梁行2.10mで, 柱間寸法は桁行は0.70m・0.90m・1.10m・1.80mの4つの寸法を基調とし, 梁行は2.10mを基調としている。

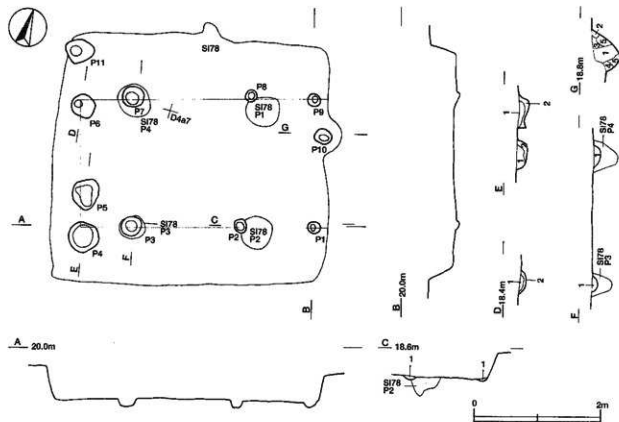
柱穴 平面形は円形を呈し, 長径0.2~0.50m, 短径0.17~0.45m, 深さは確認された第78号住居跡の床面から計測すると5~20cmであるが, 住居跡の深さを考慮すると全ての柱の深さが50cm以上であることが判明する。

土層解説

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片5点(甕), 須恵器片1点(甕), 土師質土器片4点(かわらけ)がP9の覆土上層から中層にかけて出土している。

所見 本跡の規模は, 桁行3間, 梁行1間と小規模であり, P11が北側に延びていることや東側部が調査区域外になることから, 大形の建物の一部分が確認されたものと考えられる。また, 方形区画内から確認された他の掘立柱建物跡と主軸方向の違いがみられるが, ピットの形状や柱間の寸法など類似点が見られるため西館跡に伴う可能性が考えられる。本跡の廃棄された時期は, 出土したかわらけから13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第202図 第11号掘立柱建物跡実測図

第12号掘立柱建物跡 (第203・204図)

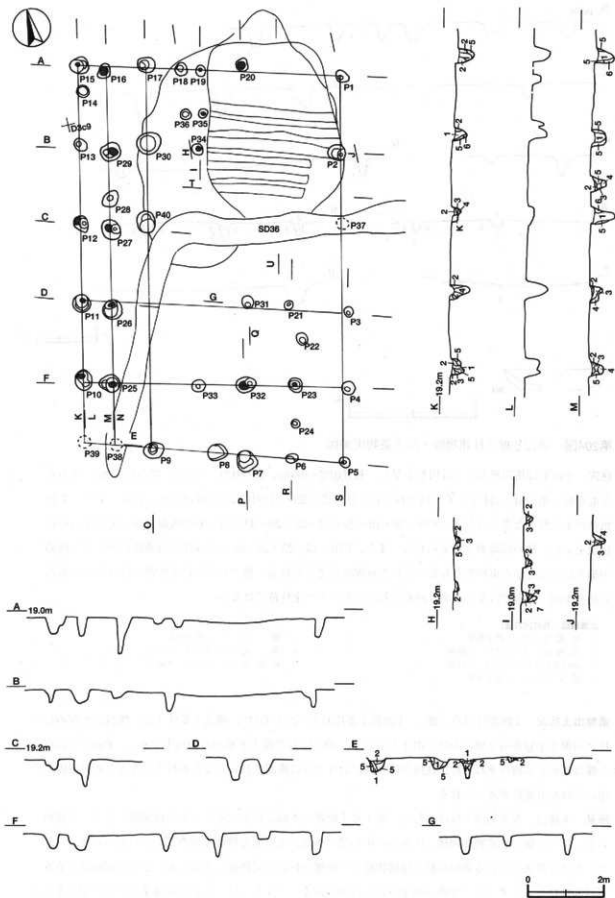
位置 方形区画の中心部に立地し、北に第13号掘立柱建物跡、東に第11号掘立柱建物跡がそれぞれ位置している。

重複関係 D3 d9区～D3 c0区にかけて「く」の字状に第36号溝跡に掘り込まれている。

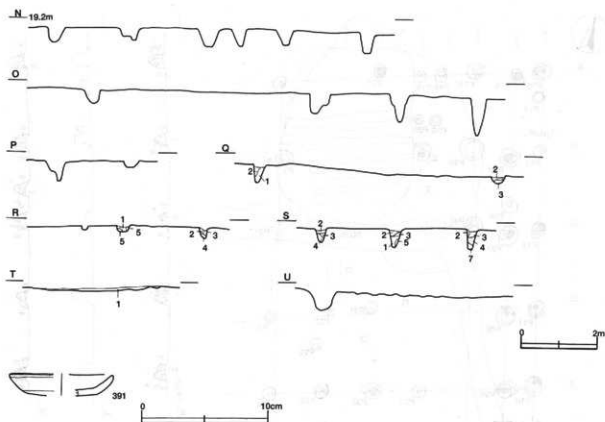
規模と構造 西側部桁行9.90m、東側部桁行10.20m、北・南妻部梁行は6.90mを測り、桁行方向を $N-12^{\circ}-E$ とする南北棟である。柱間寸法は0.6m、0.9m・1.20m、1.50m、1.80m・2.10m・2.40m・2.70mの7つの寸法を基調とし、ばらつきが見られる。また、本跡の中央部から北東コーナー寄りに隅丸長方形に一段掘り下げられた部分が確認され、規模は、長軸4.50m、短軸3.20m、深さは10cmほどで、底面には幅18～29cm、深さ5cmほどの溝状の掘り込みが6か所直線的に延び、その底面は硬化している。間取りは、西側部に東柱跡を伴う柱列が見られ、主屋柱列からの柱間寸法が1.2mであるため縁の間取りと考えられ、北側部に掘り込み地業が施されている部分は底面が硬化していることから土間、もしくは腰と考えられる。南側部は主屋柱列と対になる東柱跡がみられることから広間間取りと考えられる。

掘り込み部土層解説 (T)

1 暗褐色 ローム砂子少量



第203图 第12号掘立柱建物跡実測図



第204図 第12号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

柱穴 平面形は楕円形もしくは円形を呈し、長径0.22～0.60m、短径0.21～0.57m、深さ11～99cmである。柱抜き取り痕（第1層）はP4・8～11・13・15・16・27・29・31の柱穴から確認されている。第2～7層は暗褐色系の土で埋土と考えられる。P10～16・19・20・23・25～29・32・34・35の底面は強く突き固められている状況を示し、柱の接地面と考えられる。また、P10～13・25・27・29・32は柱穴西側部に強く突き固められた中端を持つことから東柱をとまっていた可能性が考えられる。他のピットにも中端を伴うものがあるが、掘り込みが同一方向ではなく、突き固められていないため東柱跡ではない。

土層解説（各柱穴共通）

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子微量 | 5 褐色 ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 6 褐色 ロームブロック少量 |
| 3 極暗褐色 ロームブロック微量 | 7 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片21点（甕），土師質土器片41点（かわらけ），縄文土器片1点，礫21点が埋め戻された柱穴の覆土上層から下層にかけて出土している。391はP17の覆土下層からの出土である。P10から21点出土した礫は底面から積み重ねられ、柱抜き取り痕に沿うように確認されているため柱を支えるための根固めとして用いられた可能性が考えられる。

所見 本跡は、堀東側部とはほぼ平行で、第1号土橋跡の正面に位置することから西館跡にともなう建物と考えられ、第9号掘立柱建物跡同様、区画内の中心部であり、主屋的な機能を果たしていたものと考えられる。また、本跡と隣接している第13号掘立柱建物跡との距離が1.0mと近距離であるため、2棟が同時期に存在していた可能性はないと考える。本跡の廃棄された時期は出土したかわらけから13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

第12号掘立柱建物跡出土遺物観察表

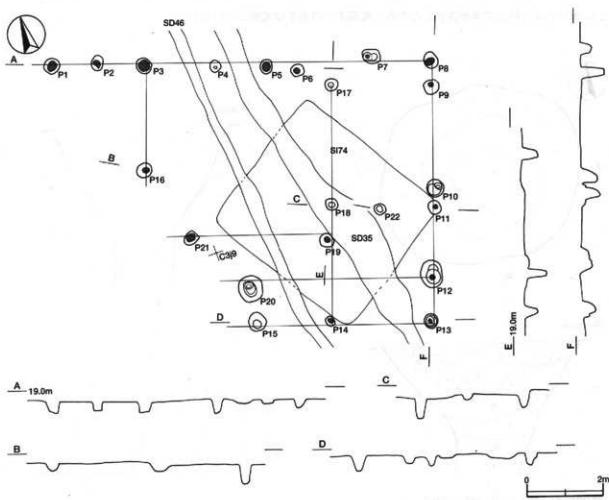
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
391	土師質土器	小 皿	[8.0]	(1.7)	—	砂較	橙	良好	口縁部焼ナゲ、底部内・外面ナゲ	P17遺上下層	25%

第13号掘立柱建物跡 (第205図)

位置 方形区画の中心部に立地し、北に第9号掘立柱建物跡、南に第12号掘立柱建物跡がそれぞれ位置している。

重複関係 中央部で第74号住居跡を掘り込み、南側部から北側部で直線的に第35・46号溝跡に掘り込まれている。

規模と構造 東西軸9.90m、南北軸6.90mを測るが、西側部が調査区域外に延びているため、本来は桁行方向をN-70°-Wとする東西棟であると考えられる。柱間寸法は東西軸が0.90m・1.20m・1.50m・1.80m・2.10mを基調とし、南北軸が0.60m・0.90m・1.20m・1.80m・2.70mを基調とし全体的にばらつきがみられる。また、南側部は庇、もしくは縁と考えられ、柱間が主屋柱列より1.2mを測る。P18・19・21は東柱跡と考えられ、この部分が広間的な間取りと考えられる。



第205図 第13号掘立柱建物跡実測図

柱穴 平面形は楕円形・円形・方形を呈し、長径0.25～0.72m、短径0.25～0.65m、深さ14～60cmである。P1～3・5～9・11～14・16～19・21の底面は強く突き固められている状況を示しているため柱の接地面と考えられる。また、P10・17～19・21は束柱跡と考える。

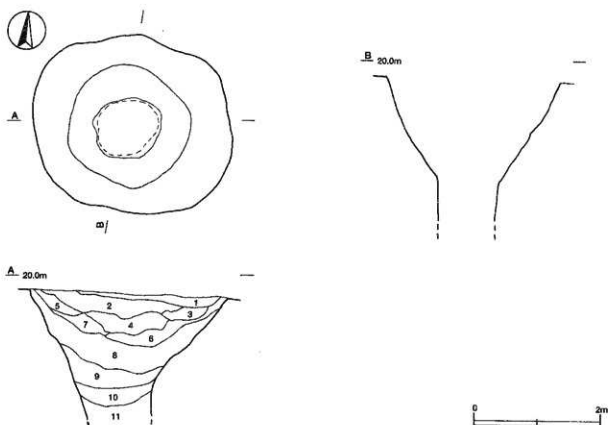
遺物出土状況 土師質土器片4点（かわらけ）が柱穴の埋土から出土し、本跡に伴うものと考えられる。

所見 本跡は、南北軸が堀東側部とほぼ平行であることや第9号掘立柱建物跡の桁行方向とほぼ同軸であることから方形区画内に伴うと考えられる。また、第9・12号掘立柱建物跡同様、区画内の中心部であることから主眼的な機能を果たしていたものと考えられるが、第12号掘立柱建物跡とは同時期ではなく、同様の間取りを持ち、桁行方向を同一とする第9号掘立柱建物跡と同時期に存在していた可能性が考えられる。本跡の廃棄された時期は出土したかわらけから13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

第1号井戸跡（第206図）

位置 方形区画内の南部に位置し、北には第12号掘立柱建物跡、南西には第2号土橋跡がそれぞれ位置している。

規模と構造 上部は、長径3.30m、短径2.80mの楕円形で、長軸方向はN-60°-Wを指している。確認面から深さ1.6mまで漏斗状に掘り込み、下部は長径1.13m、短径1.00mの楕円筒形に掘り込まれている。確認面から2.3m掘り込んだ時点で水が湧出したため、底部までの調査は実施していない。



第206図 第1号井戸跡実測図

覆土 11層に分層され、ほとんどがレンズ状の堆積状況を示した自然堆積であるが、上層の第3・4・6層はロームブロックを比較的多く含んで不自然な堆積状況を示し、故意に埋め戻された可能性が想定される。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	8 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	10 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片5点(高坏2・甕3)、土師質土器片14点(かわらけ13・土鍋1)、常滑片2点(壺カ)、縄文土器片1点が覆土中層から下層にかけて出土している。

所見 本跡から出土した遺物はいずれも細片であるが、下層部からは土師質土器片・常滑片が出土し、西館跡に伴う井戸と考えられる。本跡の廃棄された時期は、出土した土師質土器から13世紀後半から14世紀前半と想定される。

第2号井戸跡(第207図)

位置 方形区画内の北東城の平坦部に立地し、西に第9号掘立柱建物跡、南東に第10号掘立柱建物跡がそれぞれ位置している。

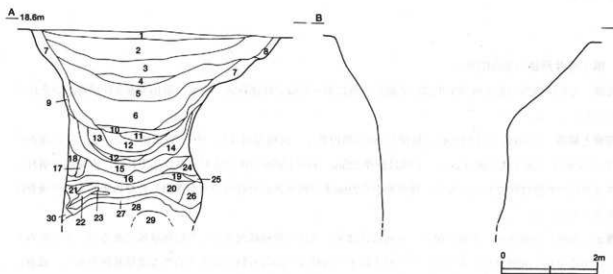
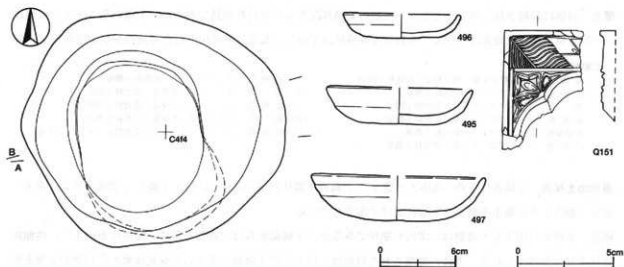
規模と構造 上部は、長径4.20m、短径3.70mの楕円形で、長軸方向はN-89°-Wを指している。確認面から深さ1.45mまで漏斗状に掘り込み、下部は長径2.35m、短径1.95mの楕円筒形に掘り込まれて、南側部が崩れて構築当時の状態は保たれていない。確認面から2.9mまで掘り込んだ時点で水が滲出したため底部までの調査は実施されていない。

覆土 30層に分層され、上層の第1～9層はほぼレンズ状の堆積状況を示した自然堆積であるが、中層から下層である第10～30層はロームブロック・粘土粒子・砂粒などの含有物を含み不自然な堆積状況を示し、故意に埋め戻された可能性が想定される。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量	17 褐色	ロームブロック多量
3 黒色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	18 暗褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ロームブロック少量	19 黒褐色	炭化粒子多量、ロームブロック少量
5 黒色	ローム粒子微量	20 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック少量	21 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック少量	22 褐色	ローム粒子多量
8 暗褐色	ローム粒子多量	23 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
9 暗褐色	ロームブロック中量	24 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物・粘土粒子微量
10 黒褐色	ロームブロック少量	25 にぶい黄褐色	粘土粒子多量、炭化粒子・砂粒微量
11 黒褐色	ロームブロック少量、粘土粒子微量	26 黒褐色	ロームブロック中量、炭化物・粘土粒子微量
12 黒褐色	ロームブロック中量、粘土粒子微量	27 黒褐色	炭化粒子多量、ロームブロック微量
13 暗褐色	ロームブロック少量・粘土粒子微量	28 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
14 暗褐色	ロームブロック中量、粘土粒子微量	29 暗褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量
15 黒褐色	炭化物多量、ロームブロック少量	30 にぶい黄褐色	粘土粒子多量、砂粒少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片191点(坏3、高坏15・埴2、甕171)、須恵器片3点(坏2、甕1)、土師質土器片260点(かわらけ)、常滑片1点(壺カ)、陶器片1点、磁器片3点、縄文土器片4点、土製品3点(支脚)、石製品1点(硯カ)、鉄滓4点が覆土上層から下層にかけて出土し、495～497は人為堆積層である覆土中層から



第207図 第2号井戸跡・出土遺物実測図

下層にかけて出土している。Q151は確認された最下層である第28層からの出土である。

所見 本跡の上部から出土した遺物は細片で本跡に伴う遺物はないが、人為堆積層から出土した「かわらけ」などは井戸を埋め戻す際に混入したものと考えられ、本跡の使用最終段階の遺物と捉えることができる。また、本跡の位置は西館内の中央部の北東に位置し、周辺部で確認された建物跡の機能を想定する上で重要な遺構である。時期は出土した土師質土器から13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

第2号井戸跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
495	土師質土器	皿	11.4	3.8	—	赤色粒土	橙	普通	口縁部横ナデ、体部内・外面ナデ	覆土中	30%
496	土師質土器	小皿	9.2	1.9	—	砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ、体部内・外面ナデ	覆土中	30%
497	土師質土器	皿	13.7	3.5	—	砂粒	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、体部内・外面ナデ	覆土中	35%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q151	瓦	(6.2)	(4.2)	0.8	(27.9)	粘板岩	陸部・海部欠損、隅部に唐胡花文	覆土中	20%、PL38

第42号溝跡 (第208図)

位置 方形区画内の第3号溝跡 (方形区両堀跡) の北に沿って東西方向に検出されている。

重複関係 E4 d6区で第82号住居跡を掘り込んでいる。

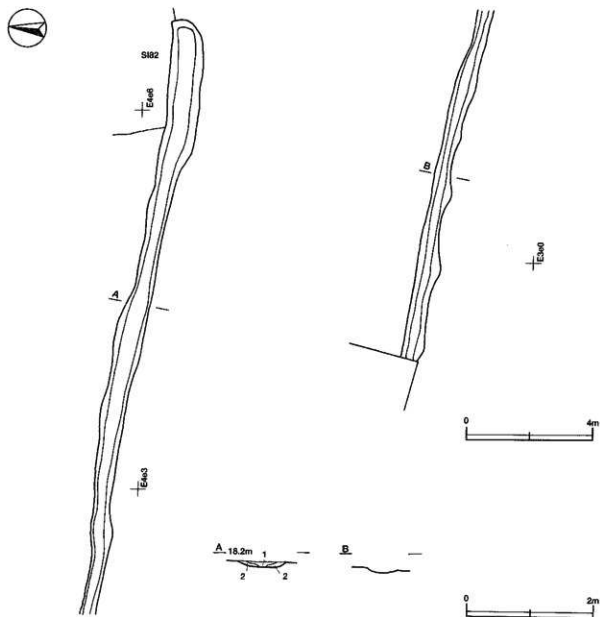
規模と形状 耕作による削平のため全体の形状を把握することはできないが、E3 d9区から東方向 (N-100°-E) に直線的に延び、長さは33.5mほどが確認されている。規模は上幅0.40~1.00m、下幅0.14~0.50m、深さ10cmほどで、底面はほぼ平坦で、壁面は外傾している。

覆土 2層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 褐色 ロームブロック少量

2 褐色 ローム粒子中量



第208図 第42号溝跡実測図

遺物出土状況 陶器片1点、石製品1点（磨製石斧）が出土しているが、本跡に伴うものではない。

所見 本跡は耕作などによる削平のため全体の形状を把握することができないが、方形区画堀に対してほぼ平行に延び、東方向は第3号溝跡同様に北に屈曲して第44号溝跡に接続するものと想定され、堀を構築する前段階の区画的な溝であった可能性が考えられる。

第44号溝跡（第209図）

位置 方形区画内の南東部に立地し、第3号溝跡（方形区画堀跡）が東側を南北に平行して延びている。

重複関係 E4 b8区で第83号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北部が調査区域外であるため全体を把握することができないが、E4 b8区から南方向（N-0°-E）に直線的に延び、9.0mほどが確認されている。規模は上幅1.20～1.84m、下幅0.24～0.60m、深さ60～80cmほどで、底面はやや凹凸がみられるもののほぼ平坦で、壁面は外傾している。東側部が深く掘られ、底部は西側部よりも硬化している。また、第44号溝跡の上面には畦状の硬化した黒色土が確認されている。

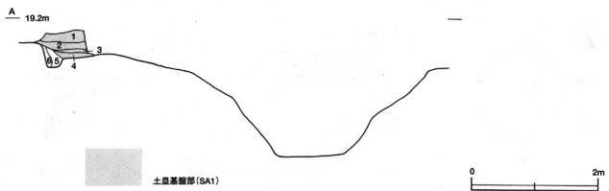
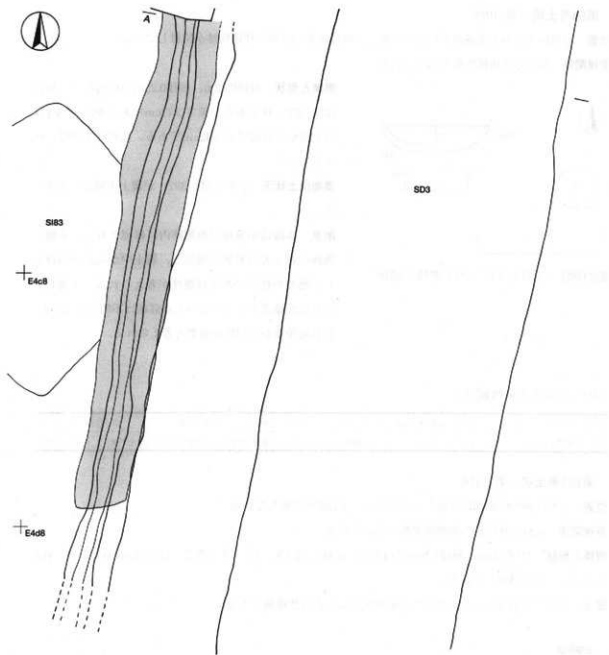
覆土 6層に分層され、上層の第1～4層は畦状のしまりの強い層で、第5・6層は第44号溝跡の覆土である。

土層別記

1 黒褐色 ローム粒子少量	4 暗褐色 ローム粒子少許
2 黒褐色 ロームブロック少量	5 褐色 ロームブロック中量
3 褐色 ロームブロック少量	6 褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片19点（甕）が出土しているが、混入であることから本跡に伴うものではない。

所見 本跡は北側部が調査区域外に延びているため全体の形状を把握することができないが、東側部の床面が硬化している点や方形区画堀跡に対してほぼ並び、南方向の延長線上で第42号溝跡と接続するものと想定し、堀を構築する前段階の区画的な溝であった可能性が考えられる。また、第44号溝跡を方形区画堀跡の前段階と想定すると、畦状の硬化した黒色土は土塁の基盤部の可能性が考えられる。

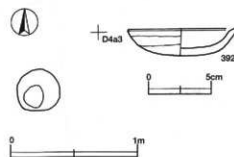


第209图 第44号溝跡実測图

第94号土坑（第210図）

位置 方形区画内の中央部の平坦部に立地し、西には第13号掘立柱建物跡が位置している。

重複関係 第75号住居跡を掘り込んでいる。



第210図 第94号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 長径0.32m、短径0.25mの楕円形で、長径方向はN-25°-Wである。深さは17cmであるが、第75号住居跡の上端から計測すると42cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

遺物出土状況 かわらけ（392）が覆土下層から出土している。

所見 本跡は小規模で西館跡内に確認されている掘立柱建物跡の掘り方の形状に類似し、覆土中からかわらけが出土し、建物の柱穴である可能性が考えられる。本跡に伴う他の柱穴が確認されていないため詳細は不明である。時期は、13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

第94号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
392	土師質土器	小皿	8.4	2.3	—	砂粒	橙	普通	口縁部僅ナテ、底部小・外面ナテ	覆土下層	90%、PL30

第101号土坑（第211図）

位置 方形区画内の南部に立地し、北にはビットD群が位置している。

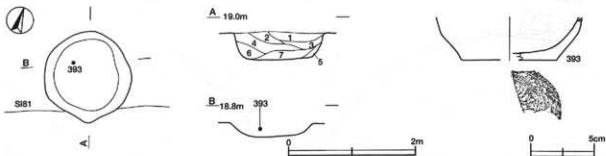
重複関係 第81号住居跡の南側部を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.44m、短径1.40mの円形で、長径方向はN-15°-Wである。深さは40cmであり、底面は皿状を呈し、壁は外傾している。

覆土 7層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量 | 6 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 灰褐色 | ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子少量 | | |



第211図 第101号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片9点(坏3, 高坏4, 甕2), 土師質土器片1点(かわらけ)が出土している。393は覆土中層からの出土で, 底面は回転糸切りで, 西館内で出土したかわらけとは技法が異なる。

所見 本跡は, 形状及び出土遺物から西館内に伴う遺構と考えられ, 時期は西館跡の年代観を考慮して13世紀から14世紀と考えられる。

第101号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
393	土師質土器	碗	—	(34)	[76]	砂粒	にぶい黄	普通	外部ワケロ成形, 底部回転糸切り	覆土中層	15%

第115号土坑 (第212図)

位置 方形区画内のほぼ中央部に立地し, 第9・13号掘立柱建物跡のほぼ中間に位置している。

規模と形状 長径1.20m, 短径1.02mの楕円形で, 長径方向はN-23°-Eである。深さは12cmであり, 底面は平坦で壁は外傾している。

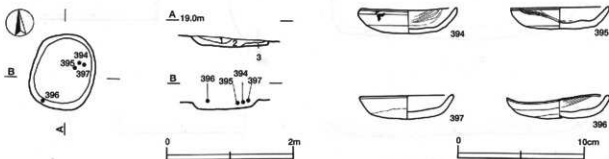
覆土 3層に分層され, レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片23点(坏4, 甕19), 土師質土器片81点(かわらけ)が出土している。394~397は覆土下層からの出土で, 本跡に伴うものである。また, 394の口唇部には煤が付着しており, 灯明皿として使用されていたものと考えられる。

所見 本跡は小規模ながら出土したかわらけ片は81点と多量である。また, 出土位置が覆土下層から底面で一括投棄した可能性があり, 廃棄土坑の可能性が考えられるが, 堆積状況は自然堆積である。時期は, 出土したかわらけから13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第212図 第115号土坑・出土遺物実測図

第115号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
394	土師質土器	小皿	7.4	2.0	—	砂粒	にぶい橙	普通	口縁部ナガ、内部内・外蓋ナゲ	覆土下層	100%土師北濃焼 付巻21.32
395	土師質土器	小皿	7.7	1.7	—	砂粒	にぶい橙	普通	口縁部ナガ、内部内・外蓋ナゲ	覆土下層	70%
396	土師質土器	小皿	8.1	1.8	—	砂粒	橙	普通	口縁部ナガ、内部内・外蓋ナゲ	覆土下層	80%
397	土師質土器	小皿	7.1	1.9	—	砂粒	にぶい橙	普通	口縁部ナガ、内部内・外蓋ナゲ	覆土下層	80%

第116号土坑 (第213図)

位置 方形区画内の北東部に立地し、南には第10号掘立柱建物跡が位置している。

規模と形状 長軸4.06m、短軸1.54mの隅丸長方形で、長軸方向はN-73°-Wである。深さは26cmであり、底面は平坦で境は外傾している。

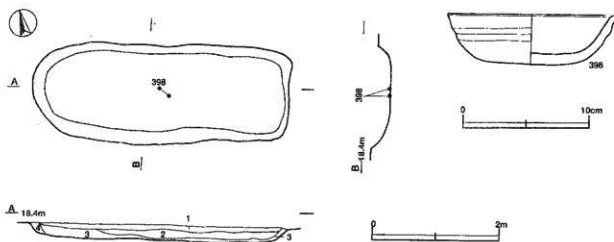
覆土 4層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 3 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片45点(高坏8、甕37)、須恵器片1点(甕)、土師質土器片36点(かわらけ)、礫1点(雲母片岩)が出土している。398は中央部底面からの出土で本跡に伴うものである。

所見 本跡の覆土中には炭化物・焼土が比較的多く含まれているが、出土遺物には炭化物が付着しておらず、底面や壁面に火熱を受けた痕跡は認められず、周辺部からの流入と考えられる。西館内で出土しているかわらけと同時期のものが底面より出土していることから、第10号掘立柱建物跡に伴う施設と想定され、時期はかわらけから13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第213図 第116号土坑出土遺物実測図

第116号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
398	土師質土器	皿	13.2	4.1	—	赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部ナガ、内部内・外蓋ナゲ	中央部底面	K7%

第137号土坑（第214図）

位置 方形区画内北東部に立地し、東には第10号掘立柱建物跡が位置している。

重複関係 北側部で第161号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.04m、短径1.10mの不整楕円形で、長径方向は $N-5^{\circ}-W$ である。深さは24cmであり、底面は平坦で壁は外傾している。

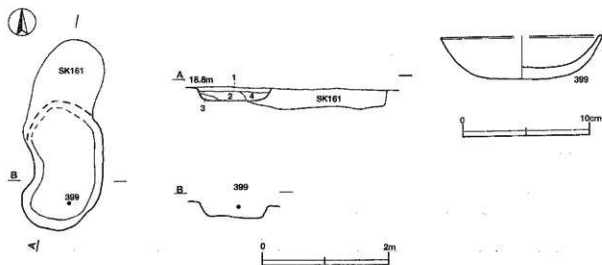
覆土 4層に分層され、ローム土を比較的多く含む人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 4 褐色 ローム粒子多量 |

遺物出土状況 かわらけが大・小1点ずつ出土している。399は本跡に伴うもので覆土中層からの出土である。

所見 本跡は北側部が第161号土坑に掘り込まれ、遺物も少量であるが、西館内で出土している「かわらけ」と同様のものが出土し、西館跡と同時期と想定され、13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第214図 第137号土坑・出土遺物実測図

第137号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	形状	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
399	土製質土器	皿	12.7	3.3	—	砂粒	橙	普通	口縁部噴ナリ、体部内外面ナリ	覆土中層	50%

第148号土坑（第215図）

位置 方形区画内北東部に立地し、西には第10号掘立柱建物跡、第137号土坑がそれぞれ位置している。

規模と形状 長径2.18m、短径1.38mの楕円形で、長径方向は $N-43^{\circ}-W$ である。深さは24cmであり、底面は平坦で壁は外傾している。

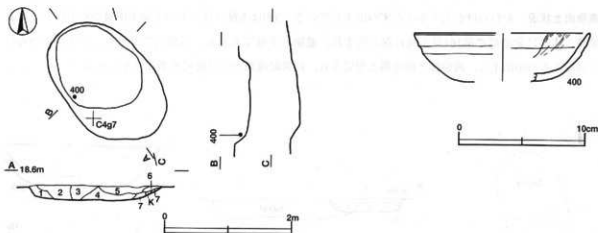
覆土 7層に分層され、不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 明褐色 | ローム粒子多量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片7点(莖), 土師質土器片18点(かわらけ)が出土し, 400は本跡に伴うもので覆土中層からの出土である。

所見 本跡の用途について詳細は不明であるが, 西館内出土の「かわらけ」と同様のものが出土し, 時期は13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。



第215図 第148号土坑・出土遺物実測図

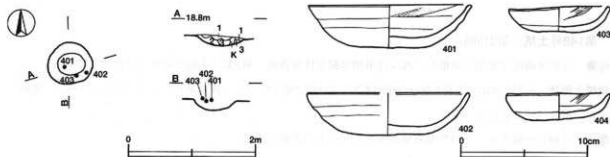
第148号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
400	土師質土器	坏	[14.8]	(3.8)	—	赤色粒子	橙	普通	口縁部焼ナゲ, 体部内外面ナゲ	覆土中層	20%

第153号土坑 (第216図)

位置 方形区画の中心部に立地し, 西には第9号掘立柱建物跡が位置している。

規模と形状 長径0.70m, 短径0.64mの円形で, 長径方向はN-70°-Eである。深さは18cmであり, 底面は平坦で壁は外傾している。



第216図 第153号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層され、不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
2 明褐色 ローム粒子中量

- 3 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片2点(莖)、土師質土器片30点(かわらけ)が出土している。401~404は本跡に伴うもので覆土上層から投棄された状態で出土している。

所見 出土した「かわらけ」は覆土上層に集中し、一括投棄した様相を示している。時期はかわらけから、13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

第153号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
401	土師質土器	皿	12.8	3.5	—	赤色粒子	にがい投	普通	1.胎土赤ナリ, 胎土内赤筋ナリ	覆土上層	80%, PL.32
402	土師質土器	皿	12.6	3.3	—	赤色粒子	豊	普通	1.胎土赤ナリ, 胎土内赤筋ナリ	覆土上層	43%
403	土師質土器	小皿	7.9	2.2	—	砂粒	浅黄橙	普通	1.胎土赤ナリ, 胎土内赤筋ナリ	覆土上層	100%, PL.32
404	土師質土器	小皿	8.2	2.1	—	砂粒	浅黄橙	普通	1.胎土赤ナリ, 胎土内赤筋ナリ	覆土上層	60%

第160号土坑 (第217図)

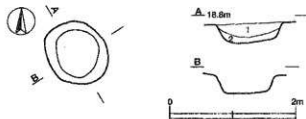
位置 方形区画内の北東部に立地し、東には第10号掘立柱建物跡が位置している。

規模と形状 長径1.06m、短径0.92mの楕円形で、長径方向はN-42°-Wである。深さは30cmであり、底面は平坦で壁は外傾している。

覆土 2層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒微量



第217図 第160号土坑実測図

遺物出土状況 土師質土器片37点(かわらけ)が底面にまとまって出土し、投棄された可能性が考えられる。

所見 出土したかわらけは底面に集中し、一括投棄した様相を示している。時期は出土したかわらけから13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

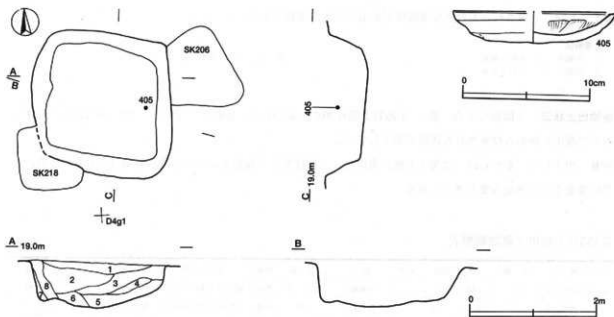
第205号土坑 (第218図)

位置 方形区画内の中央より南に立地し、北には第12号掘立柱建物跡が位置している。

重複関係 第206・218号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.56m、短軸2.24mの隅丸長方形で、長軸方向はN-75°-Wである。深さは63cmであり、底面は平坦で壁は外傾している。

覆土 8層に分層され、ロームブロックを多く含む人為堆積である。



第218図 第205号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1 褐色 ローム粒子中量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 褐色 ロームブロック多量 | 6 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子多量 | 8 褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片4点(環1, 高環1, 椀1, 甕1), 土師質土器片44点(かわらけ), 土製品2点(不明)が出土し, 405は覆土中層からの出土である。

所見 本跡からは当館内で出土しているかわらけと同時期のものが覆土中層より出土しているが, その性格は不明であり, 時期はかわらけから13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

第205号土坑出土遺物観察表

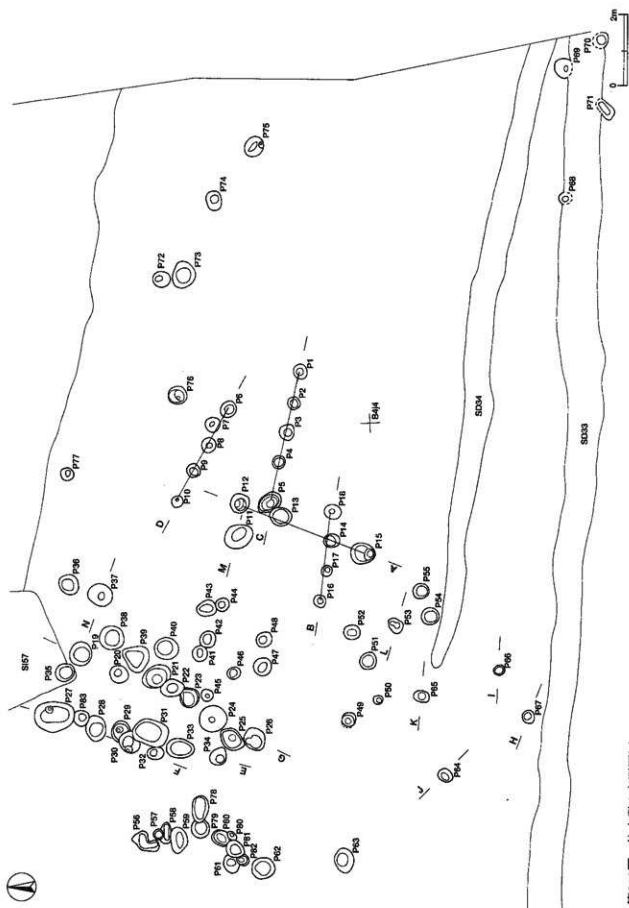
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
405	土師質土器	皿	[12x]	2.5	—	雲母・赤色粒子	浅黄緑	普通	口縁部横ナテ, 底部内・外周ナテ	覆土中層	25%

柱穴群

調査された方形区画内から6か所の柱穴群が確認されている。これらの柱穴群は建物跡として捉えることはできないが, 一部柱穴痕や柱列として並ぶものも確認できることから, 掘立柱建物跡が存在した可能性が考えられる。以下, 確認された柱穴群について記載する。

①柱穴群A(第219・220図)

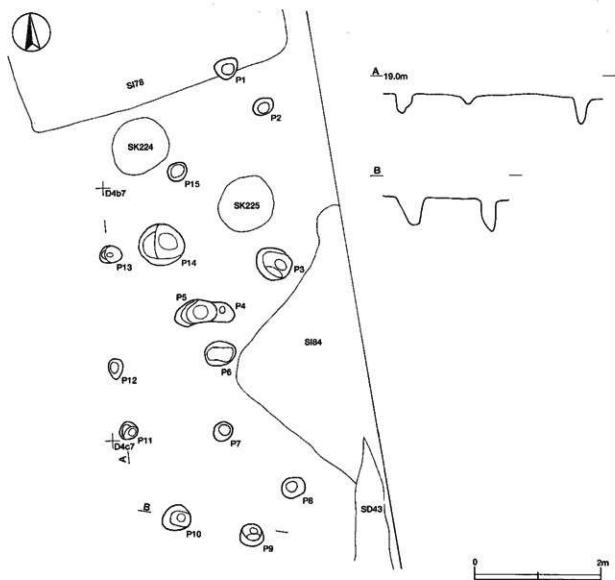
方形区画内の北域に確認され, 南に第10・12号掘立柱建物跡が位置している。柱穴数は83か所であり, 平面形は円形・楕円形を呈し, 長径0.12~0.55m, 短径0.10~0.65m, 深さ0.12~0.65mである。柱列として東西に並ぶものが3列, 南北に延びるものが1列確認されている。A列(P12~15)は1.80mで, 柱間寸法を0.5m・



第219图 柱穴群A类遗址(1)

②柱穴群B（第221図）

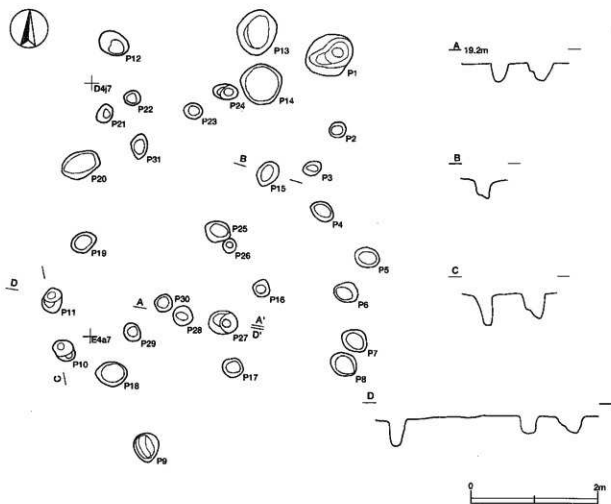
方形区画内の東域に確認され、北に第11号掘立柱建物跡が位置している。柱穴数は15か所であり、平面形は楕円形もしくは円形を呈し、長径0.35～0.75m、短径0.25～0.65m、深さ0.20～0.83mである。柱列として捉えることはできないが、これらの柱穴の集中場所として把握した（「付章」参照）。P8から検出された炭化材（柱材）は、ヒノキと同定された。



第221図 柱穴群B実測図

③柱穴群C (第222図)

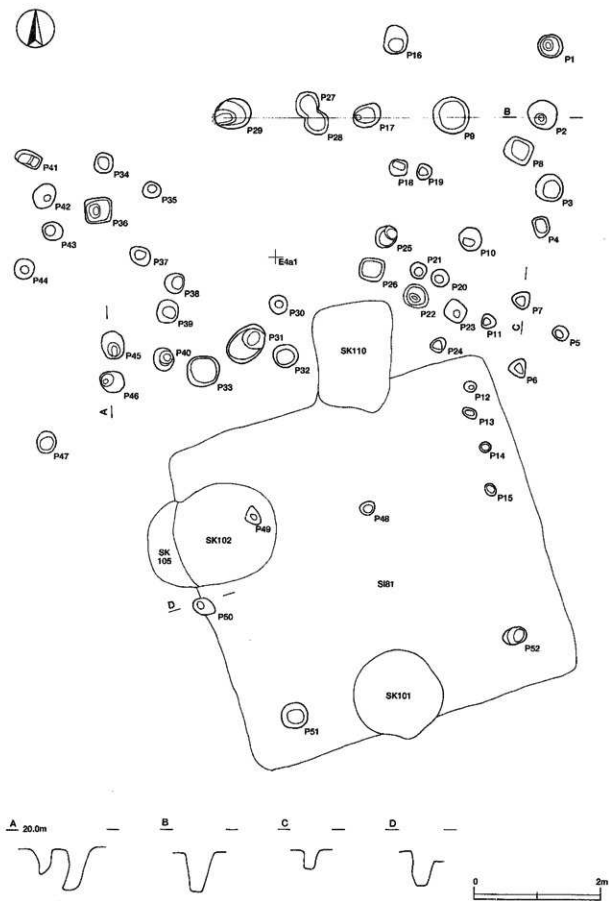
方形区画内の南東域に確認され、北に第1号土橋跡、西に柱穴群Dが位置している。柱穴数は31か所であり、平面形は楕円形もしくは円形を呈し、長径0.25～0.80m、短径0.25～0.65m、深さ0.11～0.51mである。柱列として捉えることはできないが、A・B同様、柱穴集中地域として把握した。出土遺物は、土師器片20点(坏4、埴1、甕15)、土師質土器片4点(かわらけ)が出土しているが、本跡に伴うものではない。



第222図 柱穴群C実測図

④柱穴群D (第223図)

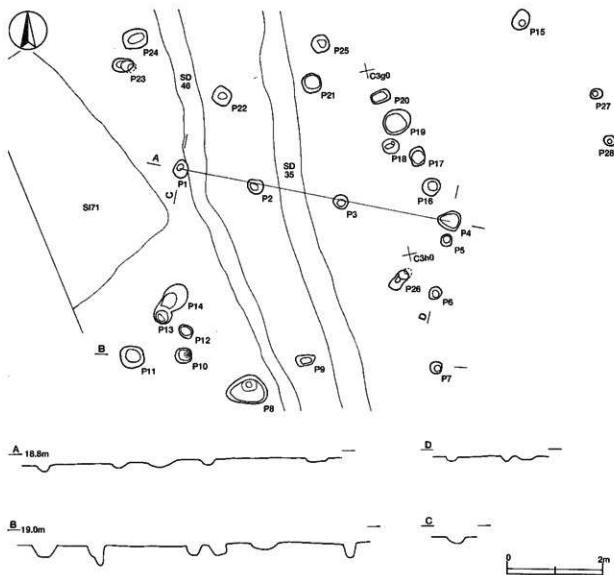
方形区画内の南城に確認され、南に第1号井戸跡、南西に第2号土橋跡、北に第12号掘立柱建物跡がそれぞれ位置している。柱穴数は52か所であり、平面形は円形・楕円形もしくは隅丸方形を呈し、長径0.20～0.70m、短径0.15～0.65m、深さ0.09～0.67mである。柱列は東西に1列(P2・9・17・28・29)確認され、N-89°-Wを指し、柱間寸法は0.6m・1.5mを基調としている。これらは塙あるいは襦的な施設であった可能性が考えられるが明確ではない。出土遺物は、土師質土器片2点(かわらけ)、陶器片1点、鉄製品1点(不明)が出土しているが、本跡に伴うものではない。



第223图 柱穴群D实测图

⑤柱穴群E (第224図)

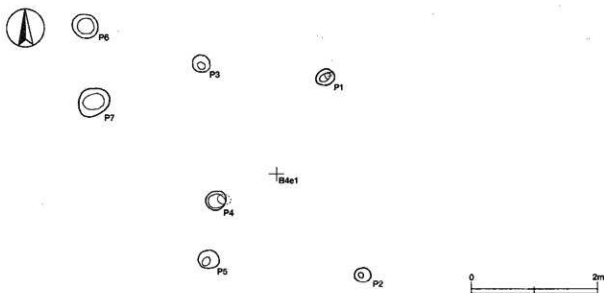
方形区画内の中心域に確認され、南に第12号掘立柱建物跡、北に第13号掘立柱建物跡がそれぞれ位置している。柱穴数は28か所であり、平面形は円形・楕円形もしくは隅丸長方形を呈し、長径0.25～0.60m、短径0.25～0.55m、深さ0.09～0.70mである。柱列として東西に1か所 (P1～4) 確認され、N-77°-Wを指している。柱間寸法は1.5m・1.8m・2.4mで統一性がない。出土遺物は、土師器片30点 (坏6, 甕24), 須恵器片1点 (甕), 土師質土器片134点 (かわらけ) が出土している。出土量の多いかわらけは、第9・13号掘立柱建物跡などからの流れ込みと考えられ、時間差が認められる。本跡は区画内の中心域で、周辺部に柱穴が集中し、第9・13号掘立柱建物跡の桁行方向とはほぼ同軸であることなどから掘立柱建物跡の可能性も考えられ、または横的な施設の存在した可能性も考えられる。



第224図 柱穴群E実測図

⑥柱穴群F (第225図)

方形区画北城の外側に確認され、南に堀南側部、柱穴群Aがそれぞれ位置している。柱穴数は7か所であり、平面形は円形、もしくは楕円形を呈し、長径0.25～0.55m、短径0.24～0.45m、深さ0.27～0.60mである。本跡は堀北側部のほぼ中心に位置しているが、柱列として捉えることができず、柱穴群として把握した。出土遺物は、土師器片1点(甕)が出土しているが、本跡に伴うものではない。



第225図 柱穴群F実測図

(3) 地下式墳

第1号地下式墳 (第226図)

位置 調査区西部のD4e4区に位置し、主軸方向はN-4°-Eを指している。南東に第2号地下式墳が隣接している。

竪坑 竪坑は主室南壁の中央部に位置し、長軸方向は主軸方向と直交している。上面は径約1.2mの円形を呈し、漏斗状に狭くなっている。確認面からの深さは144cmで、主室の底面より30cm高く、主室との境は約40度の角度で急激に落ち込んでいる。

主室 底面は長軸2.1m、短軸1.6mの隅丸長方形で、確認面から底面までの深さは160cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立して立ち上がる。天井部は、各壁際を中心に遺存し、中央部は崩落している。

覆土 21層に分層され、第12・16層は竪坑から主室に向かって流れ込むような堆積状況を示している。第17～21層は、ロームブロックを主体とした、天井部の崩落土である。

土層解説

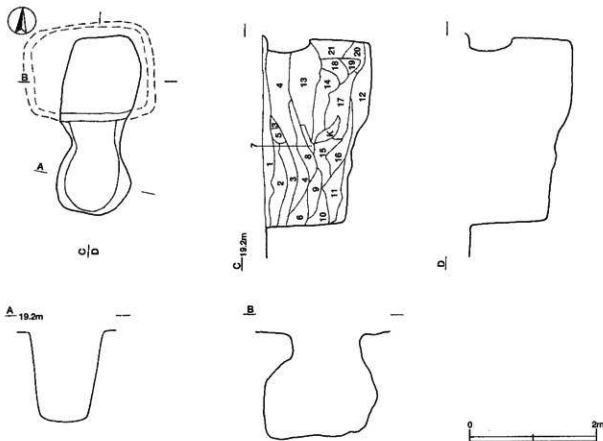
1 褐色	ローム粒子少量	6 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子少量	7 暗褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ローム粒子中量	8 暗褐色	ローム粒子少量
4 極暗褐色	ロームブロック少量	9 暗褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ローム粒子少量	10 極暗褐色	ローム粒子少量

- 11 暗褐色 ロームブロック中量
- 12 暗褐色 ローム粒子中量
- 13 暗褐色 ローム粒子微量
- 14 褐色 ロームブロック少量
- 15 暗褐色 ローム粒子多量
- 16 暗褐色 ローム粒子中量

- 17 褐色 ローム粒子多量
- 18 褐色 ロームブロック中量
- 19 褐色 ロームブロック中量
- 20 褐色 ロームブロック少量
- 21 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片34点(坏6, 甕28), 土師質土器片33点(かわらけ)が出土しているが、いずれも細片で、天井部崩落後に流れ込んだものと思われる。

所見 当遺跡からは、本跡と第2号地下式塼の2基が確認されたが、双方の地下式塼には主軸方向や形状、廃絶後の埋没過程に相違点が認められ、関連性は認められない。また、本跡に伴う遺物も検出されないため、時期や性格は不明である。



第226図 第1号地下式塼実測図

第2号地下式塼 (第227図)

位置 調査区西部南側のD4J6区に位置し、主軸方向はN-160°-Wを指している。北西に第1号地下式塼が隣接している。

重複関係 主室で第232号土坑を掘り込んでいる。

竪坑 竪坑は主室北壁のやや西寄りに位置し、上面は径約1.1mの楕円形を呈している。確認面からの深さは190cmで、主室の底面より約10cm高く、底面は主室に向かってなだらかに傾斜している。

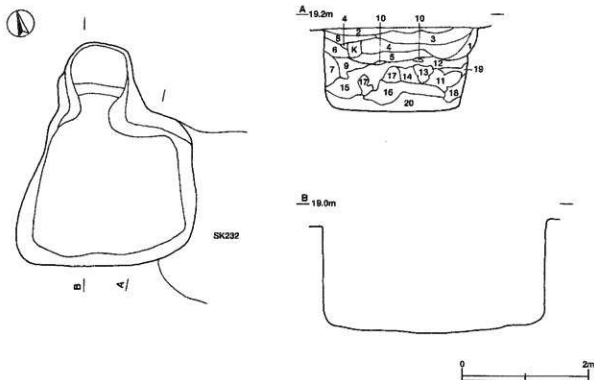
主室 平面形は長軸2.7m、短軸2.2mの隅丸長方形で、確認面から底面までの深さは2.1mである。主室の天井部は、完全に崩落している。底面は平坦で、壁はほぼ直立して立ち上がる。

覆土 20層に分層され、第1～19層は、天井部崩落後に埋め戻された状況を示す人為堆積層で、第20層はロームブロックを主体とした天井部崩落層である。

土層解説

1 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	11 明褐色	ロームブロック中量
2 灰暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	12 褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子中量
4 灰褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	14 明褐色	ロームブロック少量
5 黒色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	15 明褐色	ロームブロック中量
6 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	16 褐色	ロームブロック中量
7 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	17 明褐色	ローム粒子多量
8 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	18 褐色	ロームブロック中量
9 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量	19 褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
10 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	20 褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片45点（坏2、高坏3、甕40）、須恵器片2点（甕）、土師質土器片28点（かわらけ）が出土している。土師質土器片（かわらけ）は、主室の天井部崩落後に埋め戻した層から出土しているが、接合関係にないことや摩滅した土器も含まれることから、埋め戻しの段階で土中に混入した可能性が考えられる。土師器片、須恵器片も同様である。



第227図 第2号地下式横実掘り

所見 当遺跡からは方形区画内から2基の地下式横実掘りが検出されているが、主軸方向及び形状に明らかな違いが見られる。また、木跡が天井部崩落直後に炭化粒子や焼土粒子を含むロームブロックの上で埋め戻されているのに対し、第1号地下式横実掘りは、天井部崩落後に埋め戻された形跡は見当たらず、双方に明確な関連性は認めら

れない。時期は、遺構の形態から大きく中世と考えられるが、天井部崩落直後に埋め戻した層から検出された土師質土器（かわらけ）は投棄されたものとは断定できないため、本跡が機能あるいは廃絶された明確な時期については不明である。

6 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期不明住居1軒、竪穴状遺構1基、土坑156基、溝跡31条、道路跡4条を確認した。以下、文章記述以外のものは、実測図及び一覧表に記載する。

(1) 竪穴住居跡

第32号住居跡（第228図）

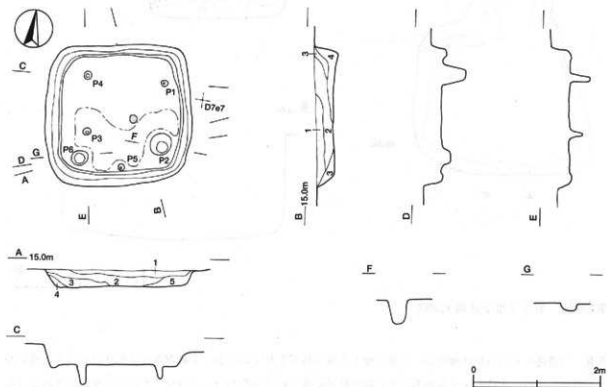
位置 調査区東部、D7e6区の緩やかに傾斜した台地の縁部に立地し、西には第30号住居跡、南には第35号住居跡が位置している。

規模と形状 長軸2.32m、短軸2.21mの方形で、主軸はN-9°-Wであり、壁高は16~38cmで、各壁は外傾している。

床 ほほ平坦で、出入口施設周辺から中央部にかけてよく踏み固められ、壁溝が周回している。

ピット 6か所。P1~4は深さ20~38cmで支柱穴と考えられ、P5は南壁際の中央部に位置することから出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ15cmで性格は不明である。

炉 中央部南東寄りに径12cmの焼土が確認され、使用された痕跡はみられない。



第228図 第32号住居跡実測図

覆土 5層に分層され、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片41点(坏6, 甕35), 須恵器片8点(坏2, 高台付坏1, 甕5), 縄文土器片1点が覆土中から出上し、床面からの出土遺物はない。

所見 本跡は調査された住居跡の中で最も規模が最小である。また、遺構に伴う遺物ほとんどなく、周辺部に同様の遺構も確認されてないため時期については不明である。

(2) 竪穴状遺構

第1号竪穴状遺構(第229図)

位置 調査区西部, D4b7区の平坦部に立地し、北西には第79号住居跡が位置している。

重複関係 中央部で第95号土坑, 南部で第97号土坑をそれぞれ掘り込み, 西部を第43号溝に掘り込まれている。

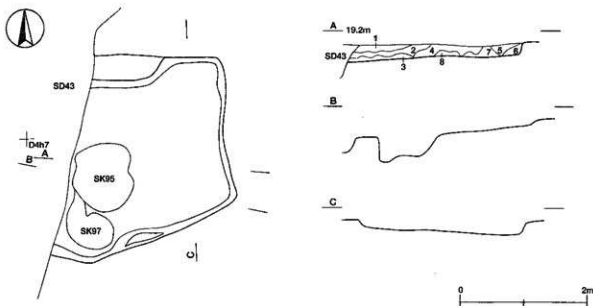
規模と形状 長軸3.30m, 短軸2.95mの長方形と推定され, 主軸はN-4°-Wであり, 壁高は14~20cmで, 各壁は外傾し立ち上がっている。

床 はほぼ平坦であるが, 北東部や西部はやや低く掘り込まれ, 北部には10cmほどの高まりがみられる。柱穴やか, 硬化面は確認されなかった。

覆土 8層に分層され, 各層にローム土を比較的多く含み, 埋め戻された堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 6 褐色 ローム粒子中量 |
| 3 褐色 ロームブロック中量 | 7 褐色 ローム粒子多量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子微量 | 8 褐色 ローム粒子中量 |



第229図 第1号竪穴状遺構実測図

遺物出土状況 土師器片7点(壺)が覆土中から出土し、本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 遺構に伴う遺物はなく、周辺部に同様の遺構も確認されていないため、時期や性格については不明である。

(3) 土坑

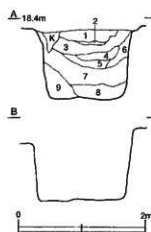
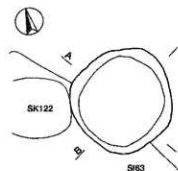
今回の調査で、182基の土坑が確認され、そのうち縄文時代1基、古墳時代10基、奈良・平安時代6基、中世9基以外は時期及び性格が不明なものである。以下、文章記述以外のものは実測図及び一覧表に記載する。

第123号土坑 (第230図)

位置 調査区西部中央、C4 b1区の平坦部に立地し、南東には第1号井戸跡が位置している。

重複関係 北東部で第63号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 直径1.64mの円形で、深さは107cmであり、底面は上端と同様に円形を呈している。



覆土 9層に分層され、上層である第1～6層はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積で、下層である第7～9層はロームブロックを比較的多く含み、埋め戻しの状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | |
|---|------|-----------|
| 1 | 黒色 | ローム粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 | 褐色褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 | 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 | 褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 | 褐色 | ローム粒子中量 |
| 8 | 褐色 | ロームブロック中量 |
| 9 | 褐色 | ロームブロック多量 |

第230図 第123号土坑実測図

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡は直径が1.64mの円形で、深さが107cmあり、土層断面を観察すると埋め戻しの状況が認められるが、遺物が出土していないことから時期は不明である。

第128号土坑 (第231図)

位置 調査区西部北側、D3 19区の平坦部に立地し、北には第129号土坑が位置している。

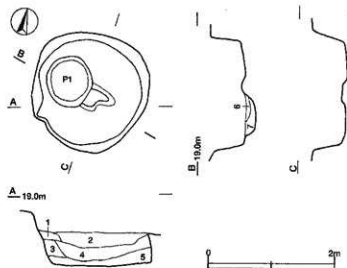
規模と形状 直径1.89mの円形で、深さは54cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。また、底面中央には長さ40cm、厚さ5cmほどのロームの高まりが見られ、その西には直径80cm、深さ21cmほどの窪みが見られる。

覆土 7層に分層され、ロームブロックを比較的多く含み、埋め戻しの状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 和珧褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック多量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 遺物は出土していない。



第231図 第128号土坑実測図

所見 本跡は直径が1.89mの円形で、深さが54cmあり、土層断面を観察すると埋め戻された状況が認められるが、遺物が出土していないことから時期は不明である。

第129号土坑 (第232図)

位置 調査区西部北側、D3 h9区の平坦部に立地し、南には第128号土坑が位置している。

規模と形状 長径1.59m、短径1.56mの円形で、深さは45cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。また、底面南側には直径20~30cm、深さ3~5cmほどの窪みが2か所確認された。

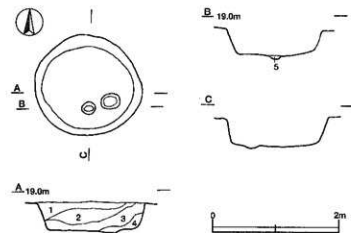
覆土 5層に分層され、覆土中にロームブロックを多く含み、埋め戻しの状況を示した人為体積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡は長径が1.59m、短径1.56mの円形で、深さが45cmあり、土層断面を観察すると埋め戻された状況が認められるが、遺物が出土していないことから時期は不明である。



第232図 第129号土坑実測図

第232号土坑 (第233図)

位置 調査区西部北側、D4 j6区の平坦部に立地し、南西には第88号住居跡が位置している。

重複関係 西側部を第2号地下式墳、東側を第43号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長径3.12m, 短径2.80mの楕円形を呈し、深さは70cmであり、長径方向はN-62°-Eである。底面は平坦で壁はやや外傾して立ち上がっている。また、底面の東側には、長径30cm, 短径25cm, 深さ39cmの穴が確認されている。

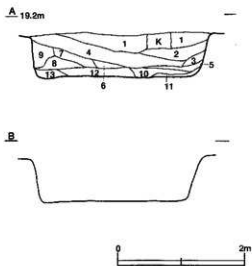
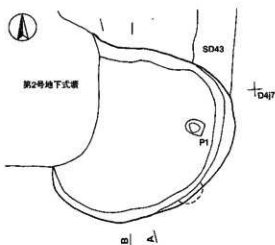
覆土 13層に分層され、ロームブロックを比較的多く含み、埋め戻しの状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|----------|-------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子多量, 炭化物微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒色 | 炭化物中量, ローム粒子少量 | 11 褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 12 にぶい褐色 | ローム粒子小量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 13 褐色 | ロームブロック多量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 | | |

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡は直径が3.21m, 短径2.8m, 深さ70cmの大形土坑である。覆土中に炭化物が比較的多く含まれ、埋め戻した状況が認められるが、遺物も出土していないことから詳細な性格と時期は不明である。



第232図 第232号土坑実測図

その他の土坑 (第234~236図)

第7号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック散在
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第9号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第12号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ローム粒子多量

第15号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量

第40号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量

第41号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ロームブロック少量
- 9 黒褐色 ローム粒子微量

第74号土坑土層解説

- 1 暗褐色 砂粒中量、ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量、砂粒少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・砂粒少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・砂粒少量
- 5 褐色 ローム粒子少量、砂粒微量
- 6 褐色 ローム粒子・砂粒微量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量、砂粒微量
- 8 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量
- 9 暗褐色 ローム粒子微量
- 10 黒褐色 砂粒少量、ローム粒子微量
- 11 暗褐色 ローム粒子少量

第77号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 6 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量

第100号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、砂粒少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第102号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第121号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、炭化物微量

第122号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第142号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第172号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 濃い褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 炭化材中量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量
- 6 暗褐色 炭化材・焼土粒子少量、ロームブロック微量
- 7 黒褐色 炭化材中量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量

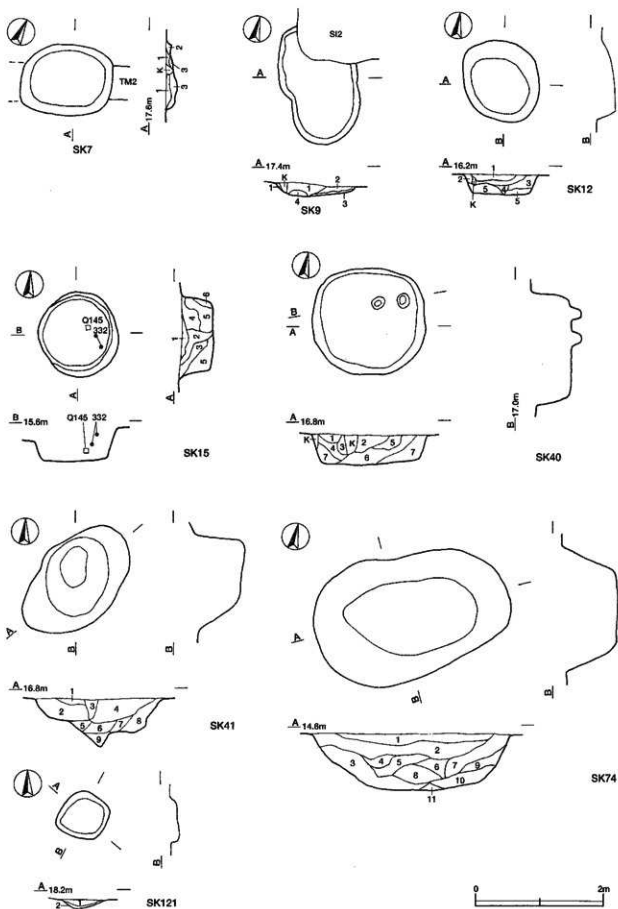
第206号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量

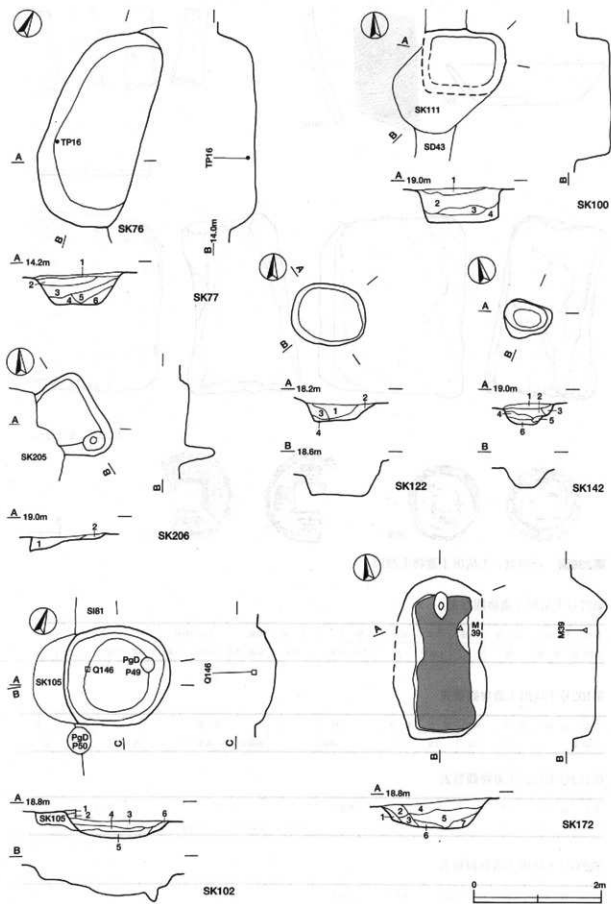
第15号土坑出土遺物観察表

番号	類別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色澤	焼成	手造の特徴	出土位置	備考
332	土製土器	甕	112J	32	—	砂粒	褐色	普通	口縁部紫ナテ、胴部内外面ナテ	甕上1中層	30%

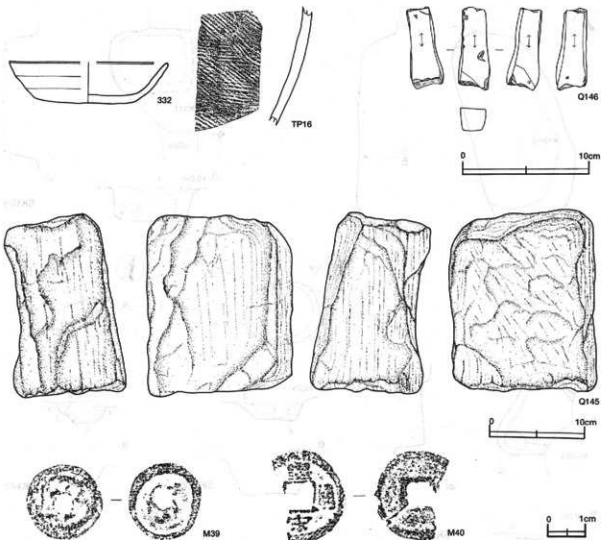
番号	器種	長さ	幅	高さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q145	石	19.2	15.5	12.8	5.650	雲母片岩	表面に花子の門出あり、丸形で中央	甕上中層	



第234図 その他の土坑実測図(1)



第235図 その他の土坑実測図(2)



第236図 その他の土坑出土遺物実測図

第77号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP16	瓶	器	—	(93)	—	長石・石英	黄灰	普通	外面平行明き、内面ナデ	覆土中部	

第102号土坑出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q146	瓶	石 (6.4)	2.4	1.8	42.8	凝灰岩	両端部欠損、底面4面	覆土中	近代*

第172号土坑出土遺物観察表

番号	銭名	径	孔径	重さ	初鑄年	特徴	出土位置	備考	
M39	開	銭	2.1	0.6	1.8	—	両面無文、銘化が激しい、私鑄銭*	覆土中	

第206号土坑出土遺物観察表

番号	銭名	径	孔径	重さ	初鑄年	特徴	出土位置	備考	
M40	阜宋	通宝	2.4	0.7	(1.6)	1038年	円体方形、北宋銭	覆土中	

(4) 溝跡

今回の調査で、36条の溝跡が確認され、そのうち奈良・平安時代1条、中世4条以外は時期及び性格が不明なものである。以下、実測図及び一覧表に記載する。

(5) 道路跡

今回の調査で、4条の道路跡が確認され、近世以降のものと考えられるが詳細については不明である。以下、実測図及び一覧表に記載する。

第1号道路跡 (第237図)

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭十粒子・炭化物微量

第4号道路跡 (第237図)

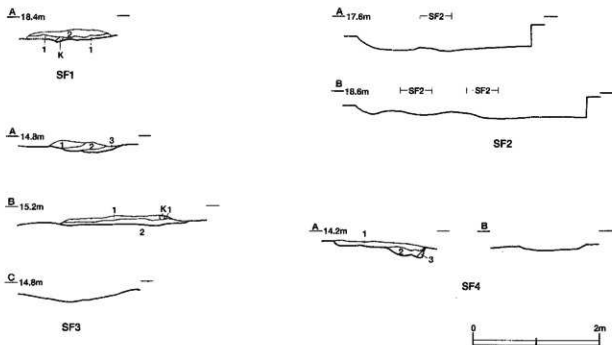
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第3号道路跡 (第237図)

土層解説

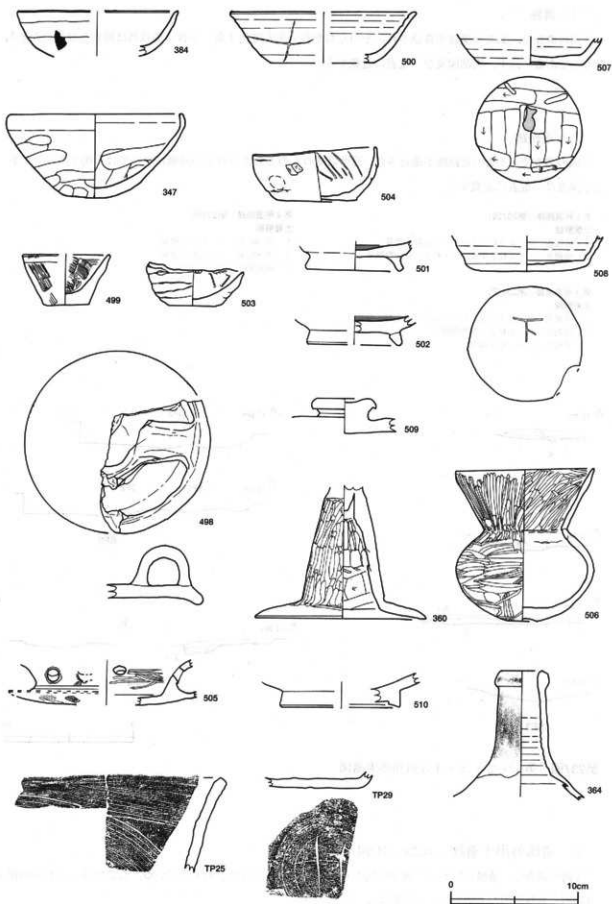
- 1 黒褐色 炭十粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化物微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量



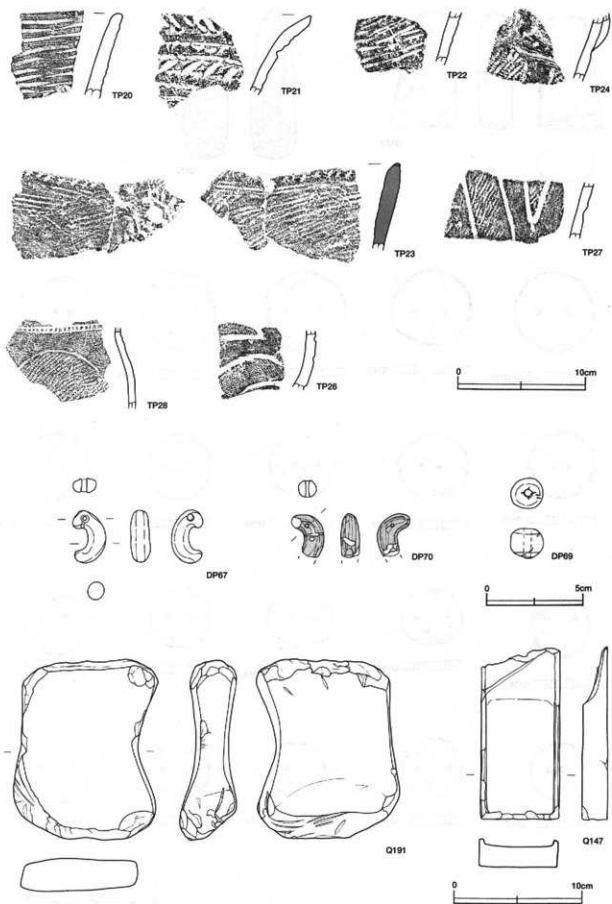
第237図 第1・2・3・4号道路跡実測図

7 遺構外出土遺物 (第238～243図)

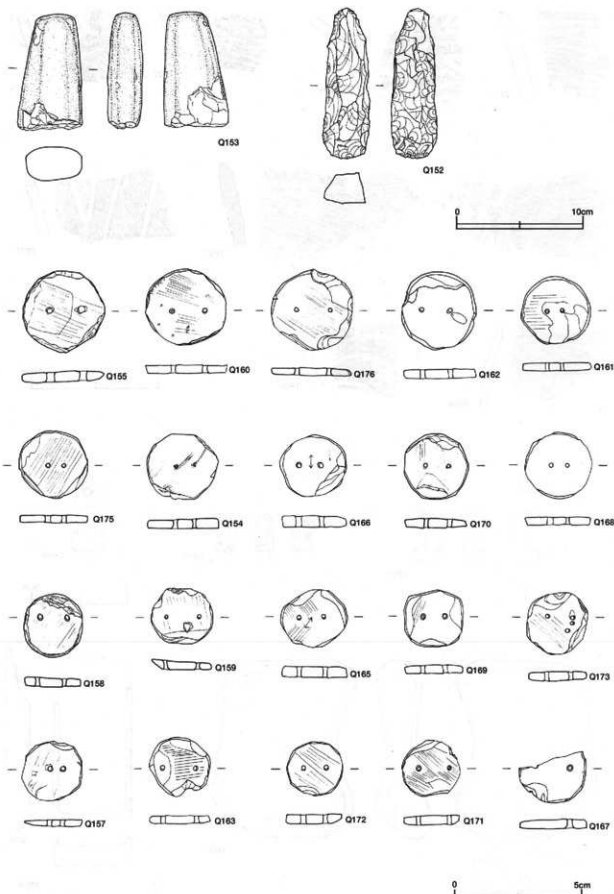
今回の調査で、遺構に伴わない縄文時代から近世にかけての遺物が出土している。ここでは、これらの出土遺物のうち特徴的なものについて掲載する。



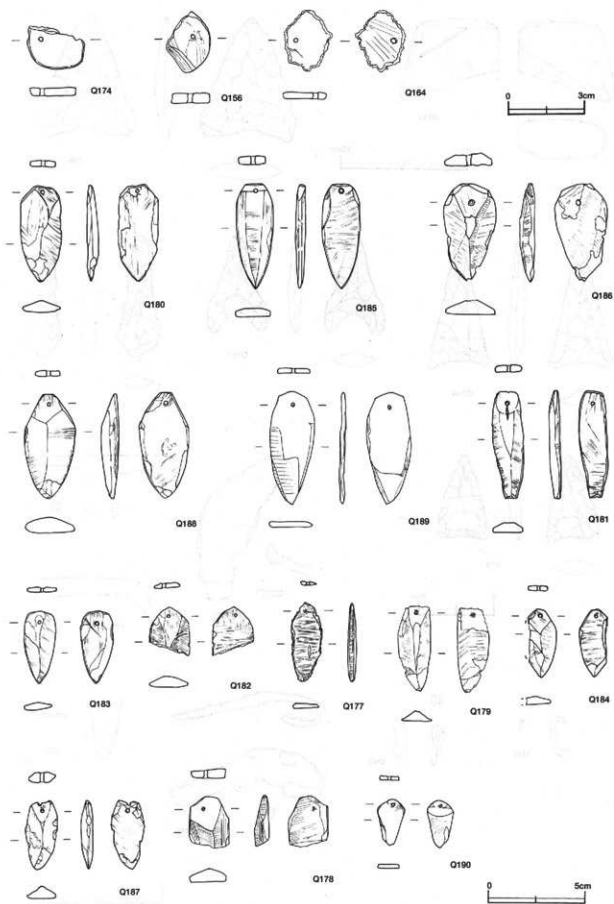
第238图 遗構外出土遺物実測図(1)



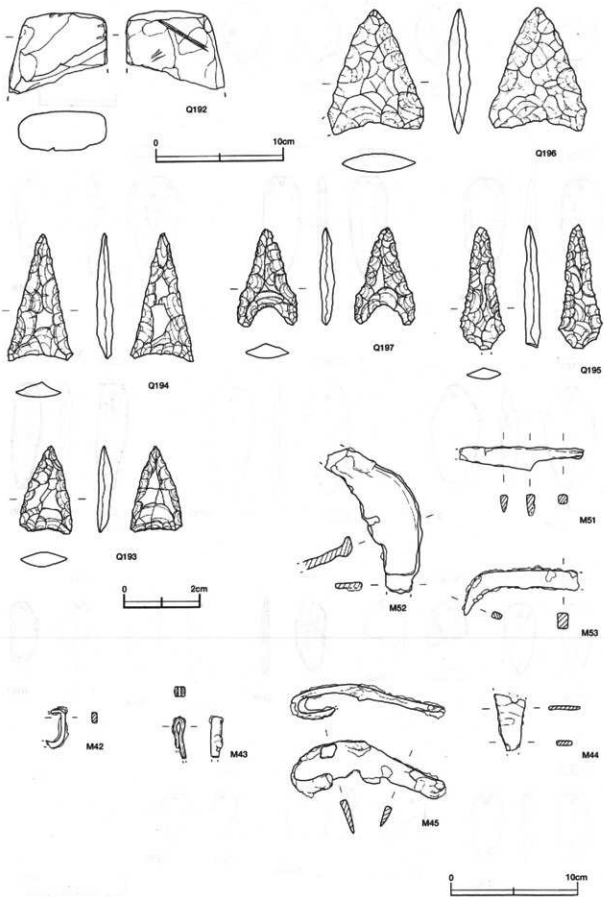
第239图 遺構外出土遺物実測図(2)



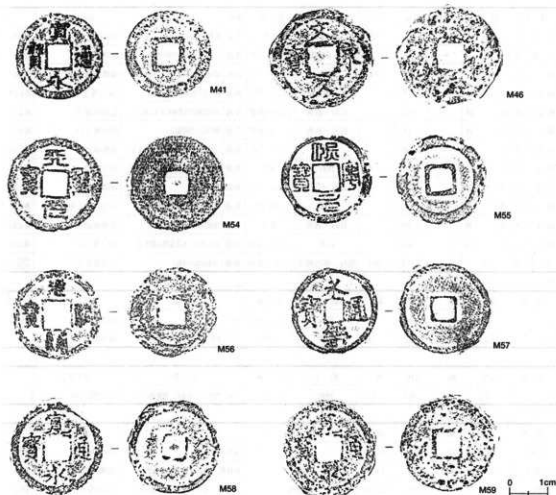
第240图 遺構外出土遺物実測図(3)



第241圖 遺構外出土遺物実測図(4)



第242图 遗物出土実測図(5)



第243図 遺構外出土遺物実測図(6)

遺構外出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
347	土師器	輪	13.7	6.7	—	長石・石英	橙	普通	口縁部ナデ、内外面へう彫り	SK74 覆土中	60%、PL39
360	土師器	高 環	—	(10.5)	13.6	長石・石英	橙	普通	裏面外縁部	SK132 覆土中	50%
364	陶器	大 瓶	3.3	(9.9)	—	緻密	灰黄	良好	灰胎有粒状、裏付	SD10 覆土中	30%、裏付・受遺品
384	土師質土器	皿	[12.6]	(3.8)	—	砂粒	にぶい・橙	普通	口縁部ナデ、各部内外面ナデ	SD43 覆土中	5%、裏付者
498	縄文土器	甕	[14.5]	4.7	—	雲母・長石	橙	普通	平丸底状の裏面を有する	遺構確認面	40%、縄文後期 PL39
499	土師器	杯	[4.8]	4.0	3.6	砂粒	黒褐	普通	各部内外面へう彫り	遺構確認面	50%
900	須恵器	杯	[14.5]	4.1	[8.2]	石英	浅黄	普通	各部下縁部へう彫り	SD21 覆土中	20%、片割れ部[×]
501	土師器	高台付輪	—	(2.4)	7.4	長石	橙	普通	高台部付け直、口ワナデ	遺構確認面	10%
502	土師器	高台付輪	—	(2.4)	[7.2]	砂粒	橙	普通	高台部付け直、口ワナデ	遺構確認面	15%
503	土師器	手捏土器	7.2	3.4	3.5	砂粒	にぶい・橙	普通	各部内外面へうナデ・輪縁部	SD9 覆土中	85%
504	土師器	手捏土器	9.6	4.3	5.6	雲母・長石	にぶい・橙	普通	各部内外面へうナデ・輪縁部	遺構確認面	100%、PL39
505	土師器	装飾器台	—	(3.6)	—	砂粒	にぶい・黄橙	良好	器内部内外面へう彫り	遺構確認面	10%
506	土師器	埴	11.0	12.1	2.1	長石・砂粒	にぶい・橙	良好	各部内外面	遺構確認面	100%、PL39
507	須恵器	杯	—	(2.2)	8.4	砂粒	灰	普通	底面多方向へう彫り	遺構確認面	50%、底面未調査

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎上	色調	特徴	手法の特徴	出土位置	備考
508	瓶	土器	—	(28)	9.9	赤褐色・灰石	灰青	普通	底平へ張り	SD3層上中	灰文(赤褐色)付
509	瓶	土器	蓋	(28)	—	黄緑・赤色粒土	オリーブ色	普通	つば(赤褐色)の付	遺構跡面	灰文(赤褐色)付
510	瓶	土器	瓶	(27)	9.4	砂粒	オリーブ灰	良好	底平(凸付)	遺構跡面	灰文(赤褐色)付
TP20	縄文土器	深鉢	鉢	(68)	—	長石・赤色粒土	にぶい	普通	幅の広い底縁(赤褐色)	SK52層土中	灰文(赤褐色)付
TP21	縄文土器	深鉢	鉢	(63)	—	長石・石英	にぶい	普通	底縁(赤褐色)の付	遺構跡面	灰文(赤褐色)付
TP22	縄文土器	深鉢	鉢	(41)	—	長石・石英	にぶい	普通	幅の広い底縁	SK46層土中	灰文(赤褐色)付
TP23	縄文土器	深鉢	鉢	(68)	—	長石	にぶい	普通	口縁(赤褐色)の付	遺構跡面	灰文(赤褐色)付
TP24	縄文土器	深鉢	鉢	(54)	—	灰石	粗	普通	口縁(赤褐色)の付	SK76層土中	灰文(赤褐色)付
TP25	縄文土器	深鉢	鉢	(76)	—	長石・石英	にぶい	普通	長縁(赤褐色)	遺構跡面	灰文(赤褐色)付
TP26	縄文土器	深鉢	鉢	(46)	—	灰石	洗青	普通	底縁(赤褐色)の付	SK161層上中	灰文(赤褐色)付
TP27	縄文土器	深鉢	鉢	(46)	—	長石・石英	黄緑	普通	底縁(赤褐色)の付	遺構跡面	灰文(赤褐色)付
TP28	縄文土器	深鉢	鉢	(63)	—	石英	にぶい	普通	口縁(赤褐色)の付	SD1層上中	灰文(赤褐色)付
TP29	瓶	土器	瓶	(14)	(30.4)	黄緑・赤色粒土	にぶい	普通	底縁(赤褐色)の付	SK3層土中	灰文(赤褐色)付

番号	器種	長さ	幅	口径	高さ	胎上	色調	特徴	出土位置	備考
DP67	勾玉	2.8	0.9	0.3	3.0	長石	にぶい	ナメ	SK2層土中	PL41
DP70	勾玉	12.2	0.9	0.2	(3.0)	砂粒	赤褐色	ナメ、赤褐色	SD3層七中	

番号	器種	長さ	幅	口径	高さ	胎上	色調	特徴	出土位置	備考
DP89	土	1.6	1.7	0.4	4.0	砂粒	粗	上面へ張り、右底平、底縁(赤褐色)	SD43層上中	

番号	器種	長さ	幅	口径	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q147	瓶	(13.7)	3.7	2.1	(21.0)	砂岩	黒褐色	SD10層上中	近代*
Q152	打製石斧	11.8	5.1	3.0	14.9	緑泥岩	凹形、断面(赤褐色)に打製	遺構跡面	PL41
Q153	磨製石斧	(9.2)	0.4	2.6	(21.0)	砂岩	凹形、断面(赤褐色)に打製	SD46層土中	PL41
Q194	瓶	14.2	11.3	5.5	8.6	砂岩	底平、中央部は腹縁により浅い	SD3南部覆土中	PL42
Q192	瓶	7.7	(6.3)	3.8	(20.8)	砂岩	片断欠損、底平、断面(赤褐色)の付	SD3南部覆土中	
Q193	石	2.2	1.3	0.4	0.9	加礫石	黒褐色、断面(赤褐色)の付	SK43層土中	PL41
Q194	石	2.2	1.3	0.4	0.9	加礫石	黒褐色、断面(赤褐色)の付	SK70層上中	PL41
Q195	石	(3.2)	1.2	0.1	(1.0)	ナマク	古部(赤褐色)の付、断面(赤褐色)の付	SK77層土中	PL41
Q196	石	3.3	2.6	0.5	3.3	黒色安山岩	黒褐色、断面(赤褐色)の付	遺構跡面	PL41
Q197	石	2.6	1.5	0.4	1.0	加礫石	黒褐色、断面(赤褐色)の付	遺構跡面	PL41

番号	器種	長さ	幅	口径	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q154	双孔円板	2.8	0.4	0.1	4.1	滑石	両面平削、斜方向の縦線、片断(赤褐色)	遺構跡面	PL40
Q155	双孔円板	3.2	0.4	0.3	7.0	滑石	両面平削、斜方向の縦線、片断(赤褐色)	遺構跡面	PL40
Q156	双孔円板	(2.4)	0.3	0.2	(2.0)	滑石	片断欠損、斜方向の縦線、片断(赤褐色)	SD3南部覆土中	PL40
Q157	双孔円板	2.4	0.4	0.2	2.1	滑石	両面平削、斜方向の縦線、片断(赤褐色)	SD3南部覆土中	PL40
Q158	双孔円板	2.5	0.4	0.2	4.2	滑石	両面平削、斜方向の縦線、片断(赤褐色)	SD3南部覆土中	PL40
Q159	双孔円板	2.3	0.3	0.2	(2.6)	滑石	一部欠損、斜方向の縦線、片断(赤褐色)	SD3南部覆土中	PL40
Q160	双孔円板	3.0	0.3	0.2	5.1	滑石	両面平削、斜方向の縦線、片断(赤褐色)	SD3南部覆土中	PL40
Q161	双孔円板	2.7	0.4	0.2	3.0	滑石	両面平削、斜方向の縦線、片断(赤褐色)	SD3南部覆土中	PL40
Q162	双孔円板	3.1	0.3	0.2	6.4	滑石	両面平削、斜方向の縦線、片断(赤褐色)	SD3南部覆土中	PL40
Q163	双孔円板	2.4	0.3	0.2	(2.9)	滑石	一部欠損、斜方向の縦線、片断(赤褐色)	SD3南部覆土中	PL40
Q164	双孔円板	2.5	0.4	0.2	(1.8)	滑石	片断欠損、斜方向の縦線、片断(赤褐色)	SD3南部覆土中	PL40
Q165	双孔円板	2.6	0.4	0.2	3.9	滑石	両面平削、斜方向の縦線、片断(赤褐色)	SD3南部覆土中	PL40
Q166	双孔円板	2.5	0.4	0.2	4.5	滑石	片断欠損、斜方向の縦線、片断(赤褐色)	SD3南部覆土中	PL40
Q167	双孔円板	2.6	0.4	0.2	(2.3)	滑石	片断欠損、斜方向の縦線、片断(赤褐色)	SD3南部覆土中	PL40

番号	器種	径	高さ	口径	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q168	瓦孔四板	2.6	0.4	0.2	4.1	滑石	両面平皿、斜方向の縦溝、片割穿孔	SD3南部屋上中	PL40
Q169	瓦孔四板	2.3	0.3	0.2	2.8	滑石	両面平皿、斜方向の縦溝、片割穿孔	SD3南部屋上中	PL40
Q170	瓦孔四板	2.5	0.4	0.2	4.4	滑石	両面平皿、縦方向の縦溝、片割穿孔	SD3南部屋上中	PL40
Q171	瓦孔四板	2.2	0.4	0.2	3.0	滑石	両面平皿、斜方向の縦溝、片割穿孔	SD3南部屋上中	PL40
Q172	瓦孔四板	2.2	0.4	0.2	3.1	滑石	両面平皿、斜方向の縦溝、片割穿孔	SD3南部屋上中	PL40
Q173	瓦孔四板	2.4	0.4	0.2	3.4	滑石	斜方向の縦溝、本目蓋の孔2つ有り	SD3南部屋上中	
Q174	瓦孔四板	2.2	0.3	0.2	(1.7)	滑石	両面平皿、片割欠損	SD3南部屋上中	PL40
Q175	瓦孔四板	2.7	0.3	0.2	4.0	滑石	両面平皿、斜方向の縦溝、片割穿孔	SD3南部屋上中	PL40
Q176	瓦孔四板	3.2	0.3	0.2	4.9	滑石	両面平皿、斜方向の縦溝、片割穿孔	SD3南部屋上中	PL40

番号	器種	長さ	幅	口径	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
Q177	銅形模造品	4.3	1.7	0.1	3.7	滑石	両面平皿、縦方向の縦溝、片割穿孔	SK107樓土中	PL41
Q178	銅形模造品	(2.7)	2.1	0.2	(5.4)	滑石	両面平皿、片割欠損、片割穿孔	SD3南部屋上中	PL41
Q179	銅形模造品	4.5	1.7	0.2	4.4	滑石	片割欠損有り、斜方向の縦溝、片割穿孔	SD3南部屋上中	PL41
Q180	銅形模造品	5.0	2.1	0.2	8.7	滑石	片割欠損有り、表面は縦方向の縦溝	SD3南部屋上中	PL41
Q181	銅形模造品	3.6	1.6	0.2	6.8	滑石	片割欠損有り、斜方向の縦溝、片割穿孔	SD3南部屋上中	PL41
Q182	銅形模造品	(2.6)	2.1	0.1	(3.1)	滑石	片割欠損欠損、片割穿孔	SD3南部屋上中	PL41
Q183	銅形模造品	3.8	1.7	0.1	3.3	滑石	片割欠損有り、表面は縦方向の縦溝	SD3南部屋上中	PL41
Q184	銅形模造品	3.6	(1.5)	0.1	(3.6)	滑石	一部欠損片割、片割穿孔、片割穿孔	SD3南部屋上中	PL41
Q185	銅形模造品	5.5	1.9	0.2	8.5	滑石	片割欠損、片割穿孔、表面は縦方向の縦溝	SD3南部屋上中	PL41
Q186	銅形模造品	5.1	2.7	0.3	13.6	滑石	片割欠損、片割穿孔、表面は縦方向の縦溝	SD3南部屋上中	PL41
Q187	銅形模造品	(3.7)	1.8	0.2	(4.6)	滑石	片割欠損、片割穿孔、表面は縦方向の縦溝	SD3南部屋上中	PL41
Q188	銅形模造品	3.5	2.6	0.2	16.3	滑石	片割欠損、片割穿孔、表面は縦方向の縦溝	SD3南部屋上中	PL41
Q189	銅形模造品	5.9	2.4	0.2	8.1	滑石	両面平皿、表面は縦方向の縦溝	SD3南部屋上中	PL41
Q190	銅形模造品	2.5	1.4	0.2	1.2	滑石	両面平皿、表面は縦方向の縦溝	SD3南部屋上中	PL41

番号	器種	長さ	幅	口径	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
M42	不明	3.1	(0.8)	(0.4)	(6.19)	鉄	先周部管部、断面長方形	SD4樓土中	
M43	不明	(3.3)	1.0	0.8	(4.26)	鉄	上端部に管部を付、下段は欠損	SD4樓土中	
M44	鉄 鍔	(4.5)	(2.4)	0.4	(10.3)	鉄	断面部欠損、断面長方形	SD21樓土中	
M45	鉄 鐙	(12.1)	4.5	2.3	(31.3)	鉄	切欠付部、切欠・刃部欠損	SD21樓土中	PL42
M51	刀 子	(9.7)	1.8	0.6	(19.3)	鉄	片割、切欠欠損、身割り	遺構確認面	PL42
M52	鐙	(11.5)	(7.9)	1.4	(19.3)	鉄	切欠・刃部欠損	遺構確認面	PL42
M53	鉄	(9.1)	1.2	0.8	(22.6)	鉄	片割欠損、断面長方形	遺構確認面	PL42

番号	器種	径	口径	高さ	初周年	特徴	出土位置	備考
M41	瓦水通室	2.3	0.6	2.4	1636年	無背文、磨化が激しい	SD3樓土中	
M46	瓦水通室	2.6	0.7	2.4	1803年	無背文、磨化が激しい	SD21樓土中	PL42
M54	瓦水通室	2.5	0.6	3.1	1023年	北宋銭、無背文、磨化が激しい、両面平皿	遺構確認面	PL42
M55	瓦水通室	2.3	0.6	3.1	1008年	北宋銭、無背文、状態良好	SD3樓土中	PL42
M56	瓦水通室	2.4	0.7	2.5	1086年	北宋銭、無背文、磨化が激しい	遺構確認面	
M57	瓦水通室	2.4	0.6	2.6	1808年	明銭、無背文、磨化が進んでいる	SD3樓土中	PL42
M58	瓦水通室	2.4	0.6	(1.8)	1808年	明銭、無背文、磨化が進んでいる	SD33樓土中	PL42
M59	瓦水通室	2.4	0.7	1.9	1636年	無背文、磨化が激しい	SD3樓土中	PL42

第4節 まとめ

はじめに

今回の調査で鳥名前野東遺跡から確認された遺構・遺物は、旧石器時代から中世にわたるものである。ここでは、時代ごとに調査の結果をまとめとしたい。

1 旧石器時代

旧石器時代の遺物は、ナイフ形石器が3点出土しているが、いずれも出土地点は離れた単独な出土である。また、ローム層の調査を行ったが、遺構は確認されていない。

2 縄文時代

縄文時代の遺構は、中期の住居跡2軒、陥し穴1基が確認されているが、いずれも出土遺物は極めて少ない。当遺跡における縄文時代の集落は小規模なもので、地理的に見ても広がりがあるとは想定できない。また、陥し穴については時期を明確にすることはできなかったが、当地域の狩猟場としてもある時期活用されたものと考えられる。

3 古墳時代(第244・245図)

当遺跡において、最も多くの遺構が確認された時期である。遺構の分布を見ると、標高の低い台地裾部に前期の住居跡が分布し、台地部には中期から後期の住居跡が濃い密度で分布している。平成11年度に調査された前野遺跡1)の集落変遷を見て同様の分布であり、当遺跡と前野遺跡がひとつの集落であることが想定できる。

出土土器から推定できる各住居跡の時期は、前期10軒、中期23軒、後期20軒であり、前野遺跡で確認された住居跡を加えると、前期20軒、中期27軒、後期21軒となる。しかし、同時期の住居跡が全て同時に存在していたとは考えられないが、当遺跡における古墳時代の集落構成の一端を窺うことができる。

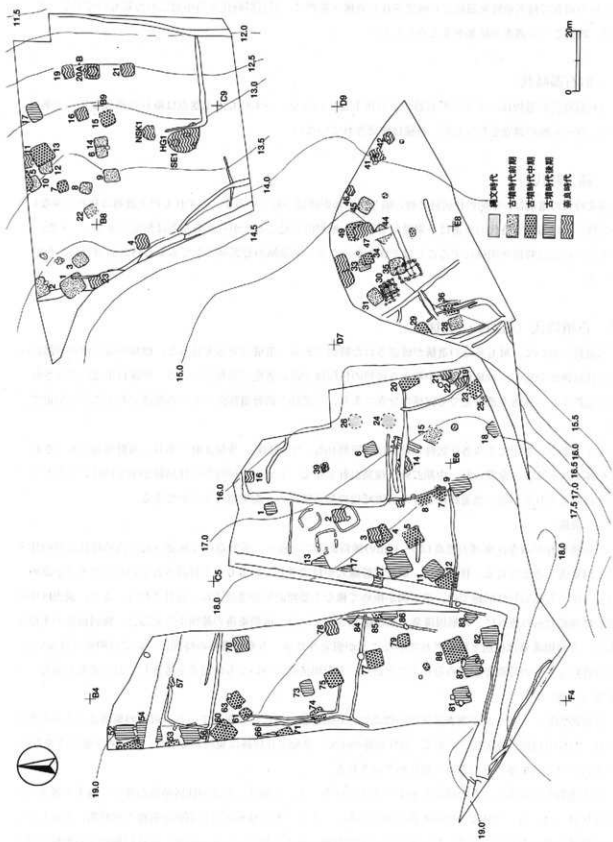
I期(前期)

住居跡10軒が調査区東部の標高13.5~17mの緩斜面部に分布し、前野遺跡で確認された古墳時代前期の住居跡と同集落と考えられる。住居跡は、炉及び貯蔵穴が付設されているものと付設されていないタイプが認められる。中でも第35号住居跡では、出土例が極めて稀な土器埋設炉が確認され、注目される。また、調査区中央部の標高約17mの地点に、方形周溝墓3基が確認されている。前期集落の範囲から見ると、緩斜面部の上位であり、方形周溝墓は住居と区分されていたことが想定される。方形周溝墓の時期については明確ではないが、住居跡にも多少の時間差が認められることから、方形周溝墓についても時期差を考慮しておく必要がある。

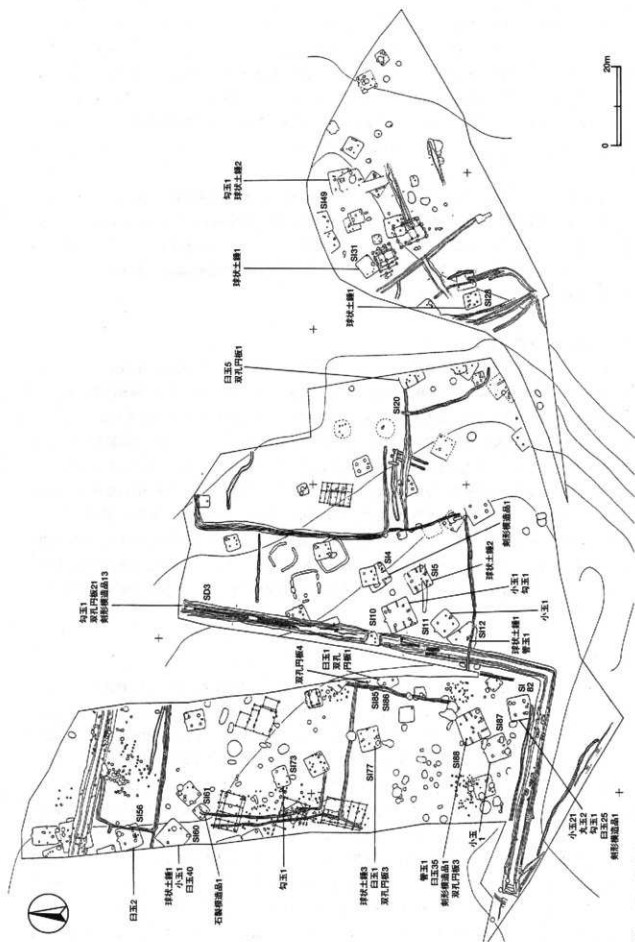
II期(中期)

住居跡23軒、土坑9基が調査区東部の標高13~19mの緩斜面部に分布している。前期の集落より広がりが見られ、23軒中14軒が焼失住居である。各住居跡の中で、第88号住居跡は規模が最大で、初期的な竈が付設され、中期における当集落の有力者層の居住が想定される。

出土遺物から見ると、この時期を前半・後半に区別でき、圧倒的に前半の住居跡数が多い。前半と考えられる住居跡では、埴・高環など供献土器の出土が多く、出土土器の様相から谷田部遺跡と同時期に存在していた可能性が考えられる。後半の住居跡からは土師器類の出土に加えて白玉・剣形・双孔門板など石製模造品の



第244圖 島名前野東・前野遺跡集落變遷圖



第245圖 鳥名前野東遺跡土製模造品・石製模造品出土遺構

出土が多く、模造品の出土住居跡は、より標高の高い緩斜面部の上段から台地上の平坦部に位置する住居跡から出土している。また、中世の造成工事によって第3号溝跡南部の覆土中に流れ込んだ多量の双孔円板や剣形模造品なども含み、当遺跡の中期における集落の中で屋内祭祀の状況の一端を窺うことができる。出土した臼玉について見ると、その形状は算盤玉状・太鼓状・円筒状に分類でき、剣形模造品は、形状的に鑷を持つタイプ、両面研磨、断面形が台形状・両面とも平坦なタイプに分類することができ、多少の時期差とともに製作工人の違いも想定されるが、祭祀の内容については明確ではない。

Ⅲ期（後期）

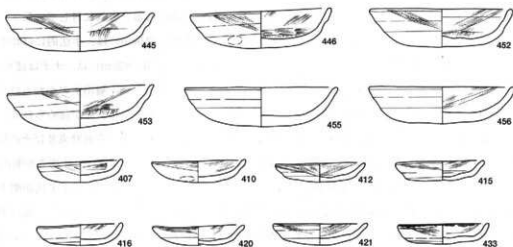
住居跡20軒、上坑1基が調査区中央部から西部の標高17～19mの台地上の平坦部に分布し、前・中期よりも上段部に集落が構成されている。住居跡の中では、第54号住居跡の規模が最大で、位置的に標高の最も高い地区に位置している。中期同様後期における集落の有力者層が居住していた可能性が想定される。また、小玉・丸玉・勾玉等が上段部に位置する住居跡から出土しており、後期集落の中心部は、今回調査された台地部から更に西側に広がるものと想定される。

4 奈良時代（第244図）

住居跡16軒、掘立柱建物跡6棟、溝跡1条、上坑6基が標高12.5～19mの緩斜面部から台地部の広い範囲に分布している。最大規模の第47号住居跡を中心として集落が構成されていたと想定され、西側には区画溝跡や掘立柱建物跡が検出されている。出土土器は須恵器類が主であり、転用硯や墨書・朱書土器も出土している。また、鉄鉢形土器や「手札・寺」（手札＝てらか）と墨書された須恵器が出土し、「8・9世紀の首長の居住空間のすぐそばには自己の寺院を建立した。」²⁾と広瀬和雄氏による指摘のように、集落内に寺院の存在も想定される。また、住居跡の数やその分布などは、律令期における戸主を中心とした最小単位の集落の様相を表していると考えられ、8世紀中頃に突然出現して、8世紀末には消滅とする状況は、藤井一二氏のいう「計西村落」³⁾に該当すると考えられる。また、第64号土坑から「新田」と墨書された須恵器が出土し、前述の想定を追認できる。また、地理的にも熊の山との密接な関係があったことは疑いなく、熊の山遺跡内に郷を管理する施設があり、前野東や前野の集落がその下部に属するレベルの単位集団として周辺に分布する「島名郷」の様相が窺える。

5 中世（第246・247図）

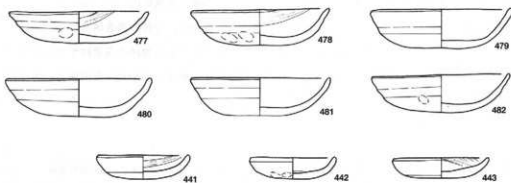
西・東2か所の方形館跡、及び地下式竈2基などが確認された。東館跡は調査区中央部の標高16～17mの緩斜面部に位置し、西館跡は東館西の台地部に位置し、いずれも低地を見下ろすことができる。確認された西館跡の第3号溝跡は、一辺が114mで方形に巡ると想定されている。堀底部は、北東部と南西部がやや深く掘り込まれ、水抜き施設の存在が想定される。西館跡の廃絶時期は、第3号溝跡の覆土中層から出土した龍泉窯青磁片と常滑片などから13世紀後半～14世紀前半とされる。この方形区画内には、中央部に掘立柱建物跡が確認されている。これらの建物跡は、規模や構造から館跡に伴うものと考えられるが、第12・13号掘立柱建物跡は建物の間隔が狭く、同時期に存在したとは考えられない。また、西館跡の全容については、東側半分の調査のため不明確な点が多く、今後西側部の調査が実施されれば、その全容が明らかになると思われる。出土遺物は、大小2種類のかわらけがほとんどで、その出土総重量25.8kgの内22.4kgが東溝に位置する第1号土橋跡の北側覆土中～下層の出土であり、その出土状況は一括投棄された様相を示している。出土したかわらけの形状を分類すると、覆土中～下層で出土したかわらけ大（口径126～132cm）は、外面に稜を有し、横ナテが二段



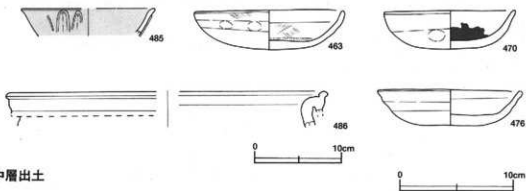
第1号土橋北側覆土中～下層出土



第1号土橋北側低面出土



第2号土橋覆土下層～底面出土



覆土中層出土

第246図 方形区画溝出土のかわらけ

認められる。底部のナデ・内面の横ナデの調整も施されている。かわらけ小（口径7.4～8.2cm）は、内・外面が横ナデされ、体部にくびれを持つものともたないもの二種が認められる。これに対して、第1号土橋跡の北側底面や第2号土橋跡下層～底面で出土したかわらけ大（口径12.0～12.9cm）は、手法的には類似しているが1径がやや小さく、横ナデも一段である。また、かわらけ小（口径7.3～8.2cm）は、ナデは認められるが、体部にくびれをもつ形状のものは出土していない。以上のことから、覆土中～下層出土のかわらけと、覆土下層～底面のかわらけには僅かではあるが相違点が確認でき、かわらけに多少の時期差が認められる。

鳥名地区においては、中世の文献資料等があまり知らされていないため、当時の前野東及びその周辺部の支配者層については不明な点が多いが、この時期に谷田部地区で最も古いとされる吉祥山妙徳寺が開山（1297年）していることは、方形館跡の成立と無関係ではないと考えられる。そのことは、荒川正夫氏が唱えるように「13世紀中葉～14世紀前葉には周囲を堀で区画し、古代以来の血縁的な性格を持った館から、地縁の性格・政治的色合いを持つ館へと変貌し、在地領主たちは寺院を建立し、在地支配を行っている。」⁴⁾ という指摘に合致して興味深い。今後の調査によってより深く解明すると思われる。

5 おわりに

当遺跡は、空白期があるものの古墳時代から中世まで東谷田川沿いの台地部に形成された集落跡であることが判明し、注目すべき遺構は中世の方形館跡である。また、中世の考古学的資料が少ない茨城県内では、方形館跡の堀からまともな出土したかわらけは好資料であり、今後、茨城県内における中世かわらけの研究資料として編年的位置付けや技術面での究明など残された課題は多いが、今後の調査研究によって徐々に解明されるものと考えられる。最後に前野東遺跡をはじめとして調査された鳥名地区の各遺跡が相互に関連しながら当地域をそれぞれに確立したことを認識するとともに、発掘調査や整理にかかわった関係者の方々に、文末ではあるが感謝の意を表したい。

注

- 1) 茨城県教育財団 「鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財報告書Ⅵ 鳥名前野遺跡」『茨城県教育財団文化財報告』第175集 2001年3月
- 2) 広瀬和雄 「畿内とその周辺の村落」『日本村落史講座 第2巻 景観Ⅰ（原始・古代・中世）』雄山閣出版 1990年8月
- 3) 藤井一二 「開拓と村落-8世紀の村落形成を中心にして-」『日本村落史講座 第2巻 景観Ⅰ（原始・古代・中世）』雄山閣出版 1990年8月
- 4) 荒川正夫 「北武蔵における中世方形館の成立と集落-武蔵国児玉郡・喜美郡を中心に」『第19回中世土器研究会報告資料』中世土器研究会 2000年12月

参考文献

- ・原部敦史他 「中世食器の地域性」『国立歴史民俗博物館研究報告』第71集 1997年3月
- ・阿久津 久 「門毛経塚遺物と中世陶器」『茨城県立歴史館報』12 1985年3月
- ・福島県考古学会中世部会平成12年度研究セミナー 「東北地方南部における中近世集落の諸問題」 2000年9月
- ・中山 晋 「古代日本の水害の研究」『食文化助成研究』9 1999年11月
- ・藤原祐一 「日玉研究私論」『研究紀要 第3号』栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995年3月



第247図 東・西館跡全体図

表2 住居跡一覽表

番号	位置	面積 (m ²)	遺構 種類・規模 (cm)	遺蹟 位置	内容			備考	上層土遺物	備考 (層) 1				
					柱礎 径×高	土器 種類	土器 数量							
1	C-572 N-132-W	方 形	336×336	10×24	平間	全周	4	1	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	礎石・土師器
2	D-526 N-35-W	方 形	411×437	25×31	平間	全周	4	1	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
3	D-544 N-30-W	方 形	404×326	15×35	平間	全周	4	1	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
4	D-544 N-29-W	方 形	469×338	11×22	平間	全周	4	1	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
5	D-544 N-34-W	方 形	529×327	8×14	平間	一帯	1	1	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
6	D-622 N-13-W	方 形	432×420	30×46	平間	全周	4	1	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
7	E-438 N-36-W	[長方形]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	
8	D-512 N-22-W	[長方形]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	
9	E-549 N-27-W	[方形]	436×430	0×10	平間	全周	3	1	礎	1	礎土	土師器	礎石	
10	D-522 N-22-W	方 形	727×719	11×41	平間	全周	4	2	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
11	D-511 N-27-W	方 形	377×524	25×30	平間	全周	4	2	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
12	R-541 N-27-W	不 明	782×613	5×31	平間	全周	2	1	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
13	C-522 N-60-E	不 明	520×420	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	
14	D-540 N-25-W	方 形	428×424	20×15	平間	全周	4	1	礎	2	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
15	D-610 N-20-W	[長方形]	345×420	2×12	平間	一帯	5	1	礎	1	礎土	土師器	礎石	
16	C-549 N-3-E	[方形]	327×325	25×21	平間	一帯	1	3	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
17	D-512	[長方形]	428×425	16	平間	一帯	1	1	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
18	E-643 N-43-W	[長方形]	422×420	D-23	平間	一帯	2	1	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
19	E-642 N-14-W	方 形	324×339	0×10	平間	全周	2	1	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
20	D-547 N-25-W	[長方形]	647×437	7×29	平間	一帯	2	2	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
21	D-658 N-13-W	[長方形]	310×326	20×7	平間	一帯	1	1	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
22	E-643 N-35-W	[長方形]	310×326	20×7	平間	一帯	1	1	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
23	R-67	[方形]	[不明]	D	平間	一帯	4	1	礎	2	礎土	土師器	礎石	
24	D-644 N-70-E	[円形]	530×481	10	平間	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	[不明]	
25	E-646	不 明	[不明]	19×10	平間	不明	1	1	礎	1	礎土	土師器	礎石	
26	D-644 N-26-E	[長方形]	429×434	28	平間	全周	2	1	礎	1	礎土	土師器	礎石	
27	D-640 N-24-W	[方形]	320×320	28	平間	全周	2	1	礎	1	礎土	土師器	礎石	
28	E-742 N-100-W	真円形	435×339	3×41	平間	一帯	1	1	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
29	D-742 N-38-W	[長方形]	430×345	25	平間	一帯	1	2	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
30	D-742 N-38-W	[長方形]	430×345	25	平間	全周	1	1	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
31	D-742 N-38-W	[長方形]	435×405	48×61	平間	一帯	2	1	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
32	D-746 N-3-W	方 形	232×221	6×38	平間	全周	4	1	礎	1	礎土	土師器	礎石	
33	D-747 N-20-W	方 形	510×512	20×17	平間	一帯	1	1	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	
34	D-748 N-13-W	方 形	340×342	30×35	平間	全周	4	1	礎	2	礎土	土師器	礎石	
35	D-747 N-11-W	[方形]	[不明]	30×34	平間	一帯	4	1	礎	1	礎土	土師器	礎石	
27	D-746 N-31-W	[長方形]	420×410	3×6	平間	全周	2	1	礎	1	礎土	土師器	礎石	
28	D-747 N-14-W	[長方形]	238×236	17×46	平間	一帯	1	1	礎	1	礎土	土師器	礎石	
29	C-519 N-3-W	真円形	328×236	17×46	平間	一帯	1	1	礎	1	礎土	土師器	礎石	
41	D-846 N-25-W	[方形]	[不明]	4×10	平間	一帯	4	1	礎	1	礎土	土師器	礎石	
42	D-846 N-33-W	真円形	330×224	0×21	平間	全周	1	3	礎	1	礎土	土師器	礎石	
44	D-740 N-30-E	[長方形]	432×440	8×25	平間	一帯	3	1	礎	1	礎土	土師器	礎石	
45	D-842 N-40-E	方 形	252×228	12×27	平間	全周	1	1	礎	1	礎土	土師器	礎石	
46	D-843 N-122-W	方 形	252×228	12×27	平間	全周	1	1	礎	1	礎土	土師器	礎石	
47	D-740 N-21-W	[長方形]	640×430	40×50	平間	全周	3	6	礎	1	礎土	土師器・灰土層	礎石・土師器	

番号	位置	上棟方向	平面形	規模 長×短軸 (m)	厚さ (cm)	築造 時期	内部施設						出土遺物	備考 (時期)		
							柱	礎	礎	礎	礎	礎				
49	D 7 b6	N-13°-W	[長方形]	3.00 × 3.5.0	4-6	平屋	2	—	2	伊	1	人瓦	土師器・埴土・石・石製品(勾玉)	5世紀前半		
51	B 3 d7	N-20°-W	[長方形]	3.27 × 3.25	22-30	平屋	2	—	1	—	2	自然	土師器片	5世紀前半		
52	B 3 c8	N-4°-W	長方形	6.70 × 4.62	12-28	平屋	1	高	5	—	2	葺石	土師器・須恵器(ワカス)・土製品(小玉)	6世紀後半-7世紀前半		
50	B 3 d7	N-15°-W	[長方形]	4.82 × 1.80	4-16	凸頭	—	—	—	—	—	1	人瓦	土師器	5世紀後半	
51	B 3 d6	N-18°-W	方形	7.38 × 7.34	22-30	平屋	2	1	3	葺	2	自然	土師器・土製品(支脚)	6世紀後半		
56	B 3 i8	N-18°-W	方形	5.96 × 5.94	22-26	平屋	全周	4	2	—	葺	1	自然	土師器・須恵器・土製品(支脚・小玉)・刀玉	6世紀後半	
57	B 4 g2	N-20°-W	[長方形]	2.14 × 2.60	40	平屋	全周	—	—	1	—	—	自然	土師器・須恵器・土製・刀子	8世紀中頃	
60	C 3 b8	N-44°-W	方形	6.68 × 6.82	12-20	平屋	—	1	1	葺	1	人瓦	土師器・土製品(瓦・テラス玉・土製・灰化木)	5世紀後半		
61	C 3 e9	N-48°-E	方形	3.33 × 3.31	8-14	平屋	—	2	—	葺	1	人瓦	土師器白土	5世紀後半		
63	C 3 c0	N-42°-W	方形	4.82 × 4.75	36-38	平屋	—	2	1	—	葺	1	人瓦	土師器・土製品・不明鉄製品	5世紀前半	
66	C 3 e8	N-14°-W	[長方形]	6.30 × 3.30	42-46	平屋	—	—	—	—	—	—	人瓦	土師器・灰化種子	6世紀後半	
70	C 4 c5	N-8°-W	方形	3.30 × 3.65	58-72	平屋	全周	4	2	—	葺	1	自然	土師器・須恵器・土製品(釘・鏡・石突・鉄器)	6世紀中頃	
71	C 3 g8	N-21°-W	[長方形]	4.90 × 2.87	22-30	平屋(全周)	—	—	—	—	—	1	人瓦	土師器	5世紀後半	
73	C 4 i2	N-20°-W	[長方形]	4.94 × 3.85	38-42	平屋	全周	4	1	—	葺	—	人瓦	土師器・土製品(勾玉)	6世紀後半	
74	C 3 j9	N-30°-W	[長方形]	4.64 × 4.10	8-14	平屋	—	4	1	—	葺	3	人瓦	土師器	5世紀前半	
75	D 4 a2	N-26°-W	方形	5.35 × 5.14	18-30	平屋	—	5	1	3	伊	1	自然	土師器・土製品(鉄片)	5世紀後半	
77	D 4 d4	N-13°-W	[長方形]	3.83 × 5.28	32-44	平屋	全周	4	1	5	伊	2	自然	土師器・埴土・土師・灰孔・白土・灰石	5世紀後半	
78	D 4 a7	N-15°-W	方形	4.44 × 4.40	40-50	平屋	全周	4	1	—	葺	1	自然	土師器・須恵器・不明土製品・鉄片	8世紀中頃	
79	D 4 g6	N-0°	方形	4.10 × 3.90	30-24	平屋	葺	—	—	—	伊	1	人瓦	土師器・土製品(滑石・支脚)・瓦石・不明鉄製品	5世紀前半	
81	E 4 b1	N-18°-W	方形	3.45 × 5.82	8-20	平屋	全周	4	—	—	葺	1	自然	土師器・須恵器・土製品(刀子)	6世紀後半	
82	E 4 d6	N-10°-W	方形	5.95 × 5.85	12-16	平屋	全周	4	1	2	葺	1	自然	土師器・須恵器(土・石・鉄片)・石製品(土製・鉄片)	6世紀後半	
83	R 4 b8	N-40°-W	方形	3.56 × 3.15	7-56	平屋	—	4	1	—	葺	—	自然	土師器・土製品(支脚)・灰化木	6世紀後半	
84	D 4 b7	N-45°-W	[長方形]	3.33 × 2.50	36	平屋	1	高	—	—	葺	—	自然	土師器・土製品(支脚)	6世紀後半	
85	D 4 e7	N-18°-W	[長方形]	3.73 × 2.63	30	平屋	全周	—	—	—	—	1	自然	土師器・灰孔・板石	5世紀後半	
86	D 4 i8	N-20°-W	[長方形]	4.94 × 2.78	40	平屋	全周	2	—	—	葺	2	自然	土師器・灰孔・板石	6世紀後半	
87	R 4 c3	N-21°-W	方形	5.32 × 6.28	18-30	平屋	全周	4	1	—	葺	1	自然	土師器・土製品(小玉)	6世紀後半	
88	E 4 a5	N-25°-W	長方形	7.82 × 7.30	12-12	平屋	1	高	4	1	2	伊	1	自然	土師器・白土・瓦木・石製品	5世紀後半

表3 掘立柱建物跡一覽表

番号	位置	掘行方向	桁・梁 (間)	規模(m)	面積 (㎡)	掘行柱間 (m)	掘行柱間 (m)	柱 穴 (m)				出土遺物	備考 (時期)			
								構造	柱穴	平面形	柱径 (幅)			柱径 (高)	向き	
1	D 7 g7	N-24°-W	3	7.32 × 3.36	37.50	2.40	1.80	鋼柱	12	東向き	70-128	55-90	32-75	土師器片・須恵器片	8世紀中頃	
2	D 7 e5	N-30°-W	3×2	5.10 × 4.48	22.80	1.80	2.10	鋼柱	10	東向き	32-92	16-70	18-66	土師器(須恵器)・土製・鏡	8世紀中頃	
3	D 7 e5	N-24°-W	2×2	1.82 × 3.94	18.99	2.40	1.80	木柱	9	南向き	30-82	40-82	15-64	土師器片・須恵器片(裏)	8世紀中頃	
4	D 7 g7	N-26°-W	3×2	(5.70) × 4.80	(27.36)	1.40-1.80	2.40	鋼柱	10	南向き	55-82	46-63	30-62	土師器片	8世紀中頃以前	
5	D 7 e4	N-26°-W	—	3.3	—	1.30	—	—	—	3	南向き	40-82	34-58	24-40	土師器片	—
6	D 7 e5	N-27°-W	—	3	—	1.30	—	—	—	3	南向き	42-30	36-46	20-30	—	—
7	D 5 i0	N-6°-E	2×2	5.10 × 4.20	21.42	2.40, 2.70	2.10	鋼柱	7	円形	30-38	20-32	22-40	家畜骨(片肉跡)	15世紀代	
8	D 5 i0	N-0°-E	3×3	7.80 × 6.00	46.80	0.90-2.10	1.20-2.40	—	31	円形・隅形	30-44	20-36	15-75	木製(片)	占領(瓦瓦通)	15世紀代
9	C 3 e9	N-79°-W	3×4	9.30 × 6.30	58.59	0.90-2.10	0.90-1.80	—	35	円形・隅形	27-70	21-40	12-55	木製(片)	漆(器)片	15世紀代

番号	位置	掘行方向	幅×深 (m)	面積 (m ²)	掘行柱間 (m)	築行柱間 (m)	柱 穴 (cm)				出土遺物	備考 (時期)			
							構造	柱式	平面形	長径 (軸)			短径 (軸)	深さ	
10	C 4 g3	N-20'-E	-	8.20 × 3.1	(54.81)	0.60~3.60	-	29	円形-楕円形	28-27	21-49	17-74	かわらけ片、炭化材	13世紀後半-14世紀前半	
11	D 4 e7	N-75'-E	3×1	3.6 × 3.21	(7.56)	0.70~1.80	2.10	-	11	円形	30-20	17-45	5-20	かわらけ片	13世紀後半-14世紀前半
12	D 3 d9	N-12'-E	-	10.20 × 6.90	70.38	0.60~2.70	-	37	円形-楕円形	22-60	21-57	11-99	かわらけ片、小礫	13世紀後半-14世紀後半	
13	C 3 e9	N-70'-W	-	5.90 × 5.90	(68.3)	0.60~2.70	-	22	円形-楕円形 方形	25-72	25-65	14-80	かわらけ片	13世紀後半-14世紀後半	

表4 方形周溝墓一覽表

番号	位置	軸方向	平面形	外径(m) 南北×東西	内径(m) 南北×東西	周溝	壁面	深さ	主要出土遺物	備考 (時期)
1	C 5 i6	N-30'-W	隅丸方形	7.80×7.60	6.80×6.30	[全周]	外傾	10-16		古墳時代前期
2	C 5 j4	N-11'-W	隅丸方形	9.00×9.90	8.80×8.30	[全周]	外傾	20-24		古墳時代前期
3	D 5 b6	N-30'-W	隅丸方形	9.30×9.30	8.30×8.30	[全周]	外傾	21	石製品(粘漆車)	古墳時代前期

表5 土坑一覽表

番号	位置	長径方向 (長短方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主要出土遺物	備考 (時期)
				長径(軸) ×短径(軸)	深さ (m)					
1	D 5 j8	N-77'-E	楕円形	2.51 × 2.40	67	外傾	平坦	人為	土師器(高坏・甕)	5世紀後半
2	D 5 j8	N-16'-W	[長方形]	(1.53) × 0.85	50	垂直	平坦	人為	土師器(甕・高坏)	
3	D 5 j8	-	-	- × -	50	外傾	円凸	自然	土師器(高坏・甕)	
5	D 5 e4	N-13'-W	楕円形	1.71 × (9.0)	13	緩斜	-	自然	土師器(高坏・甕)	
6	C 5 j3	N-14'-W	円形	0.71 × 0.75	40	緩斜	皿状	自然	土師器(坏・甕)	
7	C 5 i4	N-77'-E	楕円形	1.45 × 1.12	-	-	-	自然	土師器(甕), 土製品(勾玉)	
8	D 5 b6	N-69'-E	不整楕円形	0.90 × 0.66	20	緩斜	皿状	自然		
9	D 5 b6	N-15'-W	楕円形	1.94 × 1.24	20	緩斜	皿状	自然		
10	D 5 j8	N-12'-W	円形	0.70 × 0.67	45	外傾	皿状	自然	土師器(高坏・甕), 須恵器(甕)	5世紀前半
11	E 5 a4	N-15'-W	円形	2.23 × 2.21	107	緩斜	円凸	自然	土師器(甕), 須恵器(甕・釜)	8世紀中頃
12	D 5 h7	N-9'-W	楕円形	1.25 × 1.13	33	緩斜	平坦	自然		
13	E 4 e6	N-17'-W	楕円形	1.20 × 0.9	45	緩斜	皿状	自然	土師器(甕)	
14	D 5 j7	N-0'	円形	1.77 × 1.74	12	外傾	平坦	自然	土師器(高坏・甕), 須恵器(甕)	5世紀前半
15	D 5 c7	N-13'-W	円形	1.34 × 1.26	30	外傾	平坦	自然	土師器(坏・甕), 須恵器(坏), 石	
16	D 5 g8	N-15'-W	[隅丸楕円形]	1.80 × (0.64)	15	緩斜	平坦	人為	土師器(坏・甕), 須恵器(甕)	5世紀後半
17	D 5 e7	N-20'-W	長方形	2.40 × 2.04	26	外傾	皿状	人為	須恵器(坏・甕), 鉄斧	8世紀後半
18	E 5 e8	N-8'-W	[円形]	2.31 × (2.22)	32	外傾	平坦	自然	土師器(坏・高坏・甕)	
19	E 5 e8	N-14'-W	[長方形]	2.33 × (1.62)	25	緩斜	平坦	自然	土師器(甕・埴)	
20	E 5 d7	N-3'-W	円形	1.90 × 1.86	35	垂直	平坦	人為	土師器(甕)	
21	D 5 g7	N-2'-W	-	1.10 × (0.67)	47	緩斜	皿状	自然	土師器(甕・高坏)	
22	D 5 i3	N-30'-W	円形	1.50 × 1.43	7	緩斜	皿状	自然	土師器(甕), 土製品	
23	D 5 c7	N-54'-E	[楕円形]	[1.40] × 1.18	21	外傾	皿状	自然	土師器(甕・高坏)	
24	E 6 e6	N-62'-E	楕円形	0.92 × 0.64	16	外傾	皿状	自然	炭化材	

序号	位置	长径方向 (其他方向)	平面形	面积		壁面	底面	覆土	主要出土器物	备注 (时期)
				长径(米) × 短径(米)	深(米)					
23	E 6 d5	N-70°-E	椭圆形	0.41 × 0.36	24	外倾	平坦	自然	土钵器(姜-高环)	
25	D 6 e2	N-14°-E	小菱形	2.80 × 0.68	21	倾斜	平坦	自然	土钵器(姜)	
27	D 6 d3	[N-73°-W]	角形	0.300 × 0.34	14	倾斜	平坦	自然		
28	D 6 d1	不明	椭圆形	(1.21) × 0.92	7	倾斜	平坦	自然	土钵器(姜)	
29	E 3 j9	N-9°-E	椭圆形	1.67 × 0.91	28	外倾	平坦	自然		
30	E 1 a9	N-42°-E	圆形	1.62 × 1.52	31	外倾	平坦	自然	土钵器(姜-高环)	
34	R 3 b2	N-2°-E	圆形	1.20 × 1.16	27	外倾	平坦	人为	土钵器(姜)	
35	E 3 c4	N-79°-W	椭圆形	1.18 × 0.96	20	倾斜	屈状	自然	土钵器(姜)	
37	E 3 e9	N-68°-E	椭圆形	1.29 × 0.91	65	外倾	屈状	自然		
38	E 3 e9	不明	[圆形]	0.48 × 0.300	36	外倾	屈状	自然		
40	E 6 e5	N-72°-W	圆形	1.86 × 1.77	69	垂直	平坦	自然	土钵器(姜-高环), 须臾器(姜)	
41	E 6 e6	N-30°-E	不规则形	2.00 × 1.30	74	垂直	平坦	自然	土钵器(姜-覆土器片)	
42	D 7 c5	N-90°	不定形	1.60 × 0.68	13	倾斜	屈状	自然		
49	D 7 c7	N-68°-E	不规则形	0.99 × 0.42	23	外倾	平坦	自然		
53	D 7 e4	N-46°-W	长方形	1.29 × 0.85	19	外倾	平坦	自然		
54	D 7 e4	N-31°-E	[圆形]	0.75 × 0.74	25	倾斜	屈状	自然		
55	D 7 d7	N-24°-W	长方形	1.30 × 0.77	12	倾斜	平坦	自然	土钵器(姜), 须臾器(姜)	
56	D 7 d8	N-8°-W	椭圆形	1.15 × 0.46	8	外倾	平坦	自然		
57	D 7 g9	N-80°-E	椭圆形	2.81 × 1.89	45	外倾	平坦	自然	土钵器(姜-高环), 须臾器(姜-姜)	5世纪前半
58	D 8 i1	N-77°-E	圆形	1.91 × 1.86	10	外倾	平坦	自然		
59	D 7 e8	N-66°-E	椭圆形	0.71 × 0.64	51	倾斜	屈状	自然	土钵器(姜), 须臾器(环)	
60	D 7 h9	N-48°-W	小菱形	2.35 × 2.23	43	外倾	平坦	自然	土钵器(高环-姜-高环-姜)	
61	D 8 c7	N-0°	圆形	1.65 × 1.62	26	垂直	平坦	自然		
62	D 8 b8	N-87°-E	圆形	1.35 × 1.29	29	倾斜	平坦	人为	土钵器(高环-姜)	5世纪前半
63	D 8 c3	N-0°	圆形	1.95 × 1.85	30	外倾	平坦	自然	土钵器(高环-姜)	5世纪代
64	D 8 d1	N-9°-E	角形	1.41 × 1.23	31	外倾	屈状	人为	土钵器(高环-姜), 须臾器(姜-环)	8世纪中頃
65	D 7 d0	[N-21°-W]	椭圆形	(1.72 × 0.96)	(29)	外倾	平坦	自然	土钵器(环)	
66	D 8 e4	N-4°-E	椭圆形	1.82 × 1.62	30	倾斜	平坦	自然	土钵器(姜)	
67	D 8 c8	N-37°-E	椭圆形	1.61 × 1.21	48	垂直	平坦	自然	土钵器(环-高环-姜), 须臾器(环)	
68	D 8 e8	N-88°-E	小菱形	1.08 × 0.64	22	倾斜	屈状	自然		
69	D 7 e0	N-70°-W	椭圆形	2.15 × 1.53	71	倾斜	平坦	自然	土钵器(钵形器-土器片-姜), 须臾器(环)	8世纪中頃
70	D 7 c0	N-68°-W	不定形	1.10 × 0.99	28			人为	土钵器(高环-姜)	
71	D 8 d6	N-25°-W	椭圆形	1.30 × 0.95	28	倾斜	平坦	自然	土钵器(高环-姜), 须臾器	
72	D 8 d6	N-24°-W	圆形	1.21 × 1.19	40	垂直	平坦	自然	土钵器(姜), 须臾器(环)	
73	D 8 e6	N-30°-W	椭圆形	0.97 × 0.60	35	外倾	凹凸	人为	土钵器(姜), 须臾器(环)	
74	D 7 g9	N-82°-E	椭圆形	3.12 × 2.00	87	外倾	平坦	人为	土钵器(姜-姜)	
76	D 8 h2	N-17°-W	椭圆形	4.13 × [3.62]	56	外倾	平坦	自然	土钵器(姜), 须臾器(环-短须臾)	8世纪後半
77	D 8 h2	N-3°-W	椭圆形	3.15 × (1.41)	53	外倾	平坦	自然	须臾器(姜)	
79	D 7 i8	N-53°-E	椭圆形	0.82 × 0.72	18	倾斜	平坦	自然	土钵器(姜)	
80	D 7 h8	N-46°-E	椭圆形	1.28 × 1.02	38	外倾	平坦	自然	土钵器(姜)	
81	D 7 h7	N-37°-W	椭圆形	0.67 × 0.53	45	垂直	平坦	自然		
82	D 7 h7	N-35°-W	椭圆形	0.64 × 0.50	40	垂直	平坦	自然		
83	D 7 i7	N-16°-E	椭圆形	0.87 × 0.70	66	外倾	平坦	自然		
84	D 7 i7	N-72°-E	不规则形	0.48 × 0.44	43	外倾	屈状	自然		
85	D 7 g6	N-9°-W	不定形	1.10 × 0.88	63	外倾	屈状	自然	土钵器(高环-姜), 须臾器(环)	
86	D 7 g6	N-15°-W	椭圆形	[1.04] × 0.92	64	外倾	平坦	自然		

番号	伊 呂	長辺方向 (真横方向)	平 面 形	規 模		敷面	底面	覆土	土台出土遺物	備 考 (時期)
				長径(總)×短径 (cm)	高さ (cm)					
87	D 7 5	N-0°	円形	0.40 × 0.37	30	平直	平坦	自然	石蔵	
88	D 7 8	N-27°-W	楕円形	0.76 × 0.67	50	平直	平坦	人爲		3世紀前半
89	C 5 0	N-80°-E	不整形円形	0.90 × 0.81	46	不明	平坦	自然		
90	C 5 0	N-58°-E	不整形円形	1.07 × 0.98	45	不明	平坦	自然		
91	B 3 8	[N-32°-E]	[楕円形]	[1.15 × 1.14]				自然	土師器(甕), 須恵器(甕)	
92	C 3 6	N-63°-W	楕円形	1.03 × 0.92	25	破砕	屈状	自然	土師器(甕)	
94	D 4 2	N-25°-W	楕円形	0.32 × 0.24	(17)		平坦	不明	土師質土器(かわらけ)	中良
95	D 4 7	N-2°-W	不整形円形	1.08 × 0.94	60	外縁	屈状	自然		
97	D 4 7	N-62°-W	不整形円形	0.84 × 0.60	62	外縁	屈状	自然		
98	D 4 3	N-20°-W	楕円形	0.62 × 0.43	42	外縁	平坦	自然		
100	D 4 7	N-88°-W	[楕円形]	[1.33 × 0.85]	54	外縁	平坦	自然	土師器(高坏)	
101	E 4 1	N-15°-W	円形	1.44 × 1.40	40	外縁	屈状	自然	土師質土器(かわらけ)	中良
102	E 3 0	N 78°-E	円形	1.67 × 1.53	26	外縁	平坦	自然	土師器(坏-甕)	
103	D 4 7	N-28°-E	楕円形	0.42 × 0.38	40	外縁	屈状	自然	土師器(高坏-甕)	
105	E 3 0			(1.28) × (0.48)	20	外縁	平坦	人爲		
110	E 4 a1	N 0°	長方形	1.66 × 1.18	16	外縁	平坦	自然		
111	D 4 7	N-42°-W	[円形]	1.25 × (1.20)	56	外縁	平坦	自然	土師質土器(かわらけ)	
112	E 3 0	N-12°-E	[楕円形]	0.68 × (0.60)	36	外縁	屈状	自然		
115	C 3 6	N-25°-E	楕円形	1.20 × 1.02	12	外縁	平坦	自然	土師質土器(かわらけ)	中良
116	C 4 e5	N 73°-W	楕円長方形	4.06 × 1.54	26	外縁	平坦	自然	土師質土器(かわらけ)	中良
117	C 4 6	N-77°-W	[楕円形]	1.45 × (1.33)	34	外縁	平坦	自然	土師器(甕), 須恵器(甕)	
118	C 4 e5	N-81°-W	不整形円形	2.47 × 1.15	8	外縁	平坦	自然	土師器(坏-甕)	
120	C 3 c0	N-0°	円形	0.88 × 0.86	50	外縁	円凸	自然		
121	C 3 6	N-77°-E	楕円形	0.88 × 0.79	14	破砕	屈状	自然	土師器(坏-甕)	
122	C 4 b1	N-85°-W	楕円形	1.15 × 0.95	25	外縁	平坦	自然		
123	C 4 b1	N 11°-E	円形	1.64 × 1.61	107	破砕	平坦	自然		
124	E 3 c9	N-39°-W	楕円形	0.71 × 0.65	26	外縁	平坦	自然		
125	E 3 c0	N-32°-W	楕円形	0.43 × 0.38	31	外縁	屈状	自然		
126	E 3 c0	N-4°-E	楕円形	0.45 × 0.30	19	外縁	屈状	自然		
127	E 3 c0	N-9°-W	不整形円形	2.41 × 2.11	33	破砕	屈状	人爲	土師器(甕)	
128	D 3 0	N-54°-W	円形	1.89 × 1.80	54	外縁	平坦	人爲		
129	D 3 0	N-73°-W	円形	1.59 × 1.56	45	外縁	平坦	自然		
130	E 4 c2	N-63°-W	[楕円形]	1.67 × (0.75)	45	破砕	平坦	自然		
131	E 4 c2	N 60°-E	楕円形	1.07 × 0.77	10	破砕	屈状	自然		
132	D 4 7	N-3°-E	[不整形円形]	2.01 × (1.33)	23	外縁	円凸	自然	土師器(高坏-甕)	
133	D 4 g5	N-82°-W	楕円形	1.71 × 1.43	23	外縁	平坦	自然	土師器(甕)	
136	E 4 e4	N-88°-W	楕円形	1.64 × 1.06	45	外縁	平坦	自然	土師器(甕), 須恵器(坏)	
137	C 4 b4	N-5°-W	[不整形円形]	(2.04) × 1.10	24	外縁	平坦	人爲	土師質土器(かわらけ)	中良
140	C 4 1	N-17°-W	[円形]	0.30 × (0.22)	21	破砕	屈状	自然		
141	C 4 1	K-72°-W	不整形	4.45 × 0.66	39	外縁	屈状	自然		
142	C 3 6	N-69°-W	[不整形円形]	0.74 × 0.61	31	外縁	段状	自然	土師器(甕), 土師質土器(かわらけ)	
143	C 3 6	N-35°-W	楕円形	0.80 × 0.28	28	平直	屈状	自然		
144	C 4 d1	N-41°-W	楕円形	1.21 × 1.0	29	外縁	平坦	自然		
145	C 3 a0	N 0°	円形	1.04 × 1.00	20	外縁	平坦	自然		
146	C 3 c0	N-62°-W	[円形]	1.00 × (0.60)	18	外縁	平坦	自然		
147	C 3 0	N-20°-E	不整形円形	0.92 × 0.60	18	外縁	円凸	自然		

番号	位置	長短方向 (長軸方向)	平面形	周 長		断面	底面	土工	主な出土遺物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径 (軸)	高さ (m)					
148	C 4 f7	N-45°-W	海 凹 形	2.18 × 1.38	24	外傾	平坦	人為	土師質土器(かわらけ)	中世
149	C 4 h1	N-13°-W	不 定 形	0.86 × 0.70	26	外傾	凹凸	自然	土師質土器(かわらけ)	
152	B 3 h9	N-0°	凹 形	0.82 × 0.82	16	外傾	凹凸	自然		
153	C 4 e1	N-70°-E	凹 形	0.70 × 0.64	18	外傾	平坦	人為	土師質土器(かわらけ)	中世
155	C 3 e0	N-60°-E	楕 円 形	0.98 × 0.74	26	外傾	凹状	自然		
156	C 3 c0	N-50°-W	凹 形	0.84 × 0.80	24	外傾	凹凸	自然		
157	C 4 f1	N-26°-W	楕 円 形	1.52 × 0.86	14	外傾	平坦	自然	土師器(甕)	
158	C 4 f1	N-23°-W	楕 円 形	0.82 × 0.72	40	外傾	皿状	自然		
159	C 4 f2	N-33°-W	楕 円 形	0.78 × 0.40	14	外傾	平坦	自然		
160	C 4 g2	N-42°-W	楕 円 形	1.96 × 0.92	30	外傾	平坦	自然	土師質土器(かわらけ)	中世
161	C 4 h3	N-20°-E	「楕 円 形」	1.90 × 1.00	30	外傾	平坦	自然	土師器(高坏・甕)	
168	C 4 h2	N-21°-W	楕 円 形	0.72 × 0.66	18	外傾	平坦	自然		
169	C 4 h3	N-34°-E	楕 円 形	1.12 × 1.00	35(52)	外傾	凹凸	自然		
170	C 4 i2	N-21°-W	不整楕円形	1.85 × 1.29	13(17)	外傾	平坦	自然	土師器(甕)	
171	C 3 g0	N-1°-E	不整楕円形	1.22 × 1.02	5	外傾	平坦	人為	土師器(甕)	
172	D 4 h3	N-9°-E	楕 円 形	2.35 × 1.46	40(57)	外傾	平坦	自然	土師器(甕)	
173	C 3 g0	N-67°-E	不整楕円形	2.42 × 0.87	11	緩斜	平坦	人為	土師器(甕)	
174	C 3 g0	N-52°-E	楕 円 形	1.22 × 0.90	20	外傾	平坦	人為	土師器(甕)	
175	E 4 b4	N-77°-W	長 方 形	2.57 × 1.19	65	垂直	平坦	自然	土師質土器(かわらけ)	
176	E 4 c3	N-42°-E	方 形	1.34 × 1.32	36	緩斜	皿状	自然		
178	B 4 h6	N-10°-W	不 定 形	1.96 × (1.12)	16(23)	外傾	平坦	自然		
180	C 1 j6	N-14°-W	凹 形	0.99 × 0.95	4	緩斜	平坦	自然		
181	D 4 a5	N-68°-W	楕 円 形	1.08 × 0.92	3	緩斜	平坦	自然		
183	D 4 a5	N-61°-E	凹 形	0.80 × 0.76	7	緩斜	平坦	自然		
184	D 4 j5	N-61°-W	長 楕 円 形	2.51 × 0.75	102	緩斜	凹凸	自然	土師器(坏・甕・高坏)	
186	D 4 e4	N-24°-E	凹 形	2.51 × 2.45	60	外傾	平坦	自然		
187	D 4 j4	N-90°	楕 円 形	1.15 × 0.91	56	垂直	平坦	自然	土師器(甕)	縄文中期
188	D 4 j4	N-86°-E	凹 形	0.77 × 0.74	43	外傾	皿状	自然	土師器(甕・高坏)	
189	B 4 c4	N-28°-E	不整楕円形	1.91 × 1.45	104	垂直	平坦	自然		
190	B 3 d7	N-38°-W	楕 円 形	1.10 × 0.95	35(56)	外傾	凹凸	自然	土師器(甕・用)	
192	B 3 d8	N-15°-E	楕 円 形	1.25 × 1.05	31	外傾	平坦	自然	土師器(甕)	
193	B 3 e9	N-15°-W	楕 円 形	2.0 × 0.81	25	外傾	平坦	人為	土師器(高坏・甕)	
194	C 4 i3	N-35°-W	楕 円 形	2.8 × 2.2	102	外傾	平坦	自然		
195	C 4 e3	N-3°-E	楕 円 形	2.0 × 0.99	24	外傾	凹凸	自然	土師器(坏・甕)	
196	D 4 f2	N-84°-E	楕 円 形	1.3 × 1.29	20	緩斜	凹凸	自然		5世紀前半
197	D 4 b3	N-36°-W	不整楕円形	0.95 × 0.80	19	外傾	平坦	自然	土師器(甕)	
198	D 4 i3	N-5°-E	凹 形	2.19 × 2.07	29	外傾	平坦	人為	土師器(高坏・甕)	5世紀前半
199	D 4 i2	N-48°-E	不整楕円形	1.29 × 1.11	10	外傾	平坦	自然	土師器(甕)	
200	D 4 i2	N-29°-W	楕 円 形	1.09 × 0.88	19	外傾	平坦	人為	土師器(高坏・甕)	
201	D 4 i1	N-70°-E	楕 円 形	1.36 × 1.17	29	外傾	平坦	自然	土師質土器(かわらけ)	
202	D 3 j0	N-14°-W	楕 円 形	1.26 × 0.70	19	外傾	平坦	自然	土師質土器(かわらけ), 陶器	
203	D 3 g0	N-61°-W	不整楕円形	1.65 × 1.30	55	外傾	平坦	自然	土師器(甕), 土師質土器(かわらけ)	
204	D 3 j0	N-26°-W	不整楕円形	1.50 × 1.29	10	外傾	凹凸	自然	土師質土器(かわらけ)	
205	D 4 i1	N-75°-W	隅丸長方形	2.56 × 2.24	63	外傾	平坦	人為	土師質土器(かわらけ)	中世
206	D 4 f1	N-31°-W	「楕 円 形」	1.36 × (0.98)	14	外傾	平坦	自然	土師質土器(かわらけ), 土鏡	
207	D 4 g1	N-81°-E	楕 円 形	0.82 × 0.74	16	緩斜	平坦	自然		

番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深さ (cm)					
208	D 4 g1	N-62°-W	枡円形	2.05 × 1.43	12	縦割	平坦	人為	土師質土器(かわらけ)	
209	D 4 h1	N-14°-E	長方形	1.07 × 0.95	41	外堀	平坦	自然	土師器(甕), 土師質土器(かわらけ)	
210	D 4 h1	N-81°-W	枡円形	0.95 × 0.74	43	外堀	平坦	自然	土師器(甕), 土師質土器(かわらけ)	
211	D 4 h2	N-87°-W	枡円形	1.93 × 1.33	25	外堀	平坦	人為		
212	E 4 d4	N-41°-E	不整形	1.55 × 1.25	55	外堀	平坦	人為		
213	D 4 h2	N-85°-W	長方形	1.11 × 0.94	53	外堀	平坦	自然	土師器(環・甕)	6世紀後半
214	D 4 i2	N-44°-E	不整形	0.64 × 0.54	31.5	外堀	平坦	自然		
215	E 4 e4	N-50°-W	枡円形	1.40 × 0.65	40	垂直	平坦	自然		
216	E 4 d5	N-11°-W	不整形	2.02 × 1.48	15	外堀	平坦	人為		
218	D 3 d	N-0°	[隅丸方形]	(0.54) × (0.50)	62	外堀	扇状	自然		
219	E 4 b7	N-0°	円形	0.90 × 0.86	16	外堀	平坦	自然	土師器(甕), 土師質土器(かわらけ)	
220	E 4 b7	N-0°	円形	1.04 × 1.00	20	外堀	平坦	自然	土師器(環・甕)	
221	E 4 b7	N-41°-W	枡円形	0.66 × 0.54	22	外堀	平坦	自然		
222	D 4 d	N-0°	[円形]	6.6 × (6.4)	8	外堀	凹凸	自然		
224	D 4 a7	N-45°-E	円形	0.48 × 0.42	14	外堀	平坦	自然		
225	D 4 b7	N-32°-E	円形	0.48 × 0.42	12	外堀	平坦	自然		
226	C 4 b5	N-16°-E	不整形	1.80 × 1.32	64	外堀	平坦	自然		
227	B 4 j6	N-20°-W	円形	1.00 × 0.90	20	外堀	平坦	自然		
228	D 8 d6	N-58°-E	不定形	1.70 × 0.82	16-42	外堀	扇状	人為	土師器(甕), 須恵器(甕)	8世紀後半
229	D 8 d6	N-51°-W	円形	0.80 × 0.80	30	外堀	平坦	自然	須恵器(知母器)	
230	D 8 b2	N-18°-W	隅丸方形	0.65 × 0.48	30	外堀	凹凸	自然		
232	D 4 j6	N-62°-E	[枡円形]	3.12 × (2.80)	70	外堀	平坦	人為		
233	B 3 d8	N-18°-W	—	2.41 × (1.07)	40	外堀	平坦	自然	土師器(甕)	
234	F 4 b7	N-35°-W	枡円形	1.05 × 0.92	9	縦割	平坦	自然	土師器片	
235	F 4 b6	N-8°-E	円形	0.75 × 0.72	20	外堀	凹凸	自然		

表6 地下式竈一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
				長径×短径	深さ					
1	E 4 e4	N-4°-E	(塋) 円形 (主) 隅・長	1.2	1.44	漏斗	平坦	自・人	土師器(環・甕), 常滑	中世
				2.1×1.6	1.6	垂直	平坦	自然		
2	D 4 j6	N-100°-W	(塋) 枡円 (主) 隅・長	1.1	1.9	縦割	平坦	自・人	土師器片, 須恵器片	中世
				2.7×2.3	2.1	垂直	平坦			

表7 井跡一覽表

番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		立ち上がり面	底面	覆土	出土遺物	備考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸) (m)	深さ (cm)					
1	E 3 b0	N-60°-W	楕円形	3.30×2.80	—	漏斗状	—	自然	土師器片・土師質土器片・常滑片	中世
2	C 4 e3	N-89°-W	楕円形	4.20×3.70	—	漏斗状	—	人為	土師器片・かわらけ・常滑片・瓦	中世

表8 溝跡一覽表

遺番号	位 置	方 向	形 状	規 模 (m)				型 面	底 面	積 土	出土遺物	考 考 (時期)
				溝跡長	上 幅	下 幅	深さ (cm)					
1	C 5 e9~C 6 2	西~東	S7状	(17.0)	0.3~0.32	0.08~0.4	20~25	外傾	U字状	自然	土師器片・須恵器・土わらじ	近世以降
2	C 5 g3~C 5 g7	西~東	直線状	17.6	0.35~0.8	0.17~0.6	8~12	外傾	平 坦	自然	土師器片・鉄釘	近世以降
3	B 3 e7~E 3 c3	方形区画	—	(203.3)	3.6~5.0	1.3	120~150	外傾	平 坦	自然	土師器片・須恵器・土わらじ・土師片瓦	中世
4	C 5 c7~D 6 e3	方形区画	—	(78.7)	0.2~1.12	0.06~0.4	20~66	外傾	平 坦	人為	土師器片・須恵器・土わらじ・土師片瓦	中世
5	E 4 a9~D 3 8	西~東	直線状	(39.0)	0.3~1.1	0.1~0.4	22~26	外傾	平 坦	自然	土師器片・須恵器・土わらじ・土師片瓦	近世以降
6	D 5 g8~D 6 7	西~東	直線状	(40.0)	0.3~2.2	0.3~1.1	12~43	外傾	平 坦	自然	土師器片・土わらじ・須恵器片・土師片	近世以降
7	D 6 12~D 6 12	北~南	直線状	9.7	0.45~0.65	0.21~0.48	2~26	外傾	下 傾	自然	土師器片・須恵器片・土師片	近世以降
8	D 6 13~D 6 12	北~南	直線状	10.0	0.5~0.72	0.2~0.52	5~31	外傾	平 坦	自然	土師器片・土わらじ・鉄釘	近世以降
9	D 5 6a~D 6 13	西~東	直線状	18.8	0.8~1.4	0.2~0.9	10~12	外傾	直 状	自然	土師器片・須恵器片・土わらじ	近世以降
10	C 5 g7~D 3 8	北~南	直線状	(33.2)	0.3~1.5	0.2~0.5	22~30	外傾	U字状	自然		近世以降
11	D 6 15~E 6 18	北~南	直線状	(28.0)	0.3~1.1	0.2~0.6	15~30	外傾	U字状	自然	土師器片・古銭・鉄釘	近世以降
12	E 3 c6~E 3 d0	西~東	直線状	(20.0)	0.31~0.84	0.1~0.16	8~22	外傾	U字状	自然		近世以降
13	E 3 d5~E 4 d4	西~東	直線状	(36.6)	0.3~1.04	0.1~0.38	10~14	外傾	U字状	自然	土師器片・土わらじ・土師片	近世以降
14	E 3 e7~E 4 14	西~東	直線状	34.2	0.26~0.43	0.18~0.32	10~25	外傾	U字状	自然	土師器片・土師器片・土師片瓦	近世以降
15	E 4 11~E 4 16	西~東	直線状	(21.0)	1.34~1.84	0.34~0.5	60~96	外傾	平 坦	自然	土師器片・土師器片・土師片	近世以降
16	E 3 c4~E 3 c2	北~南	直線状	(35.5)	1.2~1.3	0.2~0.5	50~12	外傾	平 坦	自然		近世以降
17	E 3 d4~E 3 7	西~東	直線状	(9.0)	1.74~2.52	1.08~1.6	52~64	外傾	平 坦	自然	須恵器片	近世以降
20	F 6 b0~E 7 e2	北~南	直線状	13.6	0.8~1.0	0.4~0.3	30~34	外傾	平 坦	自然	須恵器片・土師器片・土師片	近世以降
21	E 7 a1~E 7 e3	北~南	直線状	(20.5)	1.3~2.0	0.4~0.8	32~35	外傾	直 状	自然	土師器片・須恵器片・土師片	近世以降
22	D 7 h2~E 7 c4	北~南	直線状	19.0	0.4~0.8	0.2~0.5	20~30	外傾	直 状	自然	土師器片・須恵器片	近世以降
23	D 7 j4~E 7 c4	北~南	直線状	9.5	0.4~1.0	0.2~0.3	28~52	外傾	平 坦	自然	土師器片・須恵器片	近世以降
24	D 7 i4~E 7 a4	北~南	直線状	(7.0)	0.6~0.7	0.1~0.5	20~34	外傾	平 坦	自然		近世以降
25	D 7 c3~E 7 a7	北西~南東	直線状	(32.0)	0.9~1.44	0.26~0.34	44~100	外傾	平 坦	自然	土師器片・須恵器片	8世紀中頃
26	D 7 12~D 7 13	西~東	直線状	(4.1)	0.6~0.8	0.1~0.6	30~32	外傾	平 坦	自然		近世以降
28	D 7 11~E 7 c2	北~南	直線状	(19.0)	0.1~1.5	0.2~0.6	10~12	外傾	直 状	自然	土師器片	近世以降
29	E 7 f1~E 7 13	東~西	直線状	(9.0)	1.0~1.5	0.2~0.4	40~81	外傾	平 坦	自然	土師器片・須恵器片	近世以降
30	F 7 b1~E 7 13	北~西	L字状	14.0	1.1~1.8	0.5~1.3	20~22	外傾	直 状	自然		近世以降
32	B 3 8~B 4 g2	南~東	L字状	26.0	0.34~1.04	0.1~0.44	20~40	外傾	U字状	自然	土師器片・須恵器片・古銭	近世以降
33	B 3 j7~C 4 a6	西~東	直線状	(37.2)	0.4~1.5	0.2~1.0	26~30	外傾	平 坦	自然	土師器片・土わらじ	近世以降
34	B 4 j2~C 4 a6	西~東	直線状	(18.0)	0.4~0.9	0.2~0.7	20~30	外傾	平 坦	人為	土師器片	近世以降
35	C 3 c9~D 4 a2	北~東	L字状	(41.0)	0.3~0.9	0.1~0.7	16~44	外傾	U字状	自然	土師器片・土わらじ	近世以降
36	D 2 8~D 4 c8	南~東	L字状	(41.5)	0.5~0.9	0.3~0.5	62~114	外傾	平 坦	自然	土師器片・土わらじ	近世以降

番号	位置	方向	形状	規模 (m)				深さ (cm)	硬化面	覆土	出土遺物	備考 (時期)
				確認長	上幅	下幅	深さ (cm)					
42	E 3 d9~E 4 c6	西~東	直線状	(33.5)	0.4~1.0	0.14~0.5	10	外傾	平土	自然	陶器片	中世
43	D 4 c8~D 4 i6	北~南	直線状	(27.5)	0.5~1.1	0.2~0.3	64~100	外傾	U字状	自然	土師器片・赤土	
44	E 4 b8~E 4 d8	北~南	直線状	(9.0)	1.2~1.84	0.24~0.6	60~ 80	外傾	平土	自然		中世
46	C 3 d9~D 3 b9	北~南	直線状	(33.3)	0.2~0.5	0.1~0.4	30~ 34	外傾	U字状	自然	土師器片	近世以降

表9 道路跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模 (m)			深さ (cm)	硬化面	覆土	出土遺物	備考 (時期)
				確認長	上幅	側溝					
1	D 5 h2~D 5 h5	西~東	直線状	(13.0)	0.9~1.4	—	10~34	平坦	自然	土師器片・須恵器片	近世以降
2	C 5 a1~D 4 d0	北~南	直線状	(67.0)	0.2~1.3	—	—	平坦	—	土師器片・古銭	近世以降
3	D 7 i3~D 7 j0	西~東	直線状	(35.0)	0.3~1.4	—	14~18	平坦	人為	土師器片・須恵器片・陶器片	近世以降
4	D 7 i0~D 8 i3	西~東	直線状	(12.0)	0.3~1.1	—	14~24	平坦	人為	土師器片・須恵器片	近世以降

写 真 图 版





調査終了状況（北部）



調査終了状況（南部）



第3号溝跡完掘状況（南部）



第3号溝跡遺物出土状況（東部）



第1号土橋跡完掘状況



第2号土橋跡土層確認状況



第9号掘立柱建物跡完掘状況



第12号掘立柱建物跡完掘状況



第1号住居跡完掘状況



第2号住居跡完掘状況



第2号住居跡遺物出土状況



第2号住居跡遺物出土状況



第3号住居跡完掘状況



第3号住居跡遺物出土状況



第4号住居跡完掘状況



第5号住居跡完掘状況



第6号住居跡完掘状況



第6号住居跡竈完掘状況



第9号住居跡完掘状況



第10号住居跡完掘状況



第10号住居跡遺物出土状況



第11号住居跡完掘状況



第12号住居跡完掘状況



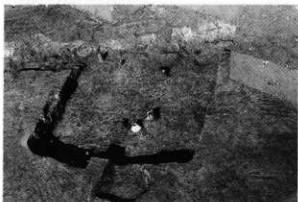
第13号住居跡完掘状況



第14号住居跡完掘状況



第15号住居跡遺物出土状況



第16号住居跡遺物出土状況



第18号住居跡完掘状況



第19号住居跡完掘状況



第20号住居跡完掘状況



第21・22号住居跡完掘状況



第22号住居跡遺物出土状況



第27号住居跡完掘状況



第28号住居跡完掘状況



第28号住居跡遺物出土状況



第28号住居跡遺物出土状況



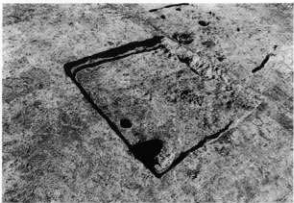
第30号住居跡完掘状況



第31号住居跡完掘状況



第32号住居跡完掘状況



第33・34号住居跡完掘状況



第35号住居跡完掘状況



第35号住居跡炉完掘状況



第35号住居跡炉遺物出土状況



第37・38号住居跡完掘状況



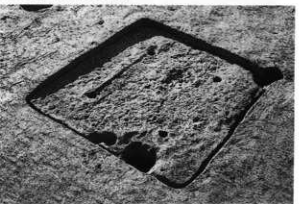
第39号住居跡完掘状況



第42号住居跡完掘状況



第44号住居跡完掘状況



第45号住居跡完掘状況



第46号住居跡完掘状況



第46号住居跡遺物出土状況



第47号住居跡完掘状況



第47号住居跡遺物出土状況



第51号住居跡完掘状況



第51号住居跡焼土出土状況



第52号住居跡完掘状況



第53号住居跡完掘状況



第54号住居跡遺物出土状況



第54号住居跡貯蔵穴遺物出土状況



第56号住居跡完掘状況



第57号住居跡遺物出土状況



第60号住居跡完掘状況



第60号住居跡遺物出土状況



第61号住居跡完掘状況



第63号住居跡完掘状況



第63号住居跡遺物出土状況



第63号住居跡遺物出土状況



第66号住居跡遺物出土状況



第70号住居跡完掘状況



第71号住居跡完掘状況



第73号住居跡完掘状況



第73号住居跡遺物出土状況



第74号住居跡完掘状況



第75号住居跡完掘状況



第77号住居跡遺物出土状況



第77号住居跡遺物出土状況



第77号住居跡遺物出土状況



第77号住居跡遺物出土状況



第78号住居跡完掘状況



第79号住居跡完掘状況



第79号住居跡遺物出土状況



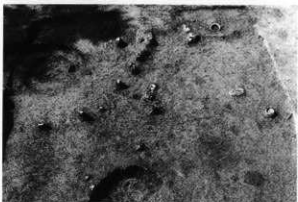
第79号住居跡遺物出土状況



第79号住居跡遺物出土状況



第81号住居跡完掘状況



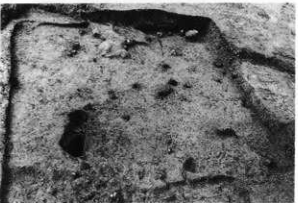
第81号住居跡遺物出土状況



第81号住居跡貯蔵穴遺物出土状況



第82号住居跡完掘状況



第82号住居跡遺物出土状況



第82号住居跡遺物出土状況



第82号住居跡竈遺物出土状況



第83号住居跡完掘状況



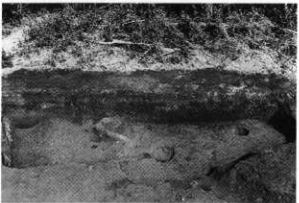
第83号住居跡遺物出土状況



第83号住居跡遺物出土状況



第84号住居跡完掘状況



第85・86号住居跡完掘状況



第85・86号住居跡遺物出土状況



第86号住居跡竈完掘状況



第86号住居跡竈遺物出土状況



第87号住居跡完掘状況



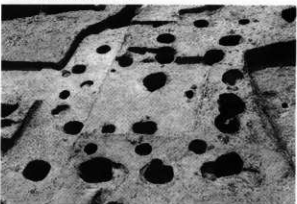
第87号住居跡竈遺物出土状況



第88号住居跡完掘状況



第1・4号掘立柱建物跡完掘状況



第2・3・5・6号掘立柱建物跡完掘状況



第1号方形周溝墓完掘状況



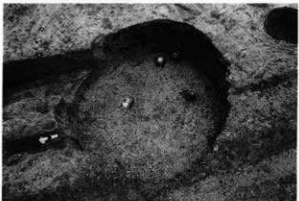
第2号方形周溝墓完掘状況



第3号方形周溝墓完掘狀況



第1号竖穴状遺構完掘狀況



第1号土坑遺物出土狀況



第10号土坑遺物出土狀況



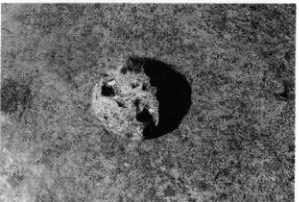
第11号土坑完掘狀況



第14号土坑完掘狀況



第17号土坑遺物出土狀況



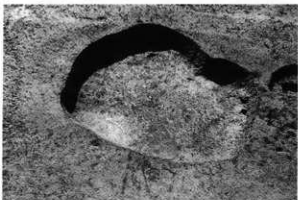
第62号土坑遺物出土狀況



第63号土坑遗物出土状况



第64号土坑遗物出土状况



第76号土坑完掘状况



第88号土坑遗物出土状况



第98号土坑完掘状况



第122号土坑完掘状况



第128号土坑完掘状况



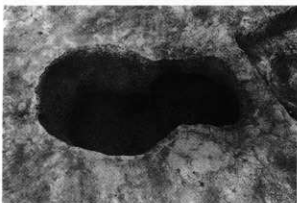
第129号土坑完掘状况



第189号土坑（陥し穴）完掘状況



第198号土坑遺物出土状況



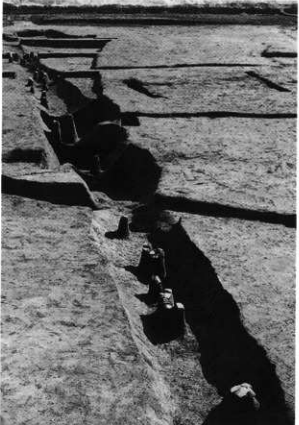
第1号地下式竈完掘状況



第2号地下式竈完掘状況



第4号溝跡完掘状況



第25号溝跡遺物出土状況



第7・8号掘立柱建物跡完掘状況



第7号掘立柱建物跡遺物出土状況



第3号溝跡完掘状況（北部）



第3号溝跡完掘状況（東部）



第3号溝跡土層確認状況



第3号溝跡遺物出土状況



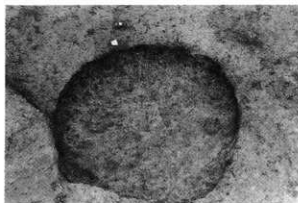
第3号溝跡遺物出土状況



第1号井戸跡完掘状況



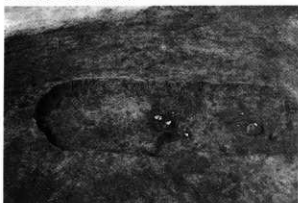
第2号井戸跡完掘状況



第101号土坑完掘状况



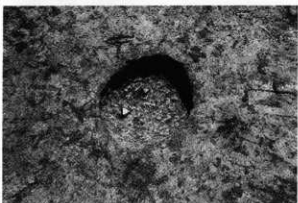
第115号土坑遺物出土状况



第137号土坑遺物出土状况



第148号土坑遺物出土状况



第160号土坑遺物出土状况



柱穴群A完掘状况



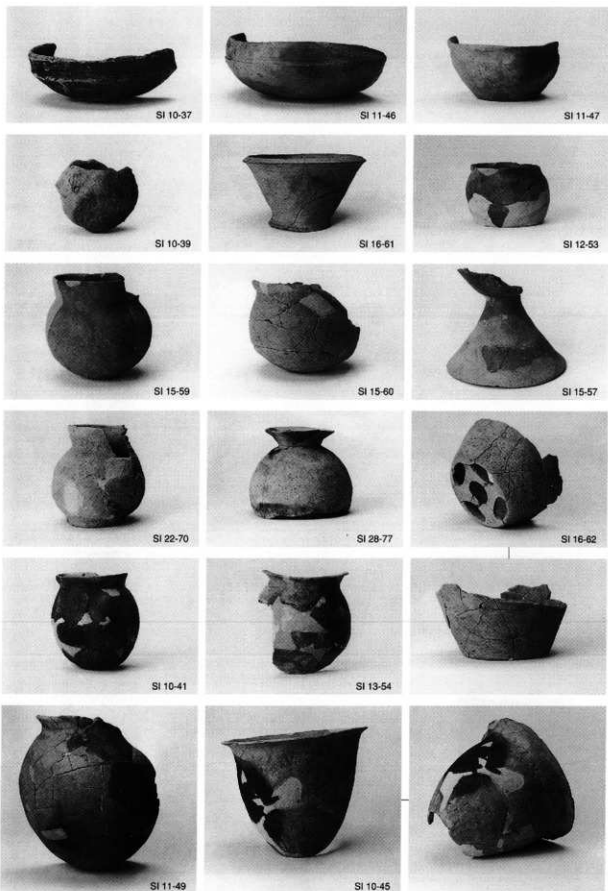
柱穴群C完掘状况



柱穴群D完掘状况



第1~4・6・7・9・10号住居跡出土遺物



第10～13・15・16・22・28号住居跡出土遺物



第15・18・19・22・28・30・35・42・46・54号住居跡出土遺物





SI 57-166



SI 60-168



SI 61-173



SI 66-191



SI 66-192



SI 63-175



SI 63-176



SI 60-169



SI 63-174



SI 63-180



SI 63-179



SI 63-190



SI 52-134



SI 63-189



SI 54-154



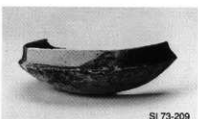
SI 60-171



SI 57-165



SI 54-155





SI 77-230



SI 78-238



SI 81-269



SI 83-284



SI 83-285



SI 83-286



SI 83-289



SI 78-239



SI 77-232



SI 79-247・246



SI 74-224



SI 74-358



SI 75-229



SI 74-359



SI 77-233

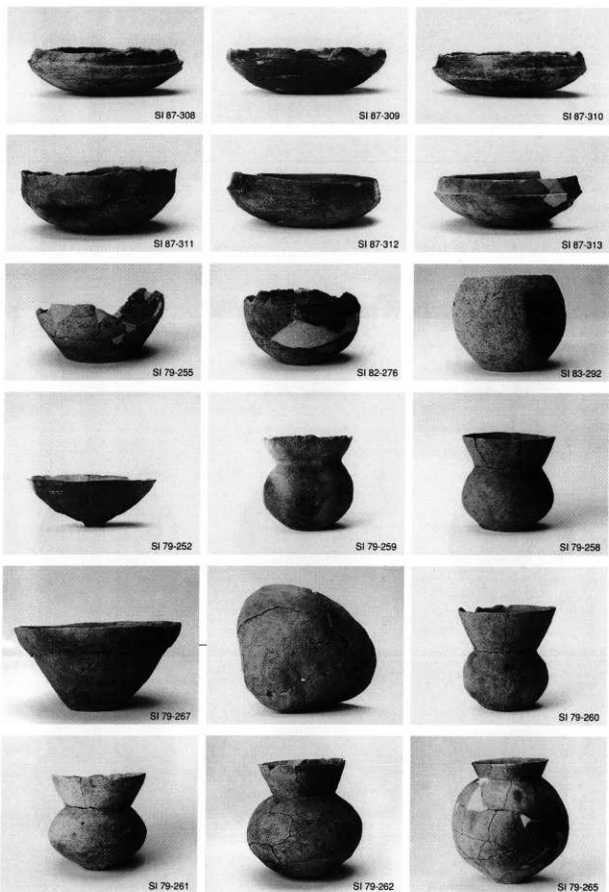


SI 79-251



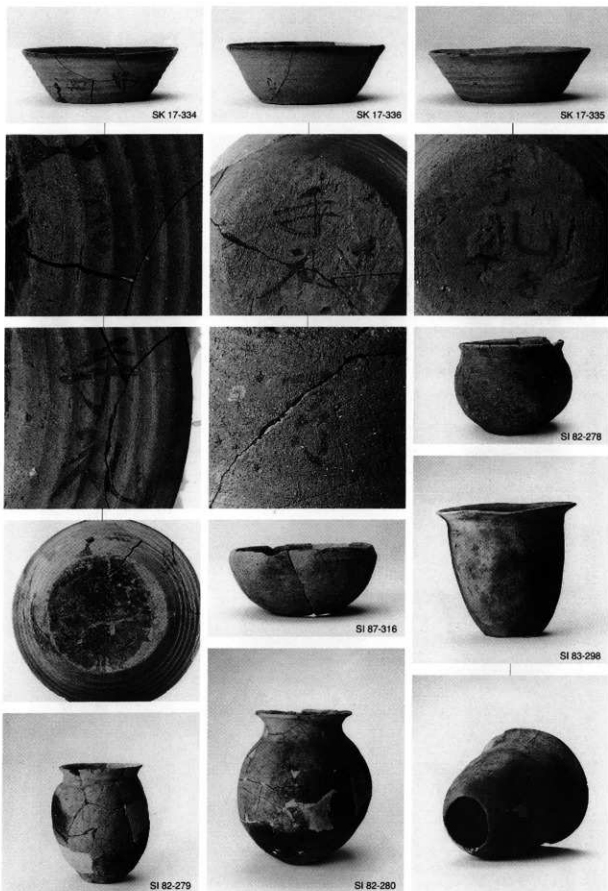
SI 79-248



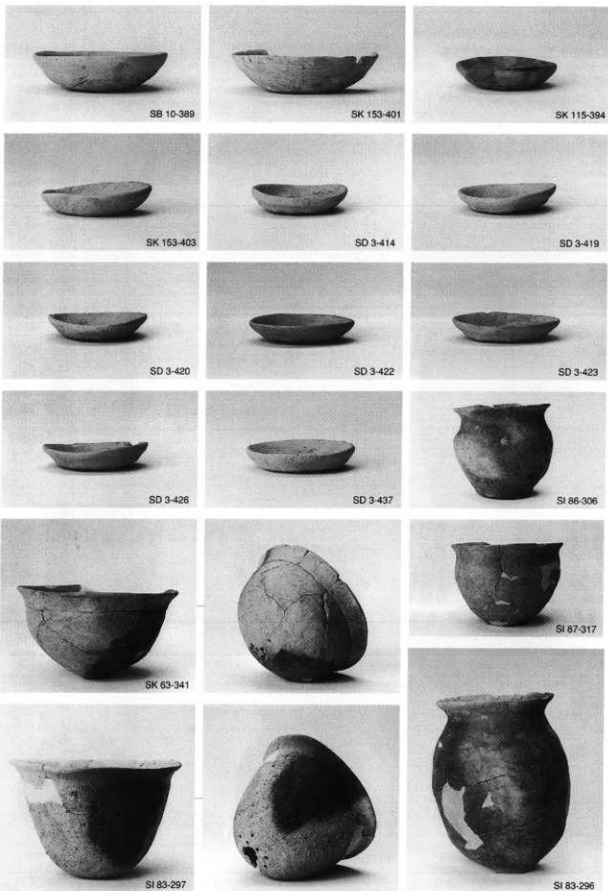


第79・82・83・87号住居跡出土遺物





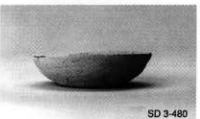
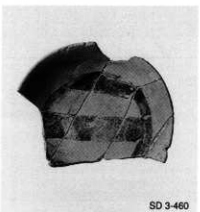
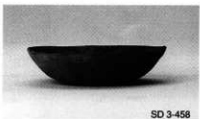
第82・83・87号住居跡，第17号土坑出土遺物



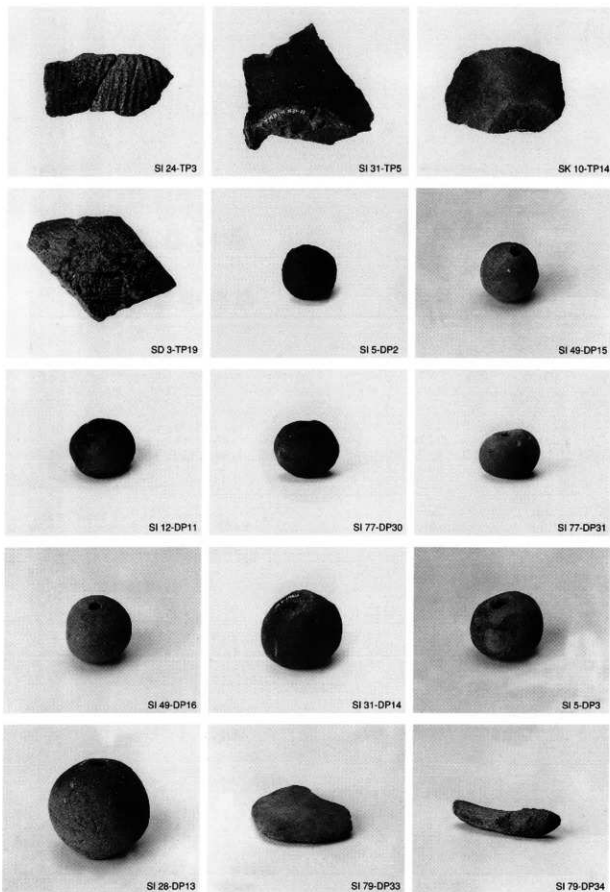
第83・86・87号住居跡，第10号掘立柱建物跡，第63・115・153号土坑，第3号溝跡出土遺物



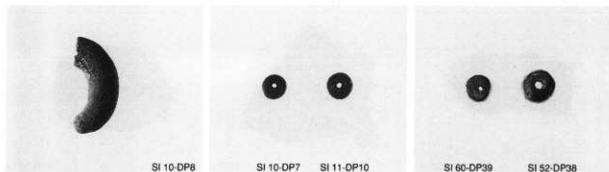
第3号溝跡，第88・228号土坑出土遺物



第3号住居跡，第3・25号溝跡出土遺物



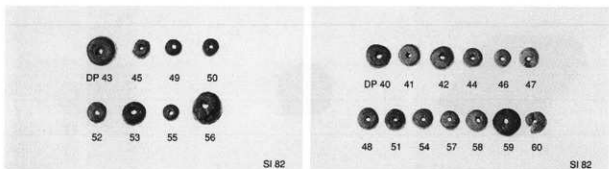
第5・12・24・28・31・49・77・79号住居跡，第10号土坑，第3号溝跡出土遺物



SI 10-DP6

SI 10-DP7 SI 11-DP10

SI 60-DP39 SI 52-DP38



SI 82

SI 82



SI 20-Q11



SI 5-Q2



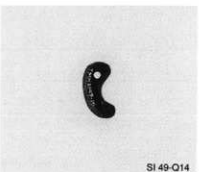
TM 3-Q144



SI 35-Q12



SI 42-Q13



SI 49-Q14



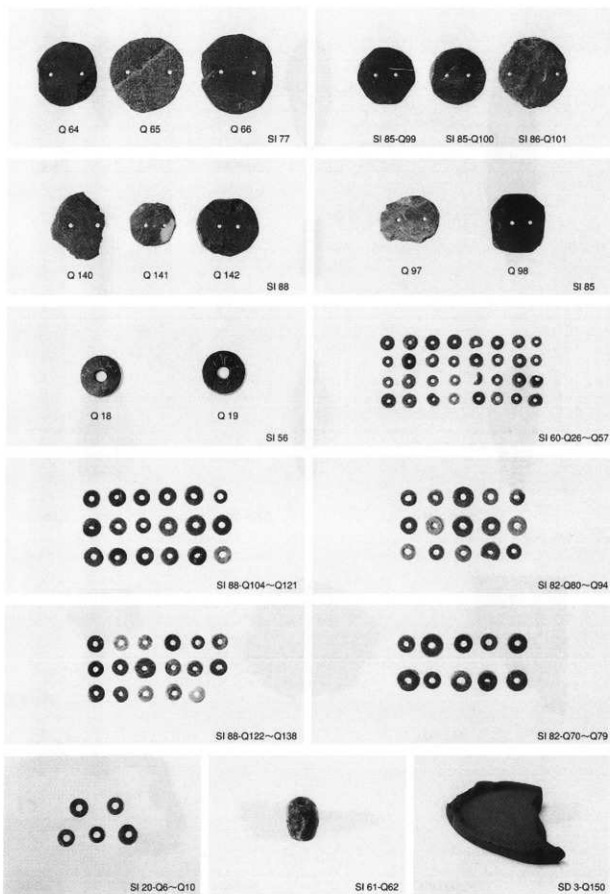
SI 52-Q15



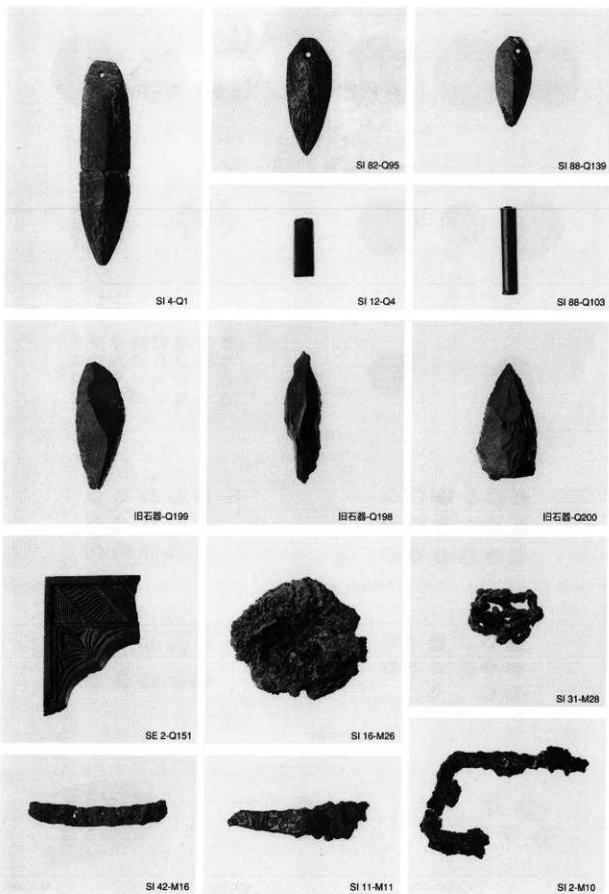
SI 79-Q68



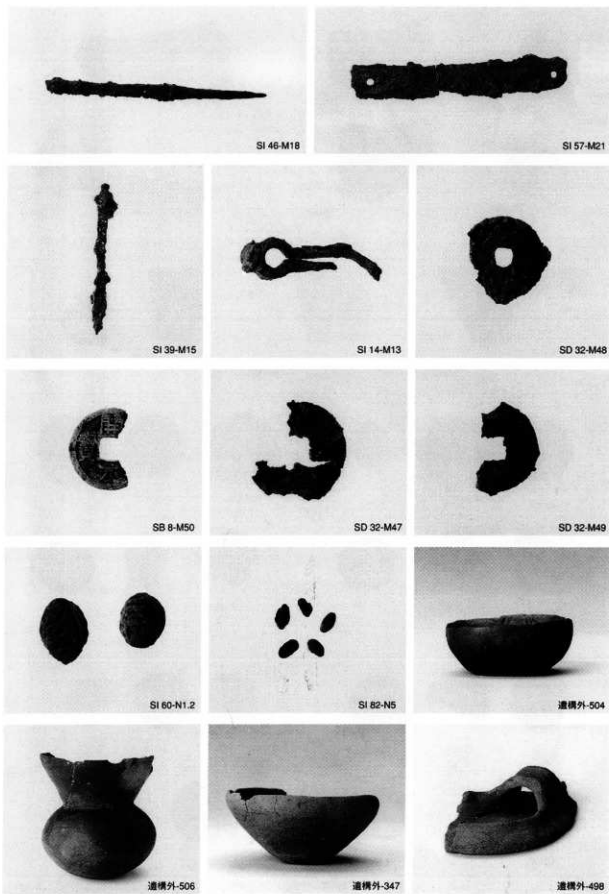
SB 9-Q149



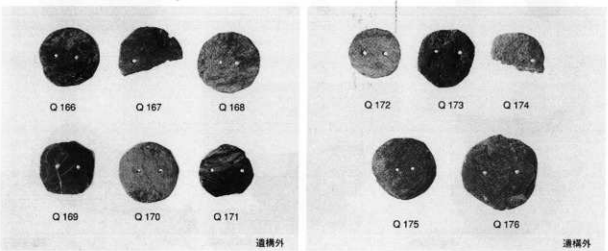
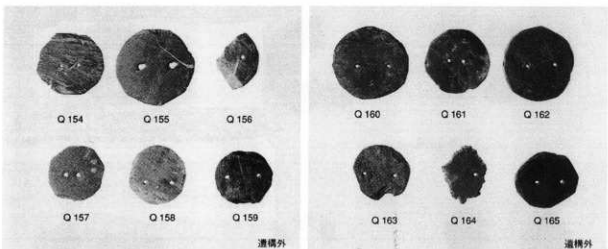
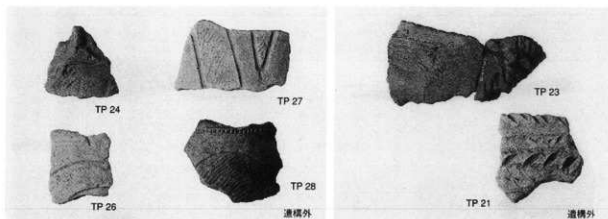
第20・56・60・61・62・77・82・85・86・88号住居跡，第3号清跡出土遺物

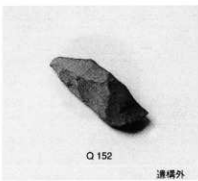
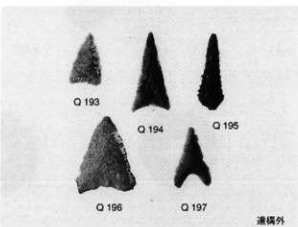
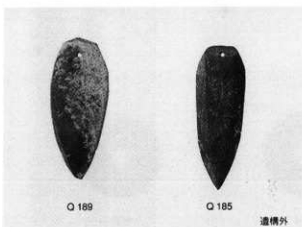
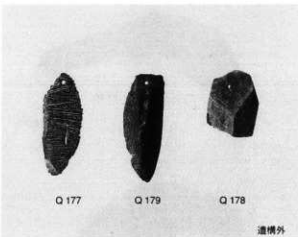
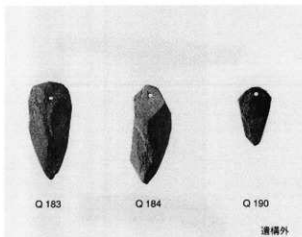
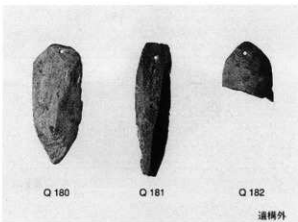
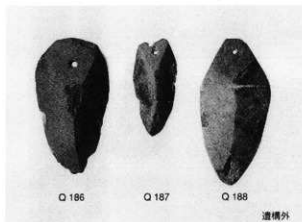


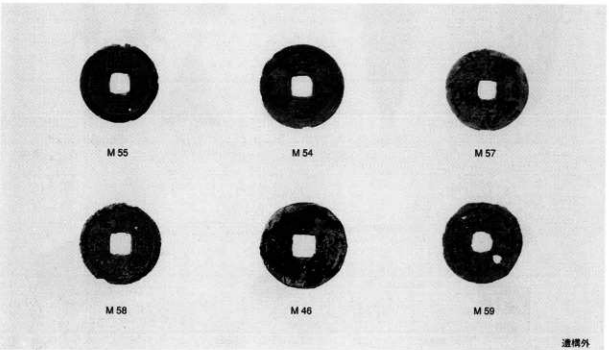
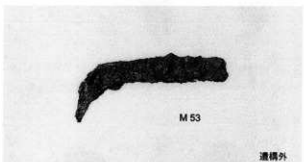
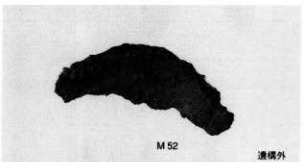
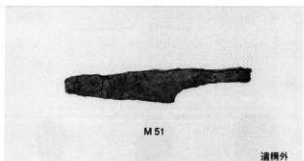
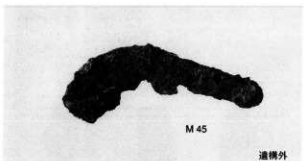
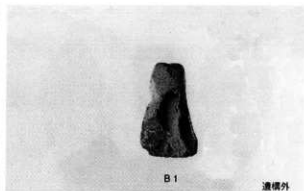
第2・4・11・12・16・31・42・82・88号住居跡，旧石器，第2号井戸跡出土遺物



第14・39・46・57・60・82号住居跡，第32号溝跡，第8号掘立柱建物跡，遺構外出土遺物







茨城県教育財団文化財調査報告第191集

島名前野東遺跡

上 巻

平成14(2002)年3月20日 印刷

平成14(2002)年3月25日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL. 029-225-6587

印刷 富士オフセット印刷株式会社
〒310-0067 水戸市根本3丁目1534-2
TEL. 029-231-4241(代)

付 図

茨城県教育財団文化財調査報告第191集

島名前野東遺跡遺構全体図



付図 島名前野東遺跡全体図